

平成 24 年度  
国分寺市埋蔵文化財調査年報



平成 26 年 3 月  
国分寺市教育委員会



## 序

平成24年度の国庫補助事業による市内遺跡発掘調査の成果を報告いたします。

本調査事業は、国と都から補助金をいただき、主に個人住宅の建設に伴う事前調査と民間開発事業に伴う試掘・確認調査を行っているものです。

調査の中には、比較的小規模なものもありますが、縄文時代の住居跡から土器や石器、奈良・平安時代の瓦や土器、さらに伝鎌倉街道の一部等が発見され、人々の活発な生活の痕跡が明らかになっています。これらの調査成果が、広く学校教育や社会教育の場で活用されることを期待しております。

最後になりましたが、この調査や報告にあたって、多大な御理解と御協力を賜りました事業者をはじめ関係者の皆様に対し、心より御礼申し上げます。

平成26年3月31日

国分寺市教育委員会

教育長 松井 敏夫





## 例 言

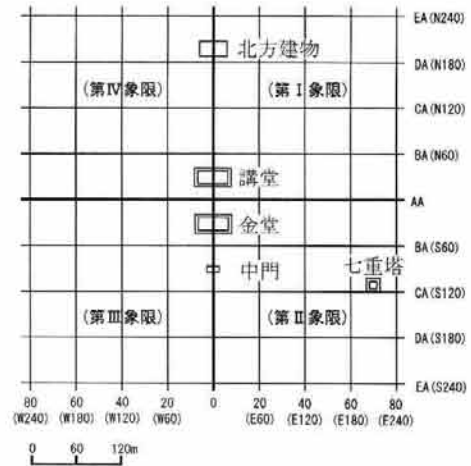
1. 本書は、東京都国分寺市において国分寺市教育委員会が平成24年度国庫補助事業として実施した市内遺跡発掘調査の報告書である。調査対象遺跡は、個人住宅建設に伴う本発掘調査および、集合住宅建設等に伴う確認調査が必要となった5遺跡22地点、その他、周知の遺跡（埋蔵文化財包蔵地）外における遺跡の有無を確認する試掘調査1地点である。
2. 調査費（平成24年度）および出土品等整理・報告書作成費（平成25年度）は「国宝重要文化財等保存整備費補助金」を得て実施した。費用の負担割合は、国1/2、都1/2、市1/4である。
3. 発掘調査は国分寺市教育委員会が調査主体となり、国分寺市遺跡調査会（調査団長坂詰秀一）に委託して調査を行った。調査担当は、国分寺市教育委員会教育部ふるさと文化財課史跡係係長依田亮一、同係上敷領久、中道誠、寺前めぐみ、中元幸二である。
4. 発掘調査および遺物・資料整理作業、報告書作成業務は、同課職員の他、下記の国分寺市遺跡調査会、国分寺市シルバー人材センター、国分寺市ふるさと文化財愛護ボランティア（史跡発掘ボランティア）が従事した。（五十音順・敬称略）

青山達夫、井口正利、伊藤直美、大塚敦子、大羽正子、小野祐子、桂弘美、佐々木義身、佐藤令、島田智博、相馬しのぶ、高橋より子、平塚恵介、藤崎努、山口啓子
5. 本書の執筆は、中道（第1～3章）・上敷領（第2章第8・9・11～20・22・23・26～28出土遺物観察表）が担当し、依田、中元がこれを補佐した。
6. 本書の挿図・表等の作成は、マイクロソフト社「ワード」・「エクセル」、アドビ社「イラストレーター」・「フォトショップ」の各ソフトを用いた。
7. 発掘調査および整理作業、報告書作成の過程で、下記の方々からご教示やご協力を賜りました。記して感謝いたします。（五十音順・敬称略）

東京都教育庁地域教育支援部管理課、梅山伸二・小此木ヒサエ・梶木義治・上村雄三・佐々木義身・田中康敬・藤野敬文（国分寺市文化財愛護ボランティア）、中山真治

## 凡 例

1. 国分寺市では、No.10・19遺跡である武蔵国分寺跡（僧尼寺）の広大な範囲を統一して調査するため、局地座標系を用いている。座標原点は、僧寺の伽藍中軸線を基準に、金堂中心の北26.276mの中軸線上の点（コンクリート埋設）である。僧寺中軸線は、それぞれ真北から $7^{\circ}07'01''$ 、磁北から $0^{\circ}37'01''$ 西偏する。この座標原点を中心に、象限をI～IVに大別し、中心点からの距離をN・S・E・Wで表す。さらに、本文中および図面のグリッド表示の数字は、南と西に接する基準線に与えた記号の組み合わせにより呼称する。東西基準線はアルファベット2文字で表す。1文字目は原点をAとし、60mごとにB・C・D…とふり、2文字目はその内を3mごとに20区に分けA～Tとふった。南北基準線は数字で表し、原点を0とし、以下東西ともに3mごとに1・2・3…とふった。なお、遺跡記号はMKにI～IVの各象限を続けたものに調査次数を付して表示している。



武蔵国分寺跡の調査基準線

2. 上記以外の市内遺跡の座標は世界測地系の第9系を用いる。ただし、その基準点は平成23年3月11日の東北地方太平洋沖地震の影響を受けて変動しているため、従来の測量成果を使用している。

3. 国分寺市域で用いる層位区分は、表土（I層）下の黒褐色土を、より黒色味が強い上層（II層）とローム層への漸移層である下層（III層）に細分している。そのため、黒色土をII層、III層以下をローム層にあてる一般的な立川ローム層の区分とは呼称が異なっている。今回報告する調査区は武蔵野段丘面と立川段丘面とに存在するが、堆積土は下記のとおりほぼ共通した層序を示す。

I層 表土・近現代盛土および、耕作土。層厚30～50cm。

II層 黒褐色土。粒子が粗い。しまりはやや弱い。粘性は弱い。古代～中世の遺物を包含し、古代の遺構堆積土に似る。層厚約10～15cmだが、市内ではすでに削平されていることが多い。

III a層 黒褐色土。粒子はやや粗い。粘性はやや弱い。層厚約10～15cm。本来であれば、古代の遺構確認面であるが、II層と類似した土質からこの下層において検出することが多い。

III b層 暗褐色土。III a層より明度が強く、褐色味が強くなる。軟質で粘性やや弱いが、III c層に近づくに連れて粘性が強くなる。縄文時代中期の遺物を包含する。層厚約30～40cm。

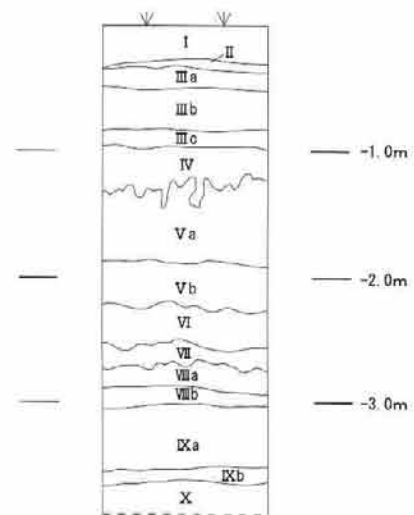
III c層 茶褐色土・暗黄褐色土。縄文時代早・前期の遺物を包含する。ローム層への漸移層で、赤色スコリアを多量に含む。層厚約10～15cm。

IV層 黄褐色土。ソフトローム。V層との境は凹凸が激しい。層厚約15～25cm。

V a層 黄褐色土。ハードローム。色調によってa・bの2層に分けられる。下層にいくに従い黄色味薄くなり灰褐色味を帯びてくる。漸移的に変化する。赤色・黒色スコリアを多量に含む。部分的にV b層と中間の色調を有する部分がV b層上部にある。

V b層 暗灰褐色土。ハードローム。色調はV aとVI層の中間。

VI層 暗褐色土。立川ローム第一黒色帯。スコリアは細かく、全体に粒子緻密。やや粘性増す。



国分寺市内の平均的な層序

Ⅶ層 黄褐色土。黄色味強く明るい。Ⅷ層へは漸移的に移行し境やや不明瞭。削るとジャリジャリする（A T層）。

Ⅷa層 褐色土。立川第二黒色帯。成分的にはⅦ層下部に似て、やや暗くなり始めるところから本層とし、削るとジャリジャリする。

Ⅷb層 暗褐色土。立川第二黒色帯。さらに暗くなる。粒子細かく、緻密になり粘性がでてくる。

Ⅷc層 暗褐色土。立川第二黒色帯。緻密で粘性が強くなる。

Ⅷd層 Ⅷ層からⅨ層への漸移層

Ⅸ層 黒褐色土。立川第二黒色帯。より黒色味が増し、細粒で、下部にいくに従い、緻密となり、粘性が強くなる。下部の5～10cmはⅩ層の影響が明るい部分もある。

Ⅹ層 黄褐色土。粒子極めて細かく、緻密で粘性のあるローム。

4. 調査における写真記録は、原則2種類の35mmフィルム（カラーポジ・モノクロネガ）とデジタルカメラを併用して行った。また、場合によっては中判フィルム（モノクロネガ）にて記録した。

5. 現地での記録図面については、全体図は1/100、遺構平面図は1/20、断面図は1/20で統一している。

6. 調査地位置図・遺構図面は、図面上が座標北である。縮尺は適宜スケールバーで示した。調査位置図は、縮尺を1/2,500に統一した。また、土層断面図および柱状図の縮尺は1/40に統一した。

7. 遺跡名については、No.10・19遺跡以外の調査については、Kに遺跡番号を続けたものに次数を付して表示している。

8. 遺構は遺跡ごとにほぼ発見順に連続番号を付し、下記の遺構記号を冠して表示する。また、縄文時代の遺構は遺構番号末尾にJを付して区別し、Pは遺構記号の後ろにJを付して歴史時代の遺構と区別する。

SI：竪穴住居 SD：溝 SF：道路 SK：土坑 SX：性格不明遺構 P：小穴

9. 遺物は各調査において種別毎に連続番号を付し、下記の遺物記号を冠して表示する。

歴史時代

土器類 PH：土師器 PK：須恵器 PL：土師質土器 PN：灰釉陶器 PT：中近世陶器

瓦埴類 KC：男瓦 KD：女瓦 KH：埴

石製品 GL：砥石

金属類 MY：鉄滓

縄文時代

土器類 JE：中期前半 JF：中期後半 JJ：時期不明

土製品 DE：土製円板

石器類 AG：打製石斧 AT：剥片

10. 遺物の縮尺は次のとおりに統一し、適宜スケールバーで示した。また、写真図版についても、おおむね下記のスケールに統一している。

土器類 1/3 瓦 1/4 鉄滓 1/2 縄文時代石器 1/3

11. 遺物の記述については一覧表とし、原則として図面番号順に列記してある。遺物観察表における法量のうち、完存しているものは括弧なしで全長数値を表し、( )は残存数値、(( ))は復元数値を表す。「-」は計測できないものを表す。

# 本 文 目 次

序	
例 言	
凡 例	
本文目次	
挿図・写真目次	
表目次	
第1章 埋蔵文化財行政のあらまし	9
第2章 平成24年度に実施した発掘調査	
第1節 遺跡の概要	18
第2節 本発掘調査	
(1) 武蔵国分寺跡第677次	19
(2) 武蔵国分寺跡第679次	20
(3) 武蔵国分寺跡(尼寺)第681次	21
(4) 武蔵国分寺跡第682次	24
(5) 武蔵国分寺跡第684次	25
(6) 武蔵国分寺跡第685次	29
(7) 武蔵国分寺跡第689次	31
(8) 武蔵国分寺跡第693次	33
(9) 恋ヶ窪遺跡第91次	34
(10) 恋ヶ窪遺跡第92次・東山道武蔵路第3次	35
第3節 確認調査	
(1) 武蔵国分寺跡第676次	60
(2) 武蔵国分寺跡第678次	62
(3) 武蔵国分寺跡第683次	66
(4) 武蔵国分寺跡第687次	73
(5) 武蔵国分寺跡第688次	75
(6) 武蔵国分寺跡第690次	77
(7) 武蔵国分寺跡第691次	78
(8) 武蔵国分寺跡第692次	79
(9) 武蔵国分寺跡(尼寺)第694次	81
(10) 殿ヶ谷戸北遺跡第4次	85
(11) No.37 遺跡第9次	86
(12) 東山道武蔵路第2次	88
第4節 試掘調査	
(1) 東恋ヶ窪6-10-5地点	90
第3章 まとめ	91

- 第97図 SI815 使用時全景（南から）  
 第98図 SK3434 完掘状況（北から）  
 第99図 SI815・SK3434 完掘状況（南から）  
 第100図 SK3433 断面（南から）  
 第101図 出土遺物実測図（歴史時代土器1/3・瓦1/4）  
 第102図 出土遺物写真  
 第103図 MK I -687 調査地位置図  
 第104図 調査区全景（東から）  
 第105図 調査区全景（北から）  
 第106図 MK I -687 調査地全体図（1/250）・断面図（1/40）  
 第107図 MK I -688 調査地位置図  
 第108図 MK I -688 調査地全体図（1/400）・断面図（1/40）  
 第109図 Aトレンチ全景（南から）  
 第110図 Bトレンチ全景（南から）  
 第111図 出土遺物実測図（縄文土器1/3）  
 第112図 出土遺物写真  
 第113図 MK III -690 調査地位置図  
 第114図 調査区全景（西から）  
 第115図 MK III -690 調査地全体図（1/400）  
 第116図 MK III -691 調査地位置図  
 第117図 MK III -691 調査地全体図（1/200）  
 第118図 Aトレンチ全景（西から）  
 第119図 Bトレンチ全景（東から）  
 第120図 MK I -692 調査地位置図  
 第121図 調査区全景（北から）  
 第122図 P-1 断面（東から）  
 第123図 MK I - 692 調査区土層柱状図  
 第124図 MK I - 692 調査地全体図（1/250）・遺構断面（1/40）  
 第125図 MK III -694 調査地位置図  
 第126図 武蔵国分尼寺・推定鎌倉街道位置  
 第127図 MK III -694 調査地全体図（1/200）  
 第128図 MK III -694 調査区平面図（1/60）  
 第129図 調査区全景（北西から）  
 第130図 調査区全景（北から）  
 第131図 SD34・335, SF 5 確認状況（西から）  
 第132図 SF 5 確認状況（東から）  
 第133図 SF 5 確認状況北側近影（東から）  
 第134図 SF 5 確認状況南側近影（東から）  
 第135図 出土遺物実測図（歴史時代土器1/3）  
 第136図 出土遺物写真  
 第137図 K 20- 4 調査地位置図  
 第138図 K 20- 4 調査地全体図（1/400）  
 第139図 調査区全景（北から）  
 第140図 出土遺物実測図（縄文土器1/3）  
 第141図 出土遺物写真  
 第142図 K 37- 9 調査地位置図  
 第143図 Aトレンチ縄文時代確認状況全景（西から）  
 第144図 Aトレンチ旧石器時代確認状況全景（東から）  
 第145図 Bトレンチ調査区全景（北から）  
 第146図 K 37- 9 調査地全体図（1/300）・土層柱状図垂直（1/100）・水平（1/300）・断面図（1/60）  
 第147図 K 58- 2 調査地位置図  
 第148図 K 58- 2 調査地全体図（1/250）  
 第149図 東山道武蔵路推定通過ライン  
 第150図 Aトレンチ全景（南から）  
 第151図 Bトレンチ全景（東から）  
 第152図 Cトレンチ全景（南から）  
 第153図 東恋ヶ窪6-10-5地点調査地位置図  
 第154図 東恋ヶ窪6-10-5地点調査地全体図（1/250）  
 第155図 調査区全景（東から）

## 表 目 次

- 第1表 届出・通知および調査件数  
 第2表 届出・通知の指示内容と割合  
 第3表 発掘調査面積の推移  
 第4表 平成24年度届出・通知一覧1  
 第5表 平成24年度届出・通知一覧2  
 第6表 平成24年度届出・通知一覧3  
 第7表 平成24年度届出・通知一覧4  
 第8表 MK III - 681 遺物観察表（鉄滓）  
 第9表 MK I - 684 遺物観察表（歴史時代土器）  
 第10表 MK I - 684 遺物観察表（瓦）  
 第11表 MK I - 689 遺物観察表（縄文時代土器）  
 第12表 MK I - 689 遺物観察表（石器）  
 第13表 K 2 - 92 遺物観察表（縄文時代土器）1  
 第14表 K 2 - 92 遺物観察表（縄文時代土器）2  
 第15表 K 2 - 92 遺物観察表（縄文時代土器）3  
 第16表 K 2 - 92 遺物観察表（縄文時代土器）4  
 第17表 K 2 - 92 遺物観察表（縄文時代土器）5  
 第18表 K 2 - 92 遺物観察表（土製品）  
 第19表 K 2 - 92 遺物観察表（石器）  
 第20表 MK II - 676 遺物観察表（歴史時代土器）  
 第21表 MK II - 676 遺物観察表（瓦）  
 第22表 MK II - 676 遺物観察表（石製品）  
 第23表 MK III - 683 遺物観察表（歴史時代土器）  
 第24表 MK III - 683 遺物観察表（瓦）  
 第25表 MK III - 683 遺物観察表（埴）  
 第26表 MK I - 688 遺物観察表（縄文時代土器）  
 第27表 MK III - 694 遺物観察表（歴史時代土器）  
 第28表 K 20 - 4 遺物観察表（縄文時代土器）

# 挿 図 ・ 写 真 目 次

- 第1図 国分寺市の地形模式図
- 第2図 国分寺崖線と湧水
- 第3図 発掘調査面積の推移
- 第4図 史跡発掘現場見学会風景
- 第5図 史跡発掘ボランティア活動風景
- 第6図 平成24年度調査地位置図
- 第7図 武蔵国分寺跡伽藍配置模式図
- 第8図 MK II -677 調査地位置図
- 第9図 MK II -677 調査地全体図 (1/200)
- 第10図 調査区全景 (東から)
- 第11図 MK II -679 調査地位置図
- 第12図 MK II -679 調査地全体図 (1/200)
- 第13図 調査区全景 (南から)
- 第14図 MK III -681 調査地位置図
- 第15図 調査区全景 (西から)
- 第16図 MK III -681 調査地全体図 (1/150)・遺構断面図 (1/40)
- 第17図 P-1 遺構断面 (北から)
- 第18図 P-2 遺構断面 (北から)
- 第19図 出土遺物実測図 (鉄滓 1/2)
- 第20図 出土遺物写真
- 第21図 MK I -682 調査地位置図
- 第22図 調査区全景 (西から)
- 第23図 MK I -682 調査地全体図 (1/250)
- 第24図 MK I -684 調査地位置図
- 第25図 MK I -684 調査区土層柱状図
- 第26図 調査区西側 (南から)
- 第27図 調査区東側 (南から)
- 第28図 MK I -684 調査地全体図 (1/150)
- 第29図 SK3435 断面図 (1/40)
- 第30図 SK3435 断面 (東から)
- 第31図 出土遺物実測図 (歴史時代土器 1/3・瓦 1/4)
- 第32図 出土遺物写真
- 第33図 MK I -685 調査地位置図
- 第34図 Aトレンチ全景 (北から)
- 第35図 Bトレンチ全景 (西から)
- 第36図 Cトレンチ全景 (東から)
- 第37図 MK I -685 調査地全体図 (1/200)・断面図 (1/40)
- 第38図 MK I -689 調査地位置図
- 第39図 MK I -689 調査地全体図 (1/200)
- 第40図 MK I -689 調査区土層柱状図
- 第41図 調査区全景 (東から)
- 第42図 出土遺物実測図 (1/3)
- 第43図 出土遺物写真
- 第44図 MK II -693 調査地位置図
- 第45図 MK II -693 調査区土層柱状図
- 第46図 MK II -693 調査地全体図 (1/200)
- 第47図 調査区全景 (西から)
- 第48図 K2-91 調査地位置図
- 第49図 K2-91 調査地全体図 (1/200)
- 第50図 調査区全景 (西から)
- 第51図 K2-92 調査地位置図
- 第52図 K2-92 調査地全体図 (1/150)・SD 5 平面図・断面図 (1/60)
- 第53図 SI159J 平面図・断面図 (1/60)
- 第54図 遺構断面図 (1/40)
- 第55図 Aトレンチ (東から)
- 第56図 SI159J 使用時全景 (北から)
- 第57図 SI159J 構築時全景 (東から)
- 第58図 SI159J 遺物出土状況 (北から)
- 第59図 SI159J 北壁断面 (南から)
- 第60図 Bトレンチ全景 (西から)
- 第61図 Cトレンチ全景 (南から)
- 第62図 Dトレンチ全景 (東から)
- 第63図 出土遺物実測図 1 (縄文土器 1/3)
- 第64図 出土遺物実測図 2 (縄文土器 1/3)
- 第65図 出土遺物実測図 3 (縄文土器 1/3)
- 第66図 出土遺物実測図 4 (縄文土器 1/3)
- 第67図 出土遺物実測図 5 (縄文土器 1/3)
- 第68図 出土遺物実測図 6 (縄文土器 1/3)
- 第69図 出土遺物実測図 7 (縄文土器 1/3)
- 第70図 出土遺物実測図 8 (縄文土器・石器 1/3)
- 第71図 出土遺物写真 1
- 第72図 出土遺物写真 2
- 第73図 出土遺物写真 3
- 第74図 出土遺物写真 4
- 第75図 出土遺物写真 5
- 第76図 出土遺物写真 6
- 第77図 出土遺物写真 7
- 第78図 MK II -676 調査地位置図
- 第79図 MK II -676 調査区土層柱状図
- 第80図 MK II -676 調査地全体図 (1/250)
- 第81図 Aトレンチ全景 (南から)
- 第82図 Bトレンチ全景 (西から)
- 第83図 MK I -678 調査地位置図
- 第84図 調査区全景 (西から)
- 第85図 MK I -678 調査地全体図 (1/150)
- 第86図 SX334 全景 (北から)
- 第87図 遺構断面図 (1/80)
- 第88図 出土遺物実測図 (縄文土器・石製品 1/3)
- 第89図 出土遺物写真
- 第90図 MK III -683 調査地位置図
- 第91図 MK III -683 調査地全体図 (1/250)
- 第92図 遺構平面図・断面図 (1/60)
- 第93図 遺構断面図 (1/60)
- 第94図 調査区北側全景 (西から)
- 第95図 調査区中央全景 (北から)
- 第96図 調査区南側全景 (西から)



## 第1章 埋蔵文化財行政のあらまし

国分寺市は、通称「ハケ」と呼ばれる国分寺崖線を境として、地形的に北と南に分けられています。国分寺崖線は、古多摩川が武蔵野台地を10万年以上の歳月をかけて削り取って形成された河岸段丘の連なりを指し、東西の長さは約30kmにわたります。北と南の標高差（崖高）は10～20mをはかります。崖面には樹林や湧水などの豊かな自然環境が見られ、この崖線上を武蔵野段丘、崖下を立川段丘と呼んでいます。立川段丘は約4～5万年前に形成されましたが、本多谷・殿ヶ谷戸谷・さんや谷・恋ヶ窪谷のようにいくつもの溺れ谷が残っているため、崖線下から湧く水はこれらの谷を通して集まり野川となります。

こうした起伏に富む豊かな自然環境のもと、野川を中心に市内には人類が日本列島に住み始めた旧石器時代以来の生活痕跡が多く残されています。そして、奈良時代には、市名の由来となった武蔵国分寺が国分寺崖線を背にして建立されました。

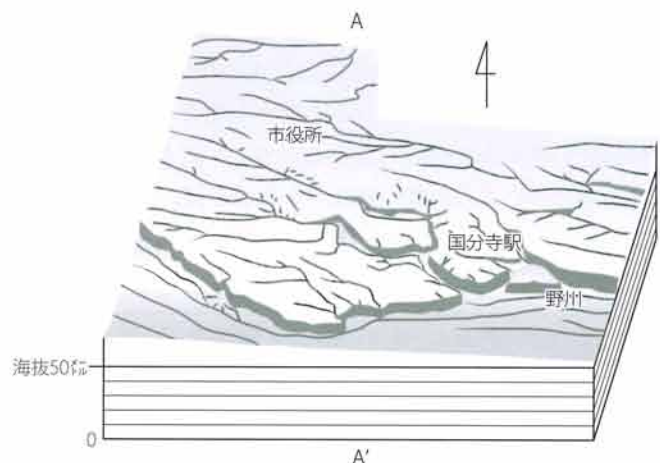
先人がこの土地に残した遺構や遺物（埋蔵文化財）を保存・活用し、現在を生きる私たちの文化的向上に役立てていくことは大切なことです。「文化財保護法」（以下「法」という）では、国や地方公共団体に対し、遺跡である「埋蔵文化財を包蔵する土地」（以下「包蔵地」という）を的確に把握し、周知の徹底に努めるように求めています（法第95条第1項）<sup>※1</sup>。

国分寺市では、現在58か所の包蔵地が確認されています。そのうち、武蔵国分寺跡の中枢部周辺と、東山道武蔵路の一部については、国の史跡に指定されています。

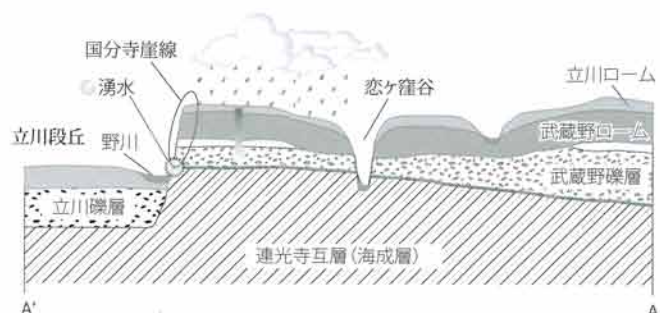
包蔵地の範囲内で土木工事を行う場合には、埋蔵文化財保護の観点から、法に基づいて、着手しようとする日の60日前までに届出（法第93条第1項）<sup>※2</sup>、もしくは通知（法第94条第1項）<sup>※3</sup>を行う必要があります。

届出（通知）は国分寺市教育委員会を通して東京都教育委員会に進達され、工事が埋蔵文化財に与える影響を考慮して必要な措置が都から届け出者に対して指示されます。

市内では、地表からおよそ40～100cm下に遺構が眠っており、工事がこれより深い場合は埋蔵文化財の保存に影響が及ぶ可能性があります。その影響が軽微な場合には、市職員の立会のもとに工事を行います（立会調査）。埋蔵文化財が壊される可能性がある場合、遺跡の状況を探る確



第1図 国分寺市の地形模式図



第2図 国分寺崖線と湧水

## 第1章 埋蔵文化財行政のあらまし

認調査を行い、その結果、事業者と協議の上でやむを得ず開発により遺跡を壊すことになった場合には、事前に記録保存調査を行います（本調査・事前調査）。その費用については原因者に負担をお願いしています。

国指定史跡（武蔵国分寺跡 附東山道武蔵路跡）内で工事などによって現状を変更する場合には、文化庁長官の許可を受けなければなりません（法第125条）<sup>※4</sup>。また、同工事によって地下を掘削する場合は、さらに埋蔵文化財発掘の届出もしくは通知の提出が必要となります。

※文化財保護法抜粋（昭和25年5月30日法律第214号・最終改正 平成23年5月2日法律第37号）

### ※1（埋蔵文化財包蔵地の周知）第95条第1項

国及び地方公共団体は周知の埋蔵文化財包蔵地について、資料の整備その他その周知の徹底を図るために必要な措置の実施に努めなければならない。

### ※2（土木工事のために発掘に関する届出及び指示）第93条第1項

土木工事その他埋蔵文化財の調査以外の目的で、貝塚、古墳その他の埋蔵文化財を包蔵する土地として周知されている土地（以下「周知の埋蔵文化財包蔵地」という。）を発掘しようとする場合には、前条第1項の規定を準用する。この場合において同項中「30日前」とあるのは、「60日前」と読み替えるものとする。（調査のための発掘に関する届出、指示及び命令）第92条第1項

土地の埋蔵されている文化財（以下「埋蔵文化財」という。）について、その調査のため土地を発掘しようとする者は、文部科学省の定める事項を記載した書面をもって、発掘に着手しようとする日の30日前までに文化庁長官に届け出なければならない。

### ※3（国の機関等が行う発掘に関する特例）法第94条第1項

国の機関（中略）が前条第1項に規定する目的で周知の埋蔵文化財包蔵地を発掘しようとする場合においては、同条の規定を適用しないものとし、当該国の機関等は、当該発掘に係る事業計画の策定に当たって、あらかじめ文化庁長官にその旨を通知しなければならない。

### ※4（現状変更等の制限及び原状回復の命令）第125条

史跡名勝天然記念物に関しその現状を変更し、又はその保存に影響を及ぼす行為をしようとするときは、文化庁長官の許可を受けなければならない。ただし、現状変更については維持の措置（中略）、保存に影響を及ぼす行為については影響の軽微である場合は、この限りではない。

第1表 届出・通知および調査件数

	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
93条	141	152	151	146	170
94条	27	20	38	42	49
125条	5	5	4	2	7
計	173	177	193	190	226
調査	19	15	22	20	23

第2表 届出・通知の指示内容と割合

指示内容内訳	件数	割合
事前調査	11	5%
確認調査	15	7%
立会調査	193	88%
慎重工事	0	0%

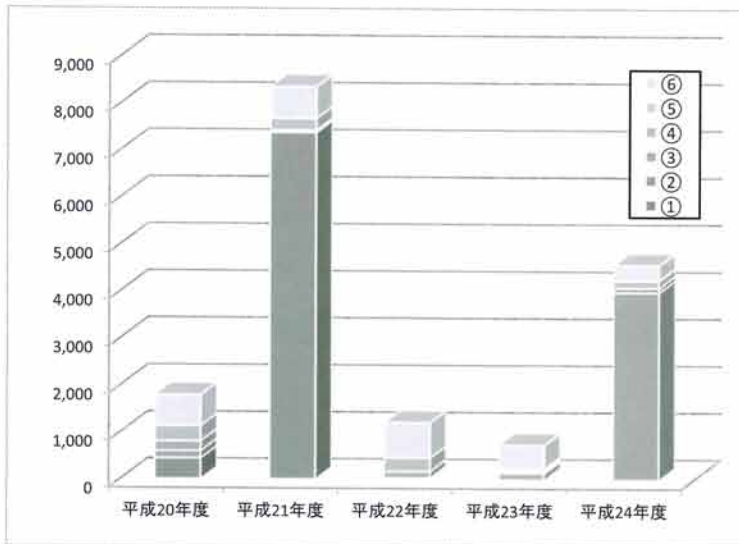
※平成24年度届出・通知のうち93条2件、94条1件は事業中止。

近年の埋蔵文化財の届出・通知はおおむね170～190件程度で推移していましたが、平成24年度は増加し、200件を超えました。平成24年度における史跡の現状変更許可申請（法第125条）は武蔵国分寺跡の学術調査および史跡整備工事の市立歴史公園整備事業に伴う国分寺市教育委員会が申請したもの、電気、ガス、水道工事等に伴う申請です。平成24年度における発掘調査の指示は26件ありましたが、次年度に行った調査が3件あったため、調査件数は23件となっています。



第3表 発掘調査面積の推移

		平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
土木工事等に伴う調査	事業者負担による調査	①民間企業	445	7374	28	0	0
		②公共機関	153	0	0	0	4000
	補助金による調査	③事前調査	208	46	146	146	94
		④確認調査	328	254	290	50	155
		⑤試掘調査	0	0	0	40	7
学術的調査	⑥遺構確認調査	659	676	749	505	314	



第3図 発掘調査面積の推移

平成21年度は①の増加によって調査面積が急増しましたが、全体的には減少方向で推移してきました。平成24年度は、②における4000㎡の調査が1件行われたことによって、調査面積は増加しています。なお、本書は平成24年度の③・④・⑤の調査成果をまとめています。

なお、国分寺市では現在、法第125条の申請に基づき、史跡武蔵国分寺跡（僧寺）の規模や配置、構造を追究し、歴史公園整備のためとしての開園を目指して事前遺構確認調査や工事を進めています。

また、こうした文化財を保護し、後世に伝えていくために発掘調査以外にも、文化財の調査成果の公開、普及活動など様々な事業を行っています。発掘調査によって出土した土器や瓦は、武蔵国分寺跡資料館や文化財資料展示室（市立第四中学校内）、国分寺駅に隣接する駅ビルCELEOのショーウィンドウ（8階）などで展示を行っています。また、市で刊行した報告書や普及書は、武蔵国分寺跡資料館や市内図書館、市役所オープナー等で閲覧することができます。



第4図 史跡発掘現場見学会風景



第5図 史跡発掘ボランティア活動風景

第4表 平成24年度届出・通知一覧1

(本書掲載調査)

No.	年月日	条	申請地	申請工事内容	指示内容	調査回数
1	H24.4.2	93条	西恋ヶ窪 3-2-31・37	個人住宅	立会調査	
2	H24.4.2	93条	東元町 3-12, 2-13	ガス	立会調査	
3	H24.4.11	93条	西恋ヶ窪 1-11-3	ガス	立会調査	
4	H24.4.11	93条	西恋ヶ窪 1-26-4	電気	立会調査	
5	H24.4.11	93条	泉町 3-33-26	電気	立会調査	
6	H24.4.11	93条	西恋ヶ窪 1-5-38	分譲住宅	立会調査	
7	H24.4.11	93条	西恋ヶ窪 1-5-40	分譲住宅	立会調査	
8	H24.4.13	93条	西恋ヶ窪 3-5-50	個人住宅	立会調査	
9	H24.4.13	93条	南町 2-9-4	ガス	立会調査	
10	H24.4.19	94条	西恋ヶ窪 3-17-4	電話	立会調査	
11	H24.4.19	94条	泉町 1-9-2	電話	立会調査	
12	H24.4.16	93条	東元町 3-16	分譲住宅	立会調査	
13	H24.4.20	93条	東元町 3-2382-28	個人住宅	立会調査	
14	H24.4.23	93条	南町 2-9-6	ガス	立会調査	
15	H24.4.24	93条	西元町 4-1-5	分譲住宅	立会調査	
16	H24.4.23	93条	西恋ヶ窪 1-25-20・23	個人住宅	立会調査	
17	H24.4.24	93条	西恋ヶ窪 1-26-5	ガス	立会調査	
18	H24.4.26	93条	西元町 3-2052-1	分譲住宅	確認調査	MK II -676
19	H24.5.1	94条	西恋ヶ窪 1-1-2 先	水道	立会調査	
20	H24.5.8	94条	泉町 2-2	その他開発 (資材置場)	立会調査	
21	H24.5.14	93条	南町 1-7・10・11 付近	学校建設	確認調査	(平成25年度)
22	H24.5.10	93条	西元町 4-2-18	ガス	立会調査	
23	H24.5.1	93条	光町 1-1-58	個人住宅	立会調査	
24	H24.5.17	93条	南町 1-311-36, 37 の各一部	個人住宅	立会調査	
25	H24.5.15	94条	西元町 3-2-4	個人住宅	事前調査	MK II -679
26	H24.5.18	93条	東恋ヶ窪 1-280	その他開発 (耐震補強工事)	立会調査	
27	H24.5.18	93条	東恋ヶ窪 1-280	その他開発 (自家用発電機基礎)	立会調査	
28	H24.5.21	93条	泉町 1-10-18	ガス	立会調査	
29	H24.5.18	93条	東元町 3-926-7・8	個人住宅	立会調査	
30	H24.5.25	94条	東恋ヶ窪 3-20-28	電話	立会調査	
31	H24.5.25	94条	南町 2-17 番地先	水道	立会調査	
32	H24.5.28	93条	西元町 3-15-13	ガス	立会調査	
33	H24.5.28	93条	東元町 3-12-16	個人住宅	事前調査	MK I -677
34	H24.5.30	93条	西元町 2-9-35	電気	立会調査	
35	H24.5.25	94条	西元町 1-14 から東元町 4-13 番地先間	水道	立会調査	
36	H24.5.30	93条	南町 2-9-2	個人住宅	立会調査	
37	H24.5.31	93条	西恋ヶ窪 1-25-9	水道	立会調査	
38	H24.6.5	93条	西元町 4-2-12	個人住宅	事前調査	MK III -681
39	H24.6.5	93条	西元町 3-15-6	ガス	立会調査	
40	H24.6.5	93条	西元町 1-14-9	分譲住宅	確認調査	MK I -678
41	H24.6.6	93条	東元町 4-18-11	分譲住宅	立会調査	
42	H24.6.6	93条	南町 2-18-6	電気	立会調査	
43	H24.6.4	93条	南町 2-9-6	個人住宅	立会調査	
44	H24.6.11	93条	南町 1-12-19	集合住宅	立会調査	
45	H24.6.12	93条	南町 3-28	ガス	立会調査	
46	H24.6.12	93条	西元町 1-14-9	電気	立会調査	
47	H24.6.14	94条	内藤 2-22 先～25 先	水道	立会調査	
48	H24.6.19	93条	泉町 1-8-19	個人住宅	立会調査	
49	H24.6.19	93条	泉町 1-8-19	個人住宅	事前調査	MK I -682
50	H24.6.22	94条	西元町 2-18-10	水道	立会調査	
51	H24.6.27	93条	西元町 3-14-10	ガス	立会調査	
52	H24.7.2	93条	南町 1-177-19	宅地造成	立会調査	
53	H24.7.4	93条	泉町 1-8	水道・下水	立会調査	
54	H24.7.5	93条	本町 4-23-4	ガス	立会調査	
55	H24.6.14	93条	西元町 3-26	その他開発 (防犯灯)	立会調査	

第5表 平成24年度届出・通知一覧2

No.	年月日	条	申請地	申請工事内容	指示内容	調査回数
56	H24.7.10	94条	泉町2-13番地先	水道	立会調査	
57	H24.7.10	93条	南町1-313-37	個人住宅	立会調査	
58	H24.7.10	94条	西恋ヶ窪1-22-16	下水	立会調査	
59	H24.7.10	93条	日吉町1-43-66	個人住宅	立会調査	
60	H24.7.20	93条	西恋ヶ窪1-5-41	分譲住宅	立会調査	
61	H24.7.20	93条	南町2-1-17	分譲住宅	確認調査	(平成25年度)
62	H24.7.20	94条	泉町3-27～32付近	道路	立会調査	
63	H24.7.23	93条	泉町1-18	ガス	立会調査	
64	H24.7.24	94条	東元町4-5～3-16付近	道路	立会調査	
64	H24.7.25	93条	南町3-28-22	分譲住宅	立会調査	
66	H24.7.25	93条	泉町1-18	ガス	立会調査	
67	H24.7.20	93条	西元町3-3-17	分譲住宅	立会調査	
68	H24.7.20	93条	西恋ヶ窪1-2-23	分譲住宅	立会調査	
69	H24.7.30	93条	西元町2-9-33	電気	立会調査	
70	H24.7.30	93条	東元町4-6-10	電気	立会調査	
71	H24.7.30	93条	東元町4-4	電気	立会調査	
72	H24.7.30	93条	西元町3-15-2	電気	立会調査	
73	H24.7.30	93条	東元町3-2-24	電気	立会調査	
74	H24.4.24	94条	西元町3-10-7及び市道南217号線上	ガス	立会調査	
75	H24.8.2	93条	西元町3-28・29	ガス	立会調査	
76	H24.8.2	94条	泉町2-102-11	その他建物(図書館)	事前調査	MK I -686
77	H24.8.3	93条	西恋ヶ窪3-5-25	その他建物(保育園)	確認調査	K37-9
78	H24.8.3	93条	西元町3-27-9	個人住宅	事前調査	MK I -684
79	H24.8.3	93条	西元町2-3-32	集合住宅	確認調査	MK III -683
80	H24.8.6	93条	東元町2-18	集合住宅	立会調査	
81	H24.8.2	93条	西元町1-14-9	上下水	立会調査	
82	H24.8.15	94条	西元町1-14-9	下水(公柵設置)	立会調査	
83	H24.8.15	93条	南町1-390-7の一部	個人住宅	立会調査	
84	H24.8.24	94条	泉町1-10先	水道	立会調査	
85	H24.8.24	93条	本町4-2876・39,26の一部	個人住宅	立会調査	
86	H24.8.27	93条	西恋ヶ窪1-8-26	分譲住宅	確認調査	K58-4
87	H24.8.27	94条	泉町3-26-32先	水道	立会調査	
88	H24.9.3	93条	東元町3-21-42	個人住宅	事前調査	MK I -685
89	H24.9.3	93条	本多1-4-8	個人住宅	立会調査	
90	H24.9.3	93条	南町1-9-2	集合住宅	確認調査	K20-4
91	H24.9.3	93条	東元町3-31	電気	立会調査	
92	H24.9.3	93条	西恋ヶ窪1-8-26	上下水	立会調査	
93	H24.9.3	93条	東元町3-4-19	その他建物(グループホーム)	確認調査	MK I -688
94	H24.9.6	94条	西恋ヶ窪1-24-16	電話	立会調査	
95	H24.9.6	94条	南町3-28-9	電話	立会調査	
96	H24.9.21	94条	東元町3-26の先	水道	立会調査	
97	H24.9.21	94条	泉町3-32	水道	立会調査	
98	H24.9.24	93条	西恋ヶ窪1-8-26	分譲住宅・ガス・水道・下水	立会調査	
99	H24.9.14	93条	西元町1-13・3-31	ガス	立会調査	
100	H24.9.14	94条	西元町3-4	電話	立会調査	
101	H24.9.21	93条	西元町3-31-17	個人住宅	立会調査	
102	H24.9.28	93条	泉町1-19-6	分譲住宅	立会調査	
103	H24.9.28	94条	西恋ヶ窪1-22-12	浸透柵設置	立会調査	
104	H24.10.1	93条	西恋ヶ窪2-3-32	ガス	立会調査	
105	H24.10.1	93条	西恋ヶ窪1-23-25	ガス	立会調査	
106	H24.10.2	93条	西元町4-1-5	電気	立会調査	
107	H24.10.3	93条	東元町4-10	ガス	立会調査	
108	H24.9.28	93条	西元町2-10-5	分譲住宅	確認調査	MK I -687
109	H24.10.5	94条	日吉町2-9-19先	電話	立会調査	
110	H24.10.5	94条	内藤1-5-28先	電話	立会調査	
111	H24.10.10	93条	泉町1-19	水道	立会調査	



第6表 平成24年度届出・通知一覧3

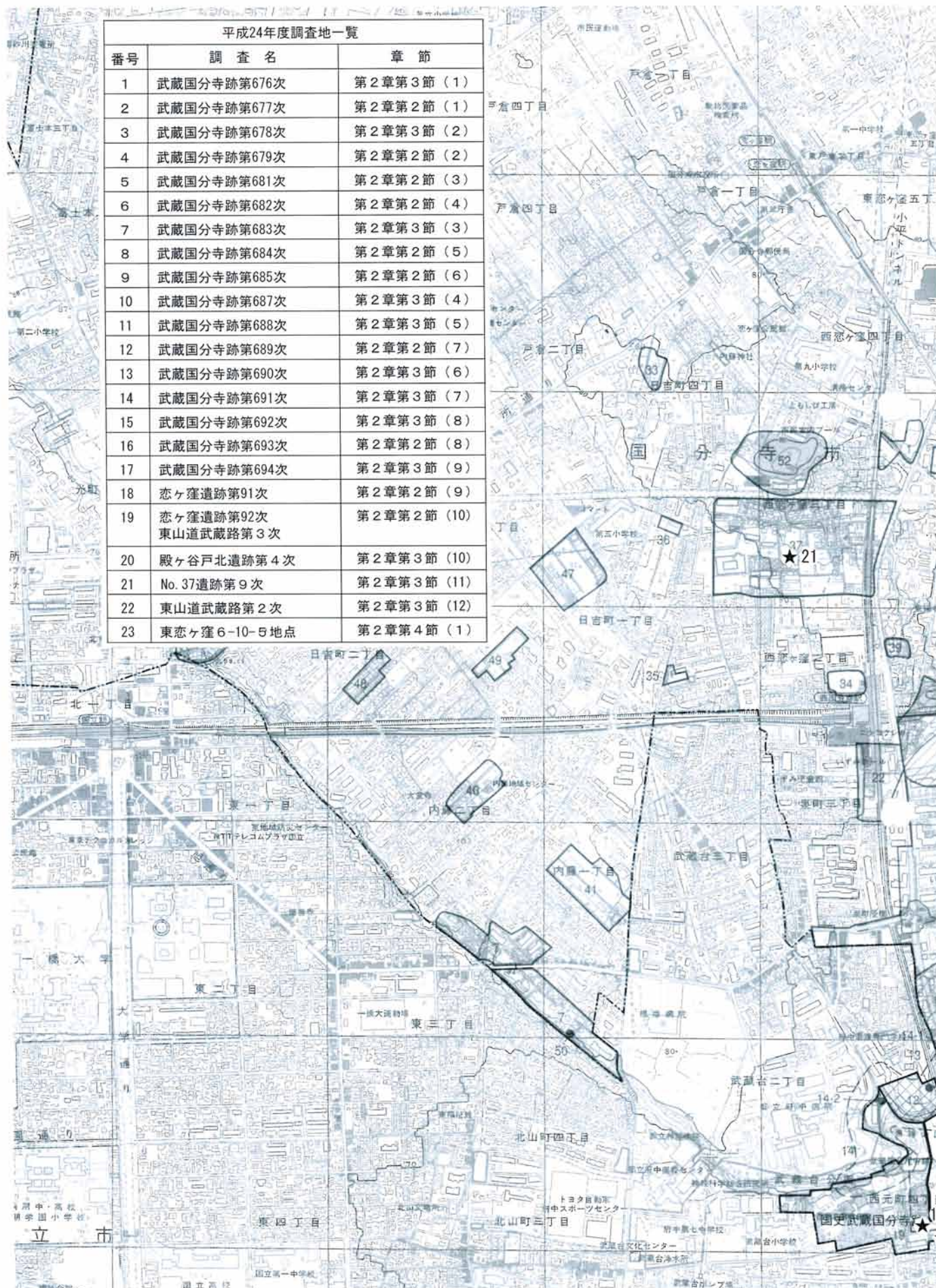
No.	年月日	条	申請地	申請工事内容	指示内容	調査回数
112	H24.10.10	93条	東恋ヶ窪1-280	その他建物(受変電基礎)	立会調査	
113	H24.10.10	93条	西元町1-14-8他1件	ガス	立会調査	
114	H24.10.16	93条	泉町1-2458-13・36	集合住宅	立会調査	
115	H24.10.16	93条	西元町2-3-32	電気	立会調査	
116	H24.10.16	93条	西元町3-3-17	ガス	立会調査	
117	H24.10.16	93条	泉町1-18-19他1件	ガス	立会調査	
118	H24.10.16	93条	西恋ヶ窪3-13-47・62・63	集合住宅	立会調査	
119	H24.10.16	93条	西元町2-2548-8の内	分譲住宅	立会調査	
120	H24.10.16	93条	西元町2-2548-8の内	分譲住宅	立会調査	
121	H24.10.16	93条	内藤1-1先	電気	立会調査	
122	H24.10.18	93条	東元町3-34-3	水道	立会調査	
123	H24.10.19	93条	光町1-1-58	ガス	立会調査	
124	H24.10.19	93条	東元町4-12-7	ガス	立会調査	
125	H24.10.19	93条	西元町2-11-14	水道	立会調査	
126	H24.9.5	93条	東元町4-1713-22	店舗	立会調査	
127	H24.10.24	94条	東元町3-25-17	水道	立会調査	
128	H24.10.24	94条	西元町3-29-14	下水道雨水拵	立会調査	
129	H24.10.24	94条	東元町4-17-2	下水道雨水拵	立会調査	
130	H24.10.24	93条	西恋ヶ窪1-8-26	ガス	立会調査	
131	H24.10.24	93条	東元町4-1760-8の内	分譲住宅	立会調査	
132	H24.10.31	93条	東元町2-18	ガス	立会調査	
133	H24.10.31	93条	泉町1-19 他1件	ガス	立会調査	
134	H24.10.31	93条	南町3-29-18	分譲住宅	立会調査	
135	H24.10.31	94条	東元町1-5～西元町3-16先	水道	立会調査	
136	H24.11.5	94条	泉2-3地先	水道	立会調査	
137	H24.11.5	93条	東元町3-3-33	分譲住宅	立会調査	
138	H24.11.5	93条	南町1-12-8の内	個人住宅	立会調査	
139	H24.11.5	93条	東元町3-34-3	水道	立会調査	
140	H24.11.5	93条	西元町2-3	ガス	立会調査	
141	H24.11.5	94条	内藤1-14～16先	水道	立会調査	
142	H24.11.7	94条	東元町4-5～西元町3-16地先	下水道	立会調査	
143	H24.11.7	93条	東元町2-859-1・14・15、860-3の一部	水道	立会調査	
144	H24.11.7	93条	南町3-29-18	水道	立会調査	
145	H24.11.15	93条	南町2-9-2	ガス	立会調査	
146	H24.11.15	93条	西元町4-2-12	ガス	立会調査	
147	H24.11.15	93条	東恋ヶ窪2-2先	電気	立会調査	
148	H24.11.15	93条	泉町2-2	水道	立会調査	
149	H24.11.8	93条	泉町1-2386-85	宅地造成	立会調査	
150	H24.11.9	93条	日吉町3-3～1-24	ガス	立会調査	
151	H24.11.2	93条	南町1-9-26	ガス	立会調査	
152	H24.11.9	93条	泉町1-8-4	集合住宅	立会調査	
153	H24.11.19	93条	泉町1-10	ガス	立会調査	
154	H24.11.22	93条	西恋ヶ窪3-5-25	ガス	立会調査	
155	H24.11.22	93条	南町1-17-5	電気	立会調査	
156	H24.11.22	93条	南町3-29-18	電気	立会調査	
157	H24.11.27	93条	泉町1-10	ガス	立会調査	
158	H24.11.27	93条	南町1-9-2	ガス	立会調査	
159	H24.11.22	93条	泉町1-7	水道	立会調査	
160	H24.11.22	93条	泉町1-7	ガス	立会調査	
161	H24.11.29	93条	泉町1-10-15	水道	立会調査	
162	H24.11.29	93条	東恋ヶ窪1-280先	電気	立会調査	
163	H24.11.28	93条	本町4-4-25	個人住宅	立会調査	
164	H24.12.4	94条	西恋ヶ窪3-10-6	電話	立会調査	
165	H24.12.4	93条	南町1-9-2	水道	立会調査	
166	H24.12.6	93条	泉町1-1-7の一部	個人住宅	事前調査	MK I-689
167	H24.12.6	93条	東元町3-31-6	ガス	立会調査	

第7表 平成24年度届出・通知一覧4

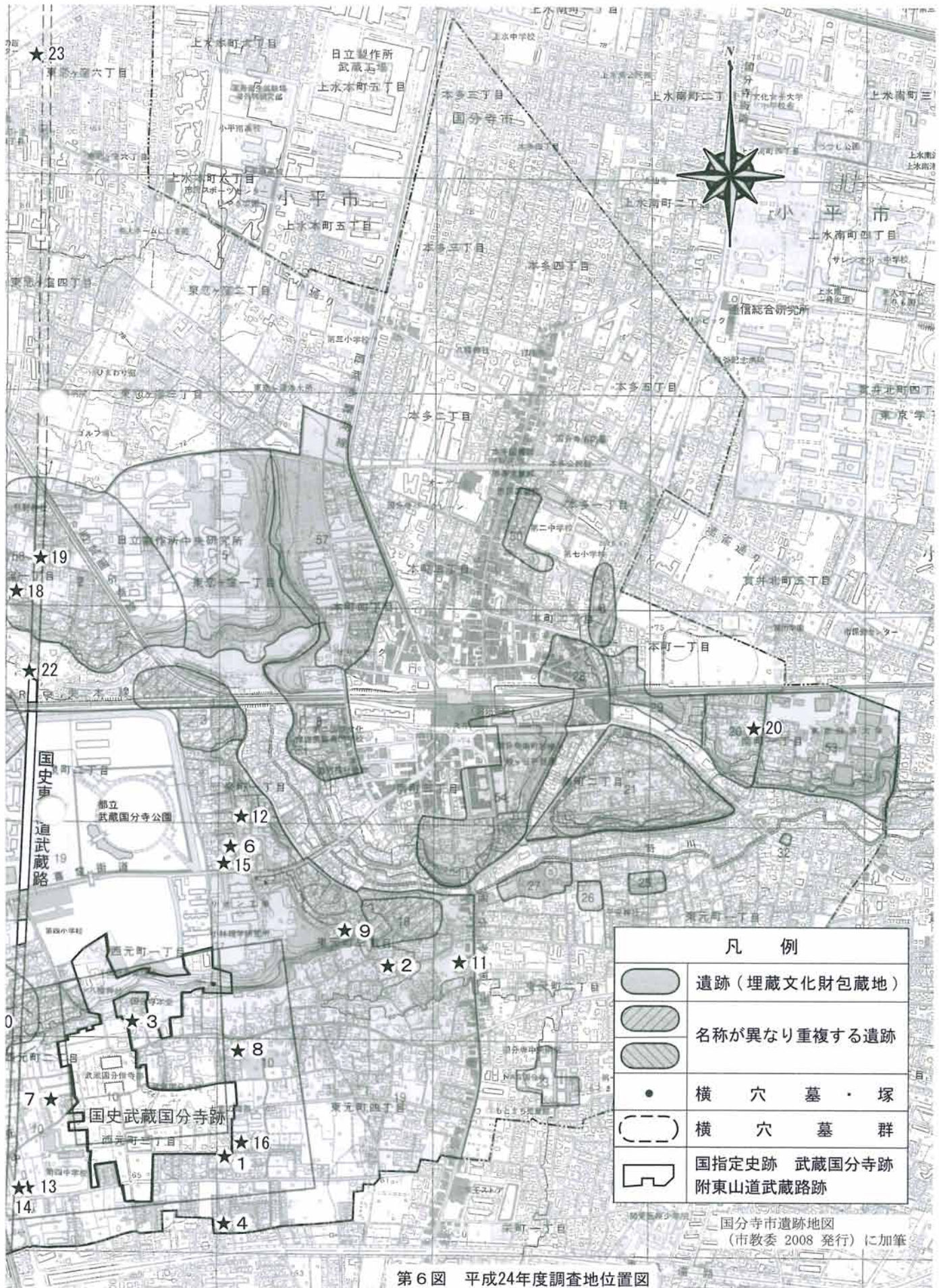
No.	年月日	条	申請地	申請工事内容	指示内容	調査回数
168	H24.12.11	94条	西元町4-1-5先	下水道	立会調査	
169	H24.12.6	94条	泉町1-8先	下水道	立会調査	
170	H24.11.15	94条	西元町3-18-7	下水道	立会調査	
171	H24.11.15	94条	東元町4-1-22	下水道	立会調査	
172	H24.11.15	94条	南町2-16(殿ヶ谷戸公園内)	照明	立会調査	
173	H24.12.17	93条	西恋ヶ窪3-13	ガス	立会調査	
174	H24.12.19	93条	東元町4-1760-8の内2・3号棟	分譲住宅	立会調査	
175	H24.12.19	93条	南町1-12-8の内	個人住宅	立会調査	
176	H24.12.6	93条	本町4-2864-14	個人住宅	立会調査	
177	H24.12.21	93条	本町4-2874-40	個人住宅	立会調査	
178	H24.12.21	93条	西元町4-9-5・6	個人住宅	立会調査	
179	H24.12.26	93条	西恋ヶ窪1-8-35の一部	個人住宅	立会調査	
180	H24.12.21	93条	西恋ヶ窪1-17-7	個人住宅	事前調査	K2-91
181	H24.12.26	93条	西元町3-2215-4の一部, 2216-3	集合住宅	確認調査	MK III -690
182	H25.1.9	93条	西元町3-2215-4の一部	個人住宅兼工場店舗	確認調査	MK III -691
183	H25.1.9	93条	東元町1-39-22	ガス	立会調査	
184	H25.1.15	93条	泉町1-2470-5	分譲住宅	立会調査	
185	H25.1.17	93条	東元町3-26-4	ガス	立会調査	
186	H25.1.17	93条	本多1-447-35	個人住宅	立会調査	
187	H25.1.17	93条	泉町2丁目, 西元町1丁目	公園造成	立会調査	
188	H25.1.25	94条	南町2-2地先	水道	立会調査	
189	H25.1.25	93条	西元町2-10	水道	立会調査	
190	H25.1.29	93条	泉町1-8-3・4	道路	確認調査	MK I -692
191	H25.1.29	93条	本町4-23-12	ガス	立会調査	
192	H25.1.15	93条	西元町3-18-8	個人住宅	事前調査	MK II -693
193	H25.1.25	94条	西恋ヶ窪1-24-12	電話	立会調査	
194	H25.1.25	93条	南町3-7-18地先	電話	立会調査	
195	H25.2.4	93条	南町1-177-19	個人住宅	立会調査	
196	H25.2.6	93条	西元町4-1-5	ガス	立会調査	
197	H25.2.7	93条	西恋ヶ窪1-11-23	個人住宅	立会調査	
198	H25.2.22	93条	西恋ヶ窪1-24-12	個人住宅	事前調査	K2-92
199	H25.2.22	93条	西元町4-1-5	集合住宅	確認調査	(平成25年度)
200	H25.2.22	93条	東恋ヶ窪6-6-40	ガス	立会調査	
201	H25.2.26	93条	泉町1-7-未定	個人住宅	立会調査	
202	H25.3.5	93条	西元町4-5-21	個人住宅	確認調査	MK III -694
203	H25.3.12	94条	西恋ヶ窪3-11-15	個人住宅	立会調査	
204	H25.2.21	93条	内藤1-1	ガス	立会調査	
205	H25.3.5	93条	本町4-21-23	ガス	立会調査	
206	H25.3.5	94条	西元町1-15	水道	立会調査	
207	H25.3.5	94条	西恋ヶ窪1-14-15	ガス	立会調査	
208	H25.3.5	94条	西元町3-31-17	ガス	立会調査	
209	H25.3.5	94条	光町1-1-6	個人住宅	立会調査	
210	H25.3.12	94条	西元町2-9-17	個人住宅	立会調査	
211	H25.3.19	93条	西元町2-10-6	ガス	立会調査	
212	H25.3.19	93条	光町2-10~9	ガス	立会調査	
213	H25.3.19	93条	本多1-4-23	ガス	立会調査	
214	H25.3.19	93条	東元町2-17-14	ガス	立会調査	
215	H25.3.21	93条	南町3-2743-1	水道	立会調査	
216	H25.3.27	93条	西元町2-2541-15	事務所	立会調査	
217	H25.3.27	93条	泉町1-9	ガス	立会調査	
218	H25.3.28	94条	西元町3-2190-5	集合住宅	立会調査	
219	H25.3.28	93条	南町1-12-16	ガス	立会調査	



第1章 埋蔵文化財行政のあらまし







第6図 平成24年度調査地位置図



## 第2章 平成24年度に実施した発掘調査

### 第1節 遺跡の概要

平成24年度は、個人住宅建設に伴う事前調査および民間開発事業に伴う確認調査は、武蔵国分寺跡（No.10・19遺跡）17地区、恋ヶ窪遺跡（No.2遺跡）2地区、殿ヶ谷戸北遺跡（No.20遺跡）1件、No.37遺跡1件、東山道武蔵路No.58遺跡（東山道武蔵路）2件、東山道武蔵路延長地区における試掘調査1件である。以下、調査を実施した遺跡の概要を記す。

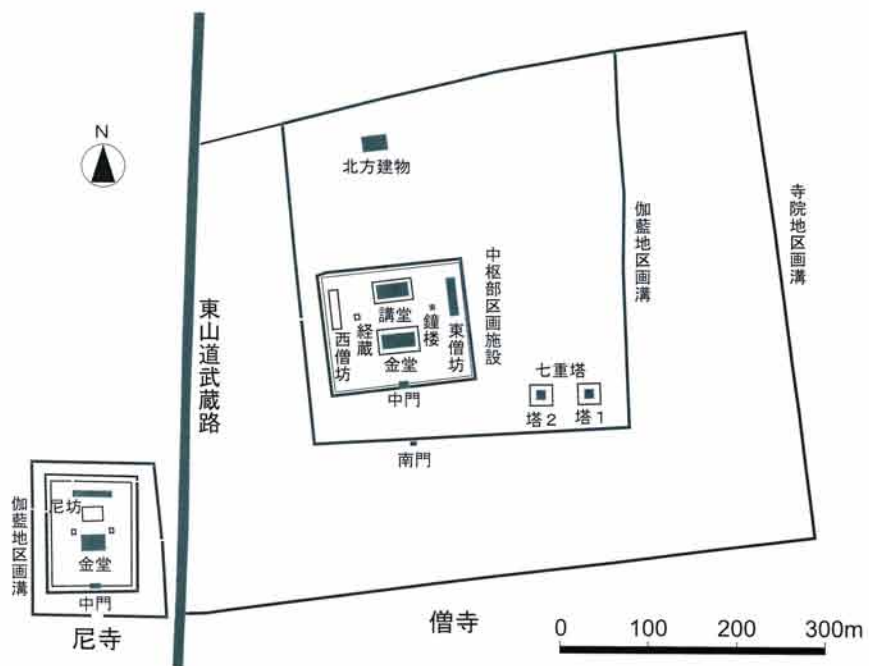
**No.2遺跡（恋ヶ窪遺跡）** 恋ヶ窪遺跡は、西恋ヶ窪1丁目、東恋ヶ窪1・3丁目に所在する。野川の源泉を見下ろす武蔵野台地上に立地し、北側を除く三方向を野川の開析谷に囲まれた舌状台地南西縁に広がる縄文時代中期を中心とする集落跡である。

**No.10・19遺跡（武蔵国分寺跡）** 武蔵国分寺跡は、天平13（771）年に聖武天皇により発布された国分寺建立詔で、全国60余国に設置された国分寺の一つである。古代の官道である東山道武蔵路をはさんで、東に僧寺、西に尼寺が配置され、遺跡の範囲は東西約1.5キロメートル、南北は国分寺崖線を挟んで約1キロメートルに及ぶ。遺跡は現在の西元町1～4丁目、東元町3・4丁目、泉町1・2丁目、西恋ヶ窪1丁目に所在する。僧寺は「寺院地」・「伽藍地」・「中樞部」の三重に、尼寺は「伽藍地」・「中樞部」の二重に区画され、その周囲の寺院に関連する遺跡を含めて「寺地」と称している。前者がNo.10遺跡、後者がNo.19遺跡に該当し、寺院跡のほか、東山道武蔵路、推定鎌倉街道などの道路跡が確認されている。

**No.20遺跡（殿ヶ谷戸北遺跡）** 殿ヶ谷戸北遺跡は、南町一丁目8・9・12付近に所在する旧石器時代、縄文時代（早・中期）の遺跡である。野川を南側に臨む台地上に位置し、1万8千～1万5千年前位の旧石器時代を中心とした遺跡である。

**No.37遺跡** 西恋ヶ窪3丁目に所在する旧石器・縄文・奈良・平安時代の遺跡である。主体は、旧石器時代であり、野川上流域に集中して存在している旧石器時代遺跡群の一つをなす。

**No.58遺跡（東山道武蔵路）** 東山道武蔵路は、都と地方を結ぶ古代東山道の枝道（支路）の一つで、上野国から武蔵国府へと南下する幅約12mの直線道路である。西恋ヶ窪一丁目地区以南の約1.8km部分が埋蔵文化財包蔵地として周知されている。



第7図 武蔵国分寺跡伽藍配置模式図



## 第 2 節 本発掘調査

## (1) 武蔵国分寺跡第 677 次

所在地	国分寺市東元町 3-12-16		
調査原因	個人宅造		
調査期間	平成 24 年 6 月 18 日～6 月 19 日		
調査面積	3.51 m <sup>2</sup>	遺物箱数	なし
検出遺構	なし		
主な遺物	なし		



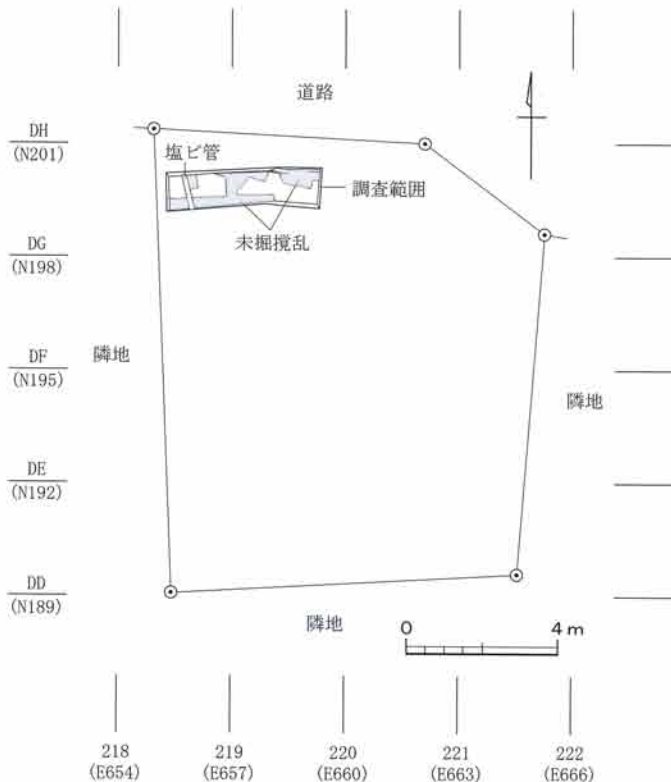
第 8 図 MK II - 677 調査地位置図

調査区は、武蔵国分寺跡 (No. 19 遺跡) に該当する。遺跡の東側に位置し、僧寺寺院地東辺区画溝から東に約 230 m の地点にあたる。

当該地は、旧石器・縄文・奈良・平安時代等の遺構や遺物が存在する可能性があるため、給排水管の埋設によって遺構に影響が及ぶ範囲を対象として、発掘調査を行った。

調査面積は、3.51 m<sup>2</sup> である。現地調査は、平成 24 年 6 月 18 日から 6 月 19 日に実施した。

調査区内は、地表面から深さ約 50～60 cm まで基本層序 I 層 (表土・盛土) に覆われていたことから、その下の基本層序 III c～IV 層において遺構確認を行ったが、遺構・遺物は検出されなかった。



第 9 図 MK II - 677 調査地全体図 (1 / 200)



第 10 図 調査区全景 (東から)

(2) 武蔵国分寺跡第 679 次

所在地	国分寺市西元町 3-2-4		
調査原因	個人宅造		
調査期間	平成 24 年 6 月 27 日		
調査面積	1.31 m <sup>2</sup>	遺物箱数	なし
検出遺構	なし		
主な遺物	なし		



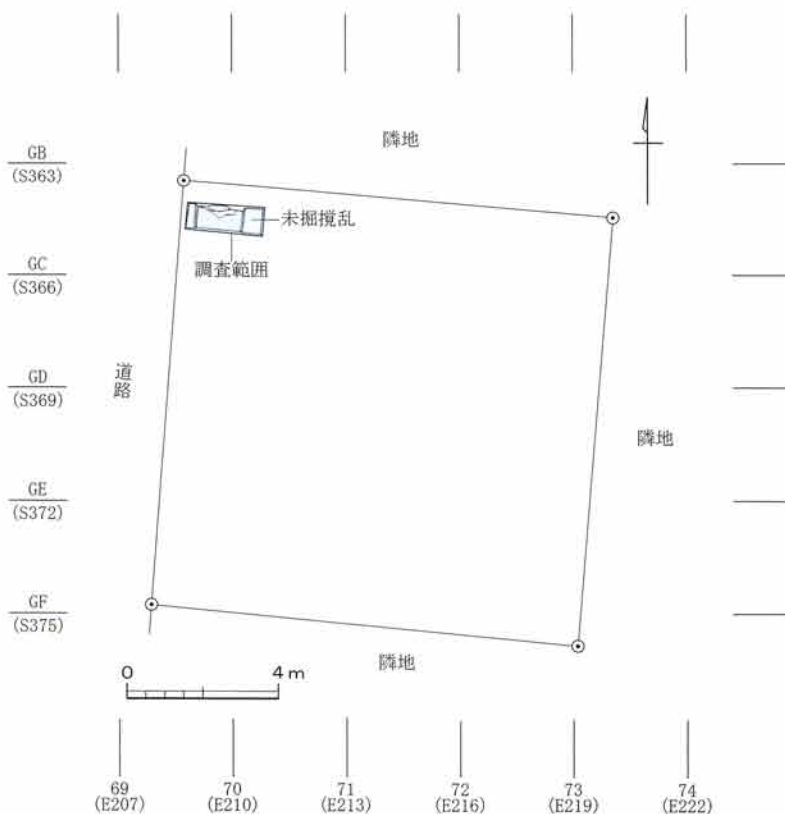
第 11 図 MK II - 679 調査地位置図

調査区は、武蔵国分寺跡 (No. 19 遺跡) に該当する。遺跡の南側に位置し、僧寺寺院地の外側にあたる。

当該地は、旧石器・縄文・奈良・平安時代等の遺構や遺物が存在する可能性があるため、給排水管の埋設によって遺構に影響が及ぶ範囲を対象として、発掘調査を行った。

調査面積は、1.31 m<sup>2</sup> である。現地調査は、平成 24 年 6 月 27 日に実施した。

調査区内は、地表面から深さ約 50 cm まで基本層序 I 層 (表土・盛土) に覆われており、その下の基本層序 III b 層において遺構確認を行ったが、調査区内の大部分が攪乱を受けていることもあり、遺構・遺物は検出されなかった。



第 12 図 MK II - 679 調査地全体図 (1 / 200)



第 13 図 調査区全景 (南から)



(3) 武蔵国分寺跡第 681 次

所在地	国分寺市西元町 4-2-12		
調査原因	個人宅造		
調査期間	平成 24 年 7 月 17 日～7 月 26 日		
調査面積	8.85 m <sup>2</sup>	遺物箱数	1 箱
検出遺構	P-1・2		
主な遺物	鉄滓・土師器		



第 14 図 MKⅢ－681 調査地位置図

調査区は、武蔵国分寺跡 (No. 19 遺跡) に該当する。武蔵国分尼寺金堂跡の南方約 110 m に位置し、寺院地の外側に当たる。

当該地は、旧石器・縄文・奈良・平安・中世等の遺構や遺物が存在する可能性があるため、給排水管の埋設によって遺構に影響がある範囲を対象として、発掘調査を行った。

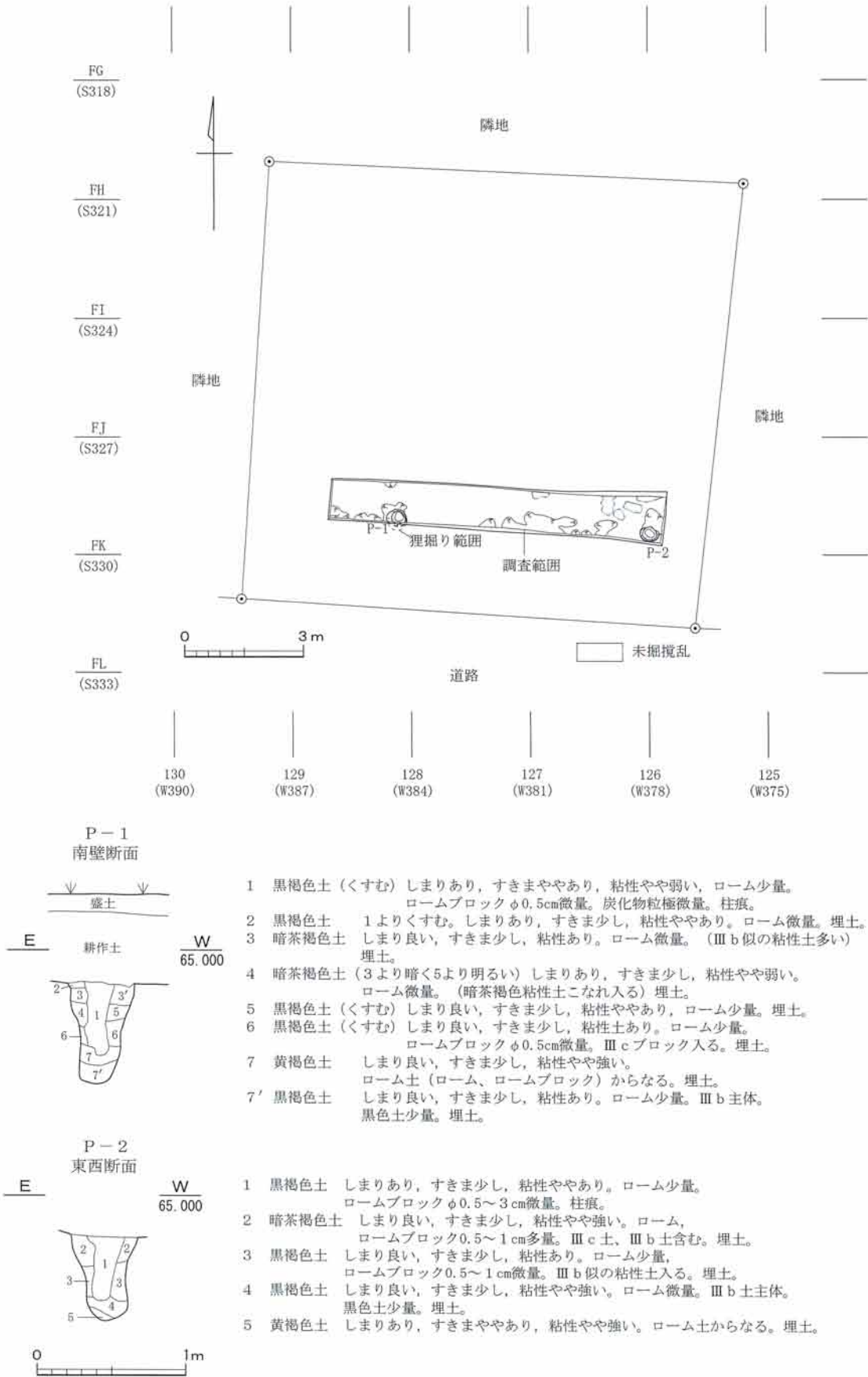
調査面積は、8.85 m<sup>2</sup>である。現地調査は、平成 24 年 7 月 17 日から同年 7 月 26 日に実施した。

調査区内は、地表面から深さ約 70 cm まで基本層序 I 層 (表土・盛土) に覆われており、その下の基本層序 III b 層において、奈良・平安時代の遺構確認を行った。遺構は小穴 2 基 (P-1・2) が検出され、遺物は表土中より土師器片 1 点、鉄滓 1 点が出土した。

P-1・2 は、柱穴と考えられ、規模・形状から相互に関連する遺構の可能性がある。平面形状は円形で、規模は直径が約 35～40 cm、深さは約 60 cm である。柱痕跡が確認され、柱の径は 10 数 cm と想定される。両者は、東西に約 6 m 離れた場所に位置する。P-1・2 の性格については、建物跡や塀跡、柵列跡などが想定されるが、本調査範囲では判然としなかった。



第 15 図 調査区全景 (西から)



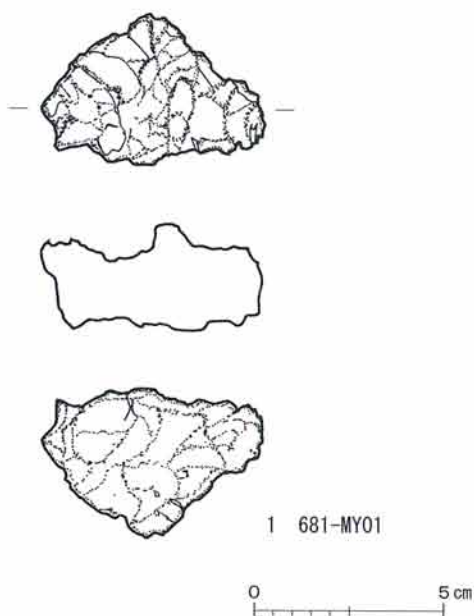
第16図 MK III-681 調査地全体図 (1/150)・遺構断面図 (1/40)



第 17 図 P-1 遺構断面 (北から)



第 18 図 P-2 遺構断面 (北から)



第 19 図 出土遺物実測図 (鉄滓 1 / 2)

第 8 表 MK III - 681 遺物観察表 (鉄滓)

図面版 遺物番号	種別 形態	出土位置	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	備考
第19図1 第20図1 MY01	鉄滓	表土	4.0	5.8	2.8	46.9	———



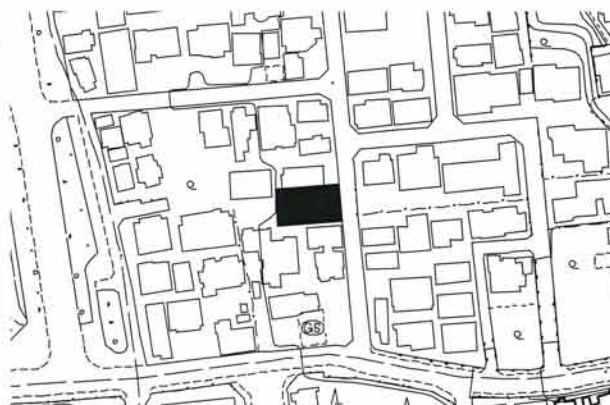
1 681-MY01

第 20 図 出土遺物写真



(4) 武蔵国分寺跡第 682 次

所在地	国分寺市泉町 1-8-19		
調査原因	個人宅造		
調査期間	平成 24 年 7 月 2 日～7 月 3 日		
調査面積	4.33 m <sup>2</sup>	遺物箱数	なし
検出遺構	なし		
主な遺物	なし		



第 21 図 MK I - 682 調査地位置図

調査区は、武蔵国分寺跡 (No. 19 遺跡) に該当する。遺跡範囲の北東に位置し、武蔵国分僧寺寺院地の外側にあたる。武蔵野段丘面の台地縁辺部に立地する。

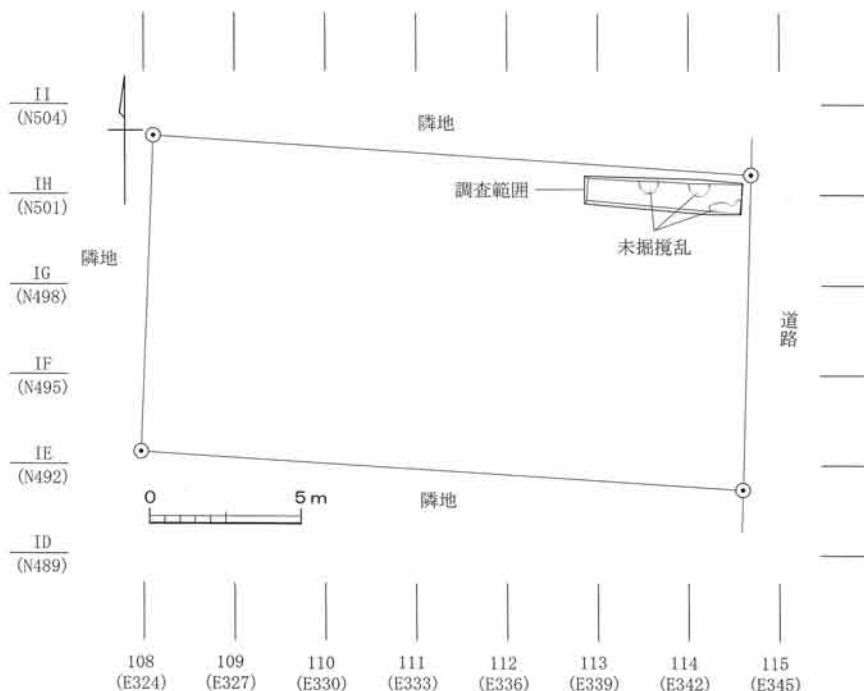
当該地は、旧石器・縄文・奈良・平安時代等の遺構や遺物が存在する可能性があるため、給排水管の埋設によって遺構に影響が及ぶ範囲を対象として、発掘調査を行った。

調査面積は、4.33 m<sup>2</sup>である。現地調査は、平成 24 年 7 月 2 日から同年 7 月 3 日に実施した。

調査区内は、地表面から深さ約 60 cm まで基本層序 I 層 (表土・盛土) に覆われており、その下の基本層序 III c ~ IV 層において遺構確認を行ったが、遺構・遺物は検出されなかった。



第 22 図 調査区全景 (西から)



第 23 図 MK I - 682 調査地全体図 (1 / 250)

(5) 武蔵国分寺跡第 684 次

所在地	国分寺市西元町 3-27-9		
調査原因	個人宅造		
調査期間	平成 24 年 9 月 24 日～9 月 28 日		
調査面積	33.56 m <sup>2</sup>	遺物箱数	1 箱
検出遺構	SK3435		
主な遺物	磁器・瓦・須恵器		



第 24 図 MK I - 684 調査地位置図

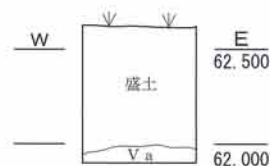
調査区は、武蔵国分寺跡 (No. 10・19 遺跡) に該当する。武蔵国分僧寺金堂から約 290 m の東方に位置し、寺院地内にあたる。

当該地は、旧石器・縄文・奈良・平安等の遺構・遺物が存在する可能性があるため、建物基礎によって遺構に影響が及ぶ範囲を対象として、発掘調査を行った。

調査面積は 33.56 m<sup>2</sup>である。現地調査は平成 24 年 9 月 24 日から同年 9 月 28 日に実施した。

調査区内は、地表面から深さ約 1 m まで基本層序 I 層 (表土・盛土) に覆われており、その下の基本層序 IV～V 層において遺構確認を行った。その結果、土坑 1 基 (SK3435) が検出された。遺物は、須恵器、瓦、磁器等が出土した。

SK3435 土坑は、東西約 90 cm 以上、南北約 80 cm の規模で、楕円形の掘り込みが連結した形状をなす。本調査区の西側の道路上の調査 (MK I -87) において、類似した形状の土坑 (SK578) が検出されており、同一の遺構である可能性が高く、形状は溝状となる。ただし、本調査区内では、削平が深いこともあり、東側への遺構の広がり確認できなかった。



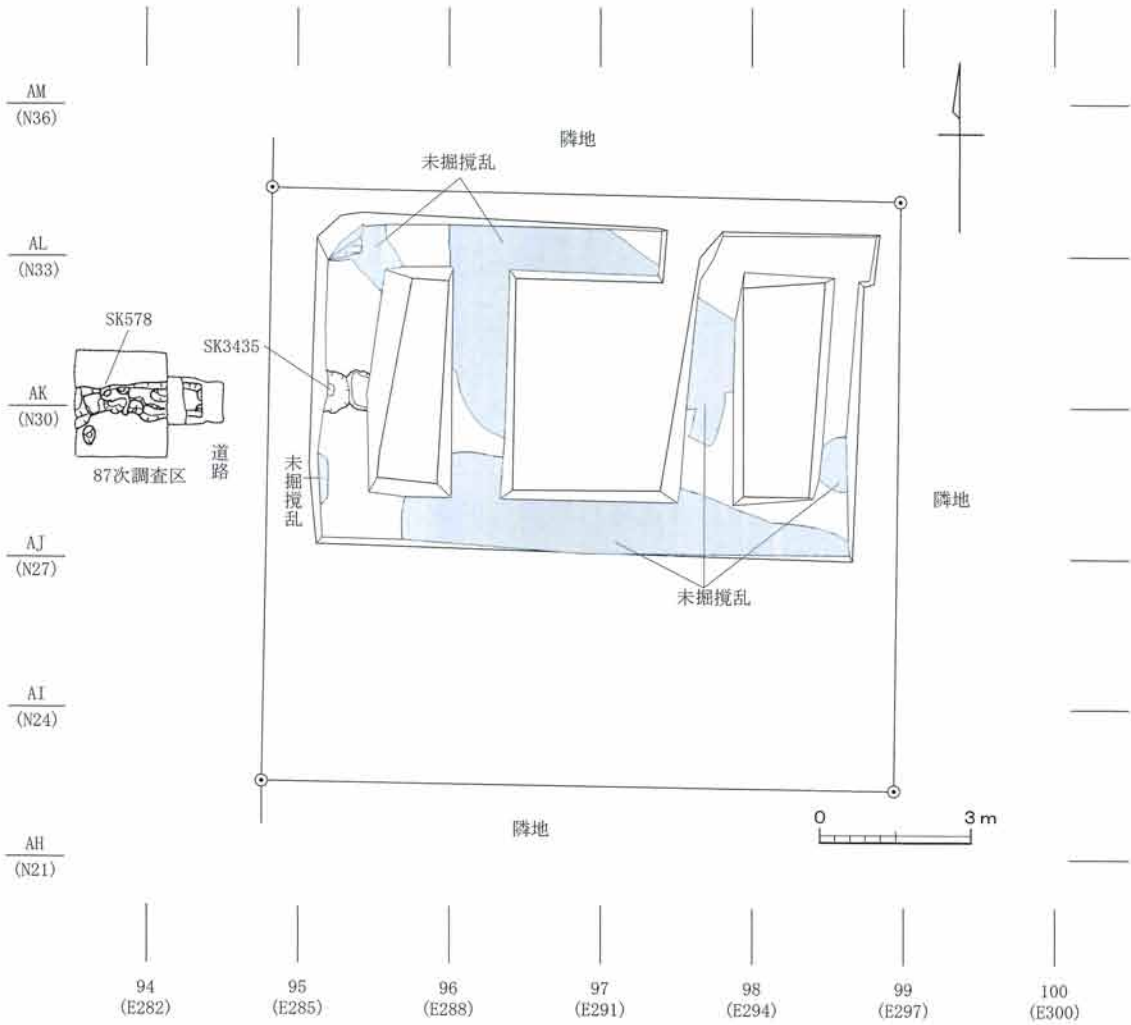
第 25 図 MK I - 684 調査区土層柱状図



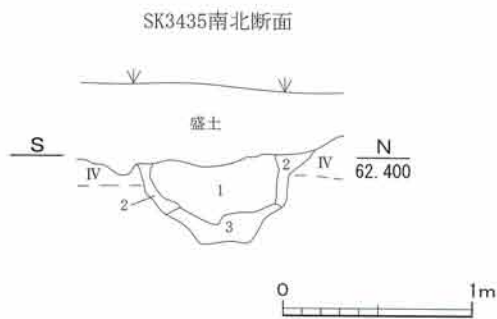
第 26 図 調査区西側 (南から)



第 27 図 調査区東側 (南から)

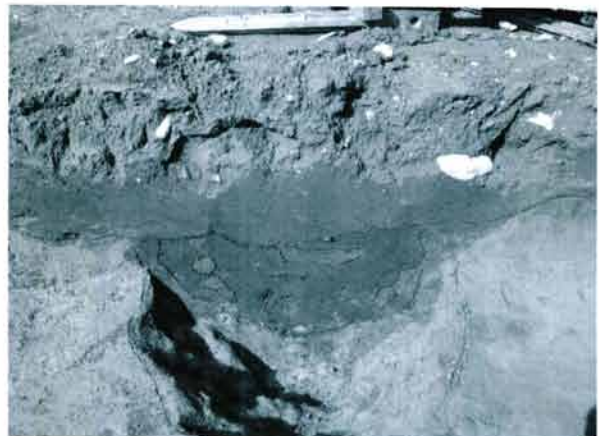


第28図 MK I - 684 遺構配置図 (1/150)



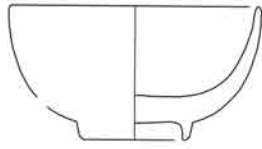
- 1 黒褐色土 しまりあり、粘性ややあり。ローム少量。  
ロームブロックφ0.5cm微量。
- 2 灰黄褐色土 しまりやや弱い、粘性ややあり。ローム多い。
- 3 黄褐色土 ロームブロック、ロームからなる。III c微量。

第29図 SK3435 断面図 (1/40)



第30図 SK3435 断面 (東から)

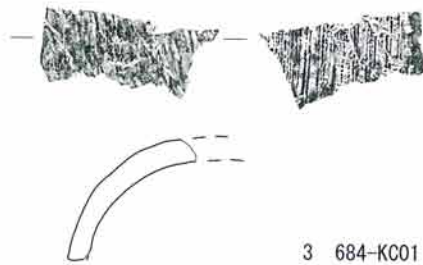




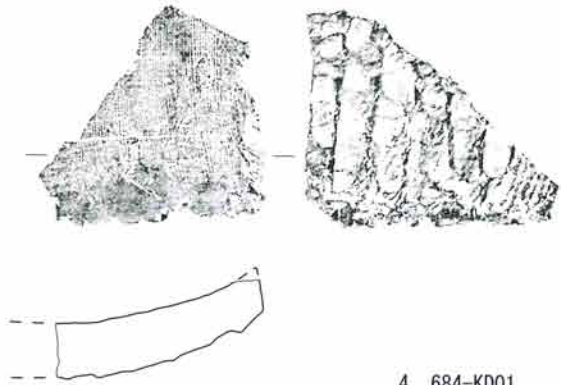
1 684-PT01



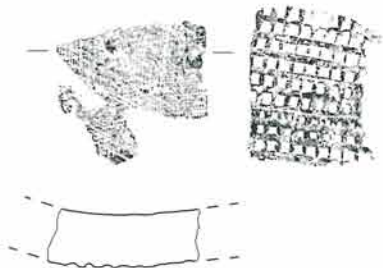
2 684-PT02



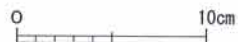
3 684-KC01



4 684-KD01



5 684-KD02



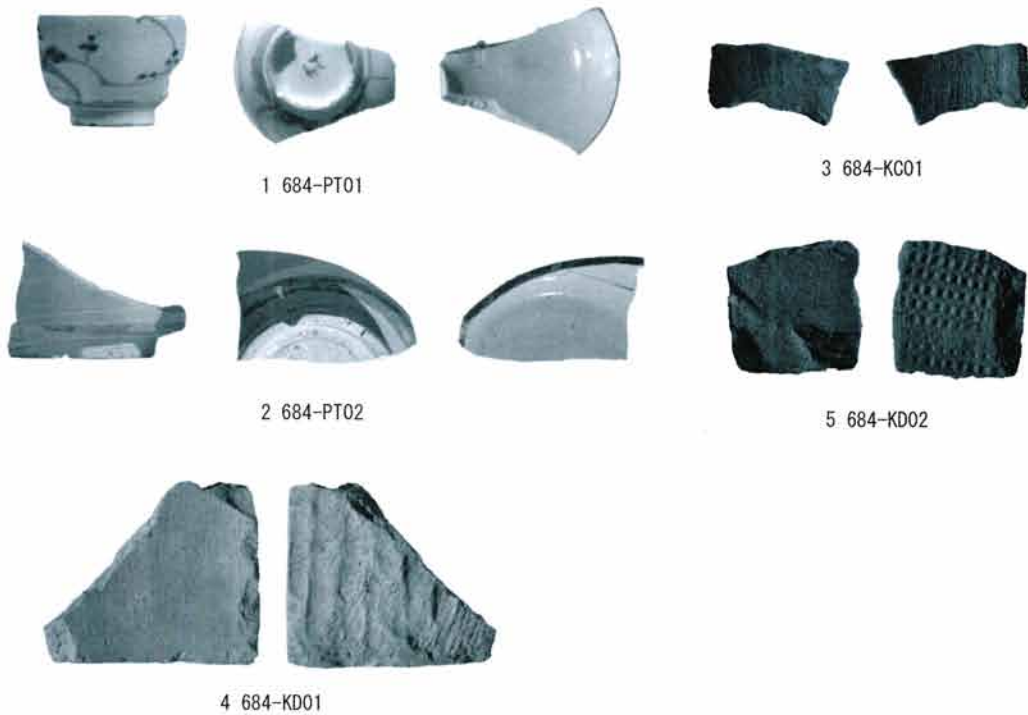
第 31 図 出土遺物実測図 (歴史時代土器 1 / 3 ・ 瓦 1 / 4)

第 9 表 MK I - 684 遺物観察表 (歴史時代土器)

図面 図版 遺物番号	種別 器種	出土 位置	口径 器高 底径 (cm)	器形の特徴	成・整形の特徴	備考
第31図1 第32図1 PT01	磁器 染付碗	表土	((9.8) 5.3 (4.0)	全体の1/3残存。胴部に最大径を持ち、口縁はほぼ垂直に立ち上がる。	ロクロ整形。	18C中頃。白色で胎土は緻密。焼成は良好。高台高0.7。
第31図2 第32図2 PT02	灰釉 鉢	表土	— (5.5) (8.3)	全体の1/4残存。貼付高台。胴部はやや外側に開きながら立ち上がる。	ロクロ整形。	近代以降。高台～外面底部を除く内外面に黄灰色の灰釉を施釉。内面に呉須絵あり。黄灰色で胎土は緻密。焼成は良好。高台高0.9。

第10表 MK I - 684 遺物観察表 (瓦)

図面 図版 遺物番号	出土 位置	狭端 広端 全長 (cm)	厚さ (cm)	成・整形の特徴					備考	
				素材	凹面		凸面			側・端面
					布目	特徴	叩き	特徴		特徴
第31図3 第32図3 KC01	表土	— — (3.7)	1.3	—	((15× 15))	側縁削り。全 体軽く縦位 ナデ。	—	縦位調整。	側面削り。	砂粒、海綿骨針を含 む。焼成良好。黒褐 色～暗褐色。
第31図4 第32図4 KD01	表土	— (10.9) (11.5)	2.9	不明	19×19	側縁、端縁 削り。	縄目 L8本	斜位縄叩き後 に、縄目を押し つぶす調整をす る。	側面・端面削 り。	砂粒含む。やや不 良。褐色。
第31図4 第32図5 KD02	表土	(6.4) — (8.3)	2.9	粘土板	((15× 18))	糸切り痕あり。	正格子		端面削り。	砂粒やや多い。海綿 骨針含む。焼成良 好。黒灰色。



第32図 出土遺物写真

## (6) 武蔵国分寺跡第 685 次

所在地	国分寺市東元町 3-21-42		
調査原因	個人宅造		
調査期間	平成 24 年 10 月 9 日～10 月 18 日		
調査面積	17.01 m <sup>2</sup>	遺物箱数	なし
検出遺構	PJ- 1		
主な遺物	なし		



第 33 図 MK I - 685 調査地位置図

調査区は、武蔵国分寺跡 (No. 19 遺跡) に該当する。遺跡の東側に位置し、国分寺崖線の上、武蔵野段丘面上に立地する。

当該地は、旧石器・縄文・奈良・平安時代等の遺構や遺物が存在する可能性があるため、建物基礎工事によって遺構に影響が及ぶ範囲を対象として、2箇所 (A・Bトレンチ) に調査区を設定し、発掘調査を行った。

調査面積は 17.01 m<sup>2</sup>である。現地調査は平成 24 年 10 月 9 日から同年 10 月 18 日に実施した。

A・Bトレンチは、地表面から約 50 cm の深さまで、基本層序 I 層 (表土・盛土) に覆われており、その下の基本層序 IV 層において、遺構確認を行った。Bトレンチにおいて、縄文時代の小穴 1 基が検出された。Aトレンチは、建物基礎が深く設置されるため、さらに深さ 30 cm 掘削して旧石器時代の調査を行ったが、遺構・遺物は検出されなかった。

Cトレンチは、地表面から約 30～60 cm の深さまで基本層序 I 層 (表土・盛土) に覆われており、その下の基本層序 III c～IV 層において、遺構確認を行ったが、遺構・遺物は検出されなかった。



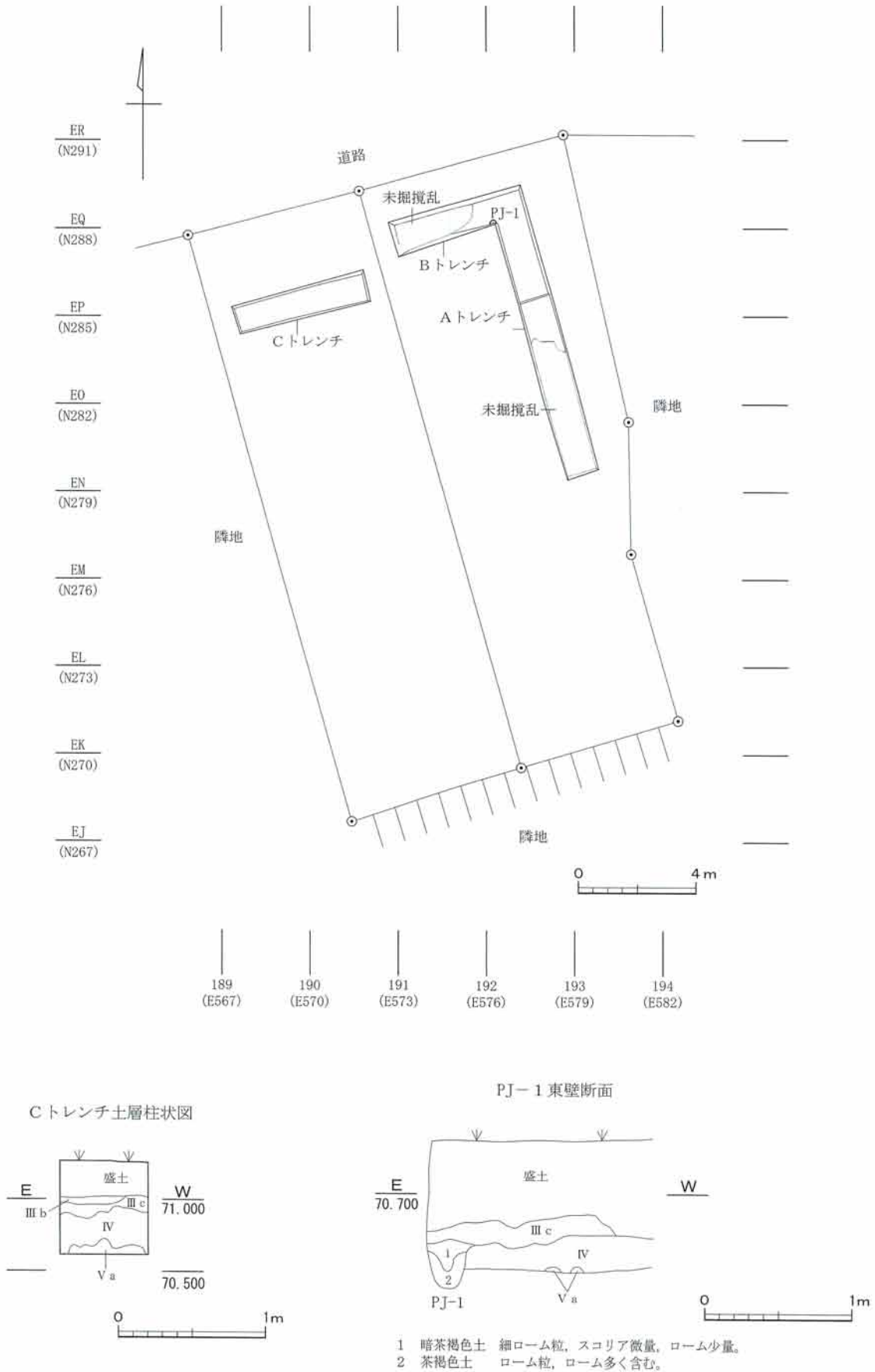
第 34 図 Aトレンチ全景 (北から)



第 35 図 Bトレンチ全景 (西から)



第 36 図 Cトレンチ全景 (東から)



第37図 MK I - 685 調査地全体図 (1/200)・断面図 (1/40)



(7) 武蔵国分寺跡第 689 次

所在地	国分寺市泉町 1-7 の一部		
調査原因	個人宅造		
調査期間	平成 25 年 1 月 22 日～1 月 24 日		
調査面積	2.17 m <sup>2</sup>	遺物箱数	1 箱
検出遺構	なし		
主な遺物	縄文土器・石器		



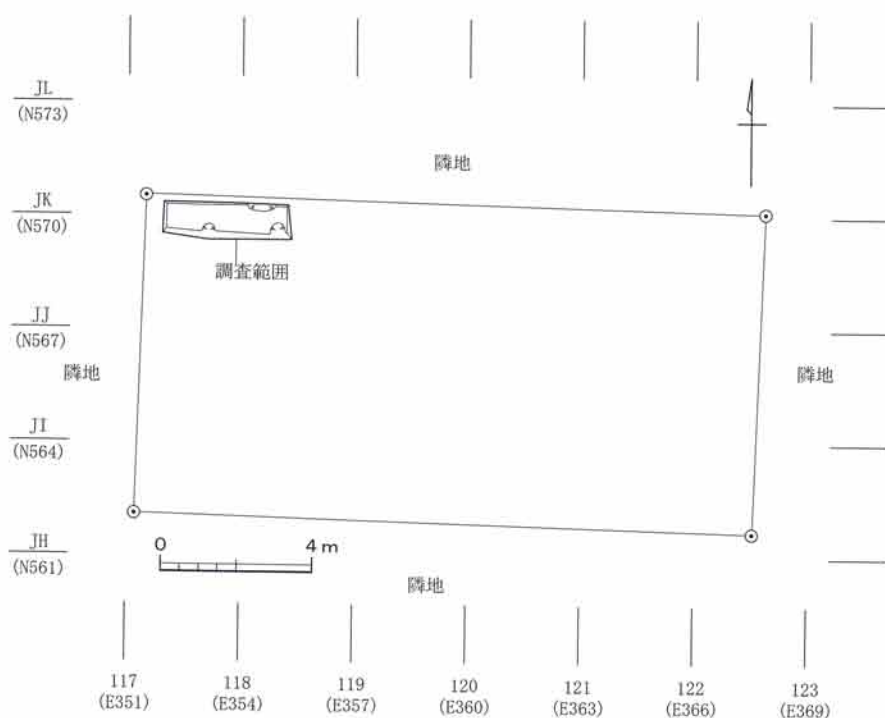
第 38 図 MK I - 689 調査地位置図

調査区は、武蔵国分寺跡 (No. 19 遺跡) に該当する。遺跡範囲の北東に位置し、武蔵野段丘面上で台地縁辺部に立地する。

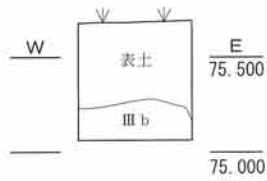
当該地は、旧石器・縄文・奈良・平安時代等の遺構や遺物が存在する可能性があるため、給排水管の埋設によって遺構に影響が及ぶ範囲を対象として、発掘調査を行った。

調査面積は 2.17 m<sup>2</sup>である。現地調査は平成 25 年 1 月 22 日から平成 25 年 1 月 24 日に実施した。

調査地内は、地表面から約 60 cm の深さまで、基本層序 I 層 (表土・盛土) に覆われていたことから、その下の基本層序 III b～III c で、遺構確認を行ったが、遺構は検出されなかった。遺構外から加曽利 E 3 期の縄文土器と黒曜石 (剥片) が出土した。



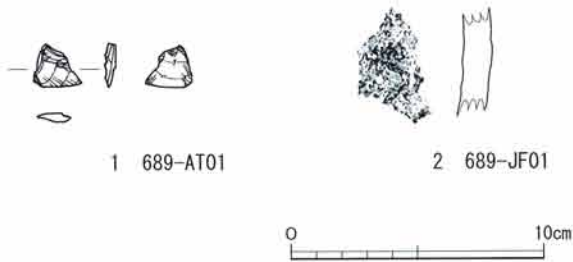
第 39 図 MK I - 689 調査地全体図 (1 / 200)



第40図 MK I - 689 調査区土層柱状図



第41図 調査区全景 (東から)



第42図 出土遺物実測図 (1/3)

第11表 MK I - 689 遺物観察表 (縄文時代土器)

図面版遺物番号	種別器種	出土位置	口径器高底径 (cm)	器形の特徴	成・整形の特徴	備考
第42図2 第43図1 JF01	深鉢	IIIc層	— (5.4) —	胴部破片のため、全体の器形は不明。	粗い削り。	加曾利E3式。表面赤褐色、内面黒色。胎土はやや粗く、砂粒を少量含む。焼成はやや不良。

第12表 MK I - 689 遺物観察表 (石器)

図面版遺物番号	種別形態	出土位置	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	遺存状態	石材	備考
第42図1 第43図2 AT01	剥片	IIIc層	1.7	1.9	0.4	9.0	完形	黒曜石	—



1 689-JF01



2 689-AT01

第43図 出土遺物写真

(8) 武蔵国分寺跡第 693 次

所在地	国分寺市西元町 3-18-8		
調査原因	個人宅造		
調査期間	平成 25 年 2 月 22 日～ 27 日		
調査面積	5.52 m <sup>2</sup>	遺物箱数	なし
検出遺構	なし		
主な遺物	なし		



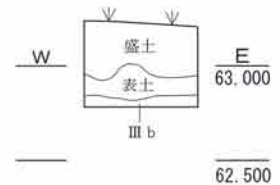
第 44 図 MK II - 693 調査地位置図

調査区は、武蔵国分寺跡 (No.10・19 遺跡) に該当する。僧寺寺院地内の南東に位置し、北西約 150 m には七重塔が存在する。

当該地は、旧石器・縄文・奈良・平安時代等の遺構や遺物が存在する可能性があるため、給排水管の埋設によって遺構に影響が及ぶ範囲を対象として、発掘調査を行った。

調査面積は 5.52 m<sup>2</sup> である。現地調査は平成 25 年 2 月 22 日から平成 25 年 2 月 27 日に実施した。

調査地内は、地表面の約 40 cm の深さまで、基本層序 I 層 (表土・盛土) に覆われており、その下の基本層序 III b 層で、遺構確認を行ったが、遺構・遺物は検出されなかった。



第 45 図 MK II - 693 調査区土層柱状図



第 46 図 MK II - 693 調査地全体図 (1/200)



第 47 図 調査区全景 (西から)



(9) 恋ヶ窪遺跡第91次

所在地	国分寺市西恋ヶ窪 1-17-1		
調査原因	個人宅造		
調査期間	平成 25 年 2 月 13 日～2 月 14 日		
調査面積	3.55 m <sup>2</sup>	遺物箱数	なし
検出遺構	なし		
主な遺物	なし		



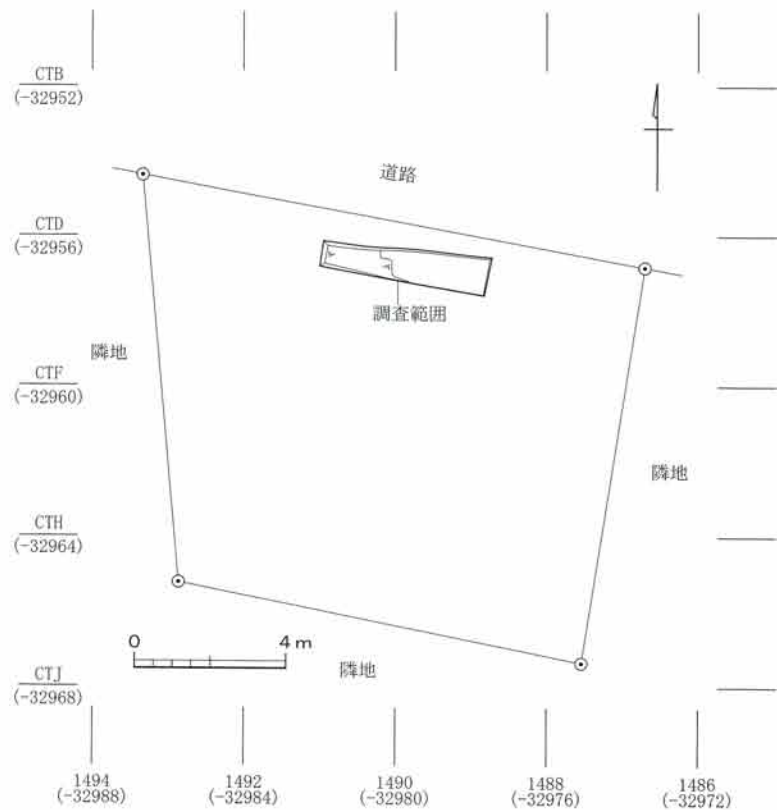
第48図 K2-91 調査地位置図

調査区は、縄文時代中期を中心とする集落跡である恋ヶ窪遺跡 (No.2 遺跡) に該当する。遺跡は、恋ヶ窪一丁目に所在し、遺跡は北側を除く三方向を野川の開析谷に囲まれた舌状台地南西縁に広がっており、当該地は南西の谷に面した武蔵野台地上に立地している。

当該地は、旧石器・縄文代等の遺構や遺物が存在する可能性があるため、給排水管の埋設によって遺構に影響が及ぶ範囲を対象として、発掘調査を行った。

調査面積は 3.55 m<sup>2</sup>である。現地調査は平成 25 年 2 月 13 日から同年 2 月 14 日に実施した。

調査区内は、地表面から深さ約 70 cm まで基本層序 I 層 (表土・盛土) に覆われており、その下の基本層序 III c 層において遺構確認を行ったが、遺構・遺物は検出されなかった。



第49図 K2-91 調査地全体図 (1/200)



第50図 調査区全景 (西から)



## (10) 恋ヶ窪遺跡第92次・東山道武蔵路第3次

所在地	国分寺市西恋ヶ窪 1-24-12		
調査原因	個人宅造		
調査期間	平成25年3月7日～3月21日		
調査面積	13.93 m <sup>2</sup>	遺物箱数	2箱
検出遺構	SI159J		
主な遺物	縄文土器・土製品・石器		



第51図 K2-92調査地位置図

調査区は、恋ヶ窪遺跡（No.2遺跡）及び東山道武蔵路（No.58遺跡）に該当する。恋ヶ窪遺跡は現在まで竪穴住居が158軒検出されている縄文時代中期を中心とする集落跡であり、当該地は、その集落跡の西側に位置する。

当該地は、旧石器・縄文・奈良・平安時代等の遺構や遺物が存在する可能性があるため、建物基礎工事および給排水管の埋設によって遺構に影響が及ぶ範囲を対象として、4カ所（A・B・C・Dトレンチ）に調査区を設定し、発掘調査を行った。

調査面積は13.93 m<sup>2</sup>である。現地調査は平成25年3月7日から同年3月21日に実施した。

調査区内は、地表面から深さ約30～40 cmまで基本層序Ⅰ層（表土・盛土）に覆われており、その下の基本層序Ⅲb層において奈良・平安時代、基本層序Ⅲc層において、縄文時代の遺構確認を行った。

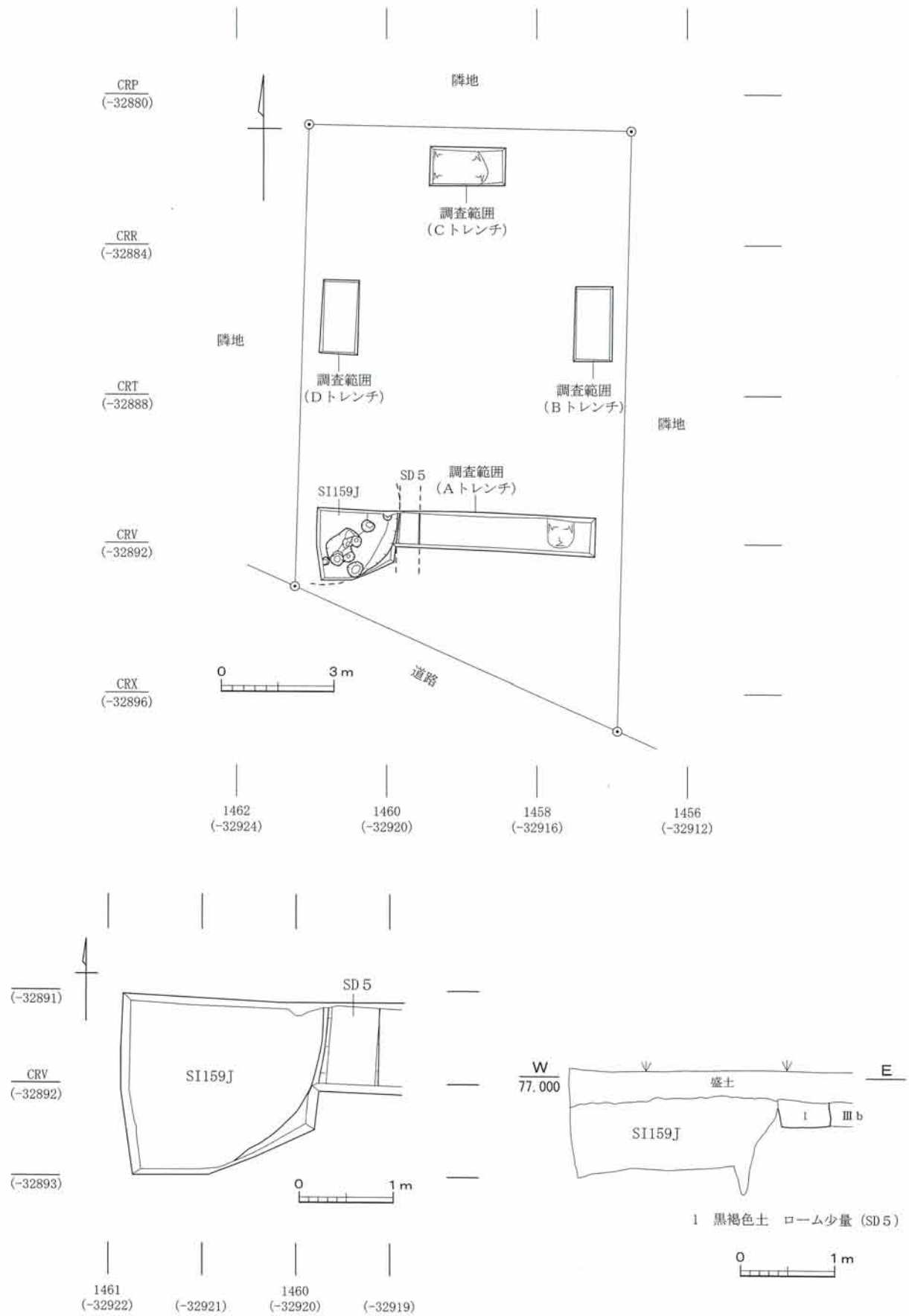
遺構はAトレンチにおいて、溝跡1条（SD5）、縄文時代の竪穴住居1軒（SI159J）が検出された。遺物は、遺構内外から縄文土器・土製品・石器が出土した。なお、SD5の北側延長線上にあたるCトレンチは大半が基本層序Ⅰ層（表土・盛土）に覆われており、SD5は未検出である。

SD5は、東山道武蔵路の東側溝にあたる。溝の上面幅は55 cm、底面幅は50 cm、確認面からの深さは30 cm、覆土は黒褐色土である。遺物は出土しなかった。なお、東山道武蔵路にかかわる硬化面等の路面は未確認である。

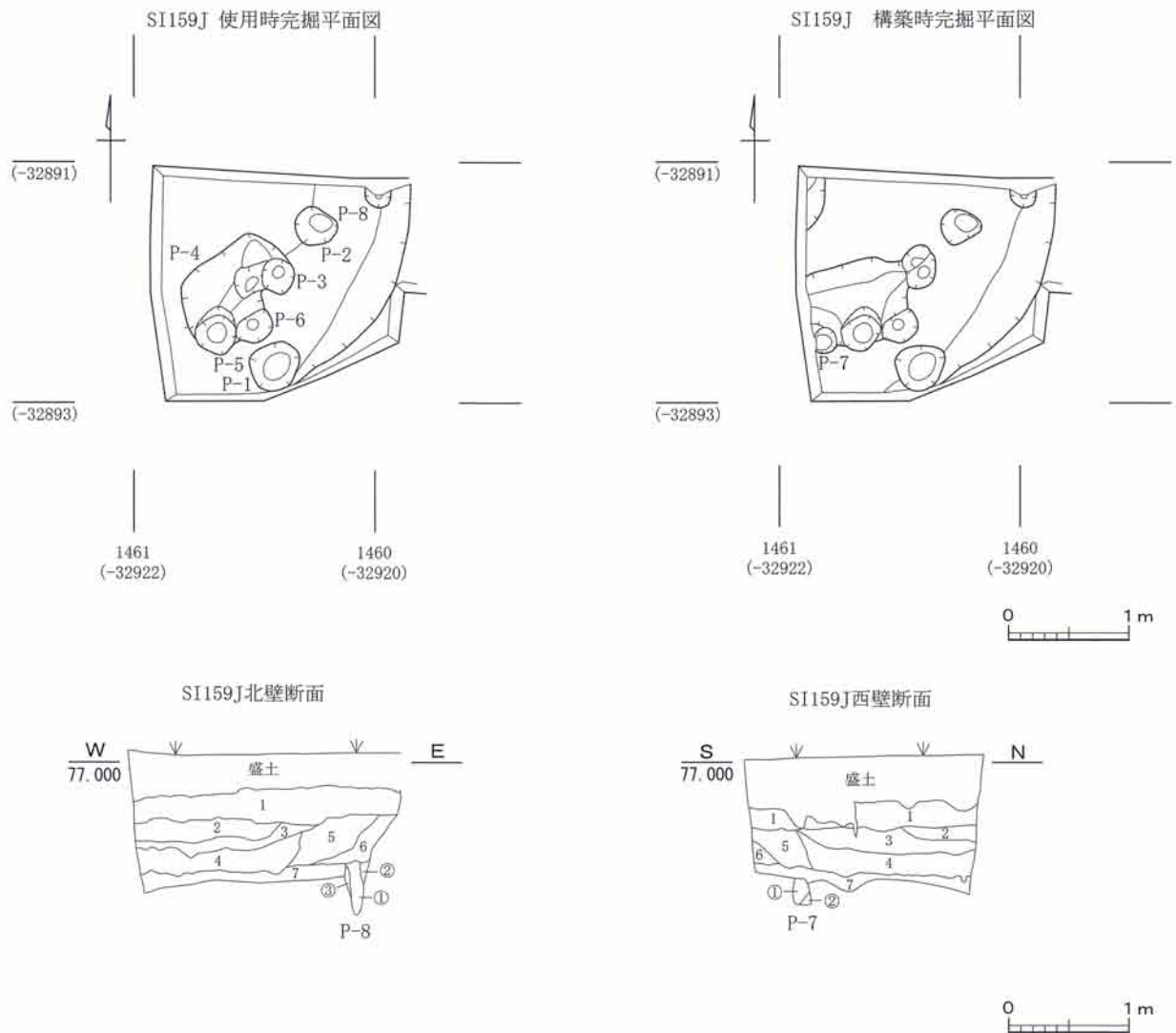
SI159Jは、規模は東西2.1 m以上、南北1.8 m以上で、本調査区内では住居跡の南東の一部が検出された。確認面からの掘り込みは深さ75 cmを測る。壁面は明瞭で、床面は中央部が硬質化する。周溝は廻っていない。小穴が8基確認されたが、支柱穴等の配置は不明である。炉は本調査範囲では確認されなかった。

遺物はSI159Jの覆土中から勝坂期、加曾利E期の縄文土器や、土製円板、打製石斧が出土した。

第2章第2節 本発掘調査



第52図 調査地全体図 (1/150)・SD5平面図・断面図 (1/60)



SI159 J

- 1 暗茶褐色土 しまり良い、粘性有り。ローム少量、炭化物微量。赤色スコリア混入。
- 2 暗茶褐色土 しまり良い、粘性有り。ローム少量、炭化物微量。赤色スコリア混入。
- 3 暗茶褐色土 しまり良い、粘性有り。ローム含む。炭化物少量。赤色スコリア混入。
- 4 暗茶褐色土 しまり良い、粘性有り。ローム多い。ロームブロック0.5cm微量。炭化物粒少量。赤色スコリア入る。
- 5 暗茶褐色土 しまり良い、粘性有り。ロームやや多い。炭化物粒微量。赤色スコリア入る。
- 6 暗黄褐色土 しまり良い、粘性有り。ローム少量。炭化物微量。赤色スコリア混入。
- 7 暗黄褐色土 しまり良い、粘性有り。中央部硬質。ローム粒、ローム土多量含む。赤スコ少量、炭化物微量含む。構築土。

P-7

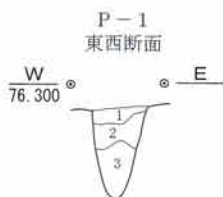
- ① 茶褐色土 ローム粒、ローム土多い。しまり良い、粘性有り。
- ② 暗黄褐色土 ローム粒、ローム土多量。ロームブロック入る。しまり良い、粘性有り。

P-8

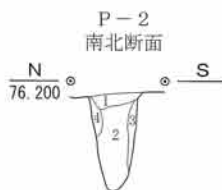
- ① 茶褐色土 ローム粒多く赤色スコリア、炭化物少量含む。しまり良い、粘性有り。
- ② 暗黄褐色土 ローム粒、ロームブロック多量含む。しまり良い、粘性有り。
- ③ 暗黄褐色土 ローム粒、ロームブロック多量含む。しまり良い、粘性有り。

第53図 SI159J平面図・断面図(1/60)





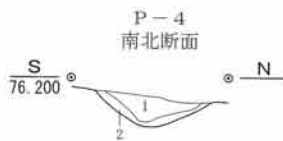
- 1 暗茶褐色土 しまり良い、粘性有り。ローム少量、赤色スコリア混入。
- 2 暗褐色土 しまり良い、粘性有り。ローム、ロームブロックφ0.5cmやや多い。赤色スコリア混入。
- 3 暗褐色土 しまりあり、粘性有り。ローム含む。赤色スコリア混入。



- 1 暗茶褐色土 しまり良い、粘性有り。ローム少量、赤色スコリア入る。
- 2 暗茶褐色土 しまり良い、粘性有り。ロームやや多い。赤色スコリア入る。
- 3 灰黄褐色土 しまり良い、粘性有り。ローム、ロームブロック多い。
- 4 灰暗黄褐色土 しまり良い、粘性あり。ロームやや多い。赤色スコリア入る。



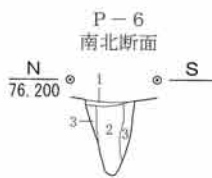
- 1 暗褐色土 しまり良い、粘性有り。ローム少量、赤色スコリア入る。
- 2 暗黄褐色土 しまり良い、粘性有り。ローム土多い。赤色スコリア入る。
- 3 暗褐色土 しまり良い、粘性有り。ロームやや多い。赤色スコリア入る。
- 4 暗黄褐色土 しまり良い、粘性有り。ローム多い。赤色スコリア入る。
- 5 P-4



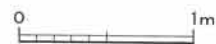
- 1 暗茶褐色土 しまり良い、粘性有り。ローム少し。ロームブロック、炭化物粒微量、赤色スコリア。
- 2 灰褐色土 しまり良い、粘性有り。ローム、ロームブロックやや多い。赤色スコリア入る。



- 1 暗黄褐色土 しまり良い、粘性有り。細ローム粒多く、ローム土少量、赤色スコリア微量、炭化物少量含む。
- 2 暗褐色土 しまり良い、粘性有り。細ローム粒多量、炭化物やや多く含む。
- 3 暗黄褐色土 しまり良い、粘性有り。ローム粒、ローム土微量含む。



- 1 暗茶褐色土 しまり良い、粘性有り。細ローム粒やや多く、赤色スコリア微量含む。
- 2 暗褐色土 しまり良い、粘性有り。細ローム粒多量、炭化物少量含む。
- 3 暗褐色土 しまり良い、粘性有り。ローム粒、ローム土やや多く含む。炭化物少量含む。



第54図 遺構断面図 (1/40)



第55図 Aトレンチ(東から)



第56図 SI159J使用時全景(北から)



第57図 SI159J構築時全景(東から)



第58図 SI159J遺物出土状況(東から)



第59図 SI159J北壁断面(南から)



第60図 Bトレンチ全景(西から)



第61図 Cトレンチ全景(南から)



第62図 Dトレンチ全景(東から)



第63図 出土遺物実測図1 (縄文土器 1 / 3)





1 K2-92-JE06



2 K2-92-JE07



3 K2-92-JE08



4 K2-92-JE09



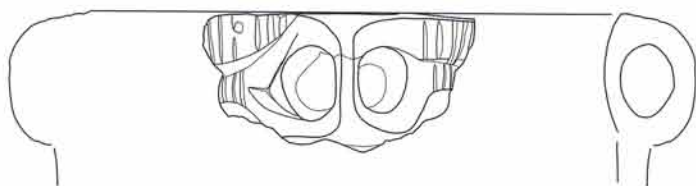
5 K2-92-JE10



6 K2-92-JE11



7 K2-92-JE12



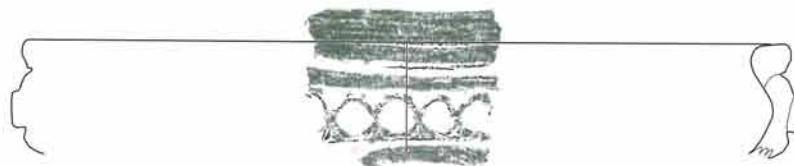
8 K2-92-JE13



9 K2-92-JE14



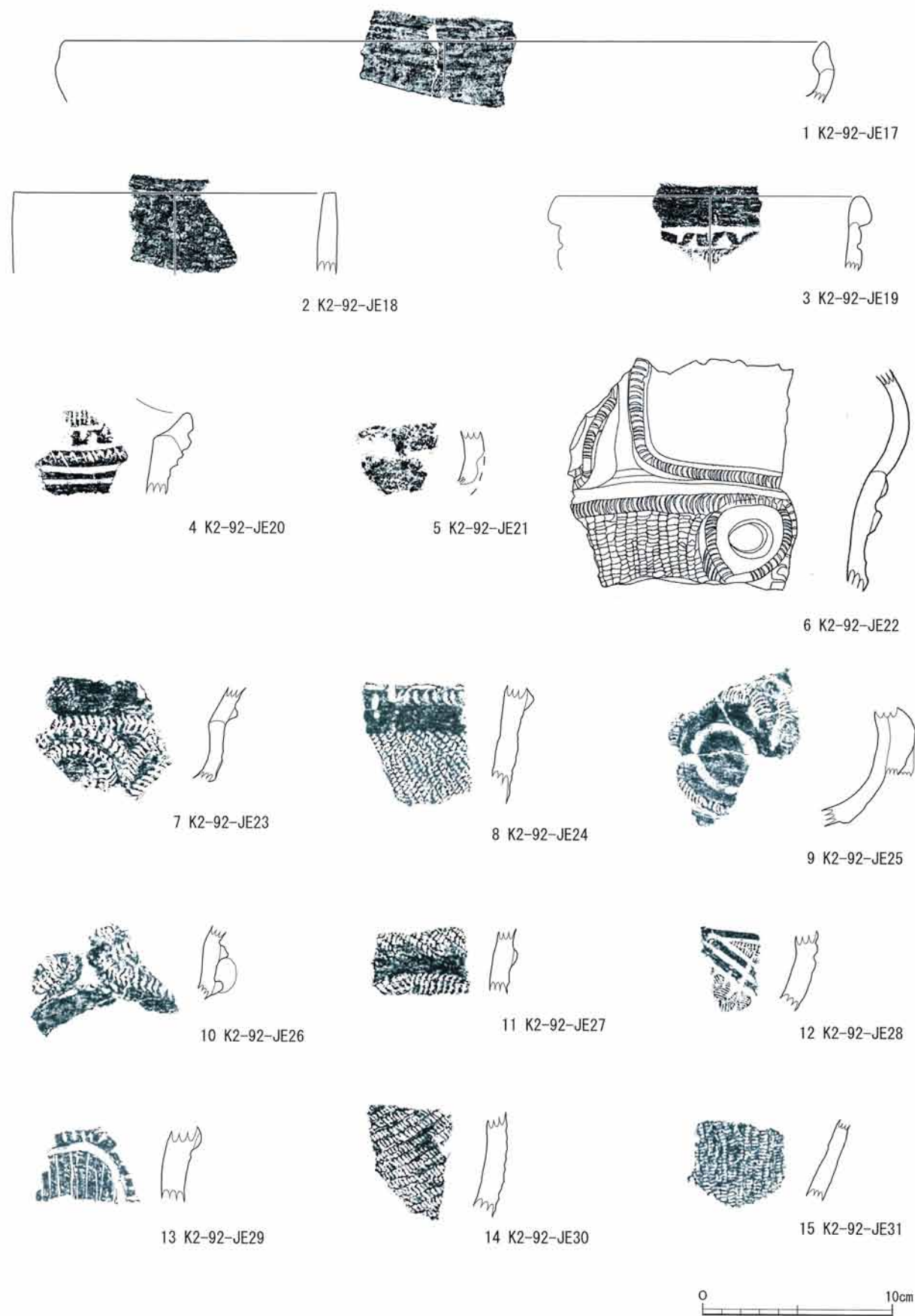
10 K2-92-JE15



11 K2-92-JE16



第64図 出土遺物実測図2 (縄文土器1/3)



第65図 出土遺物実測図3 (縄文土器1/3)



1 K2-92-JE32



2 K2-92-JE33



3 K2-92-JE34



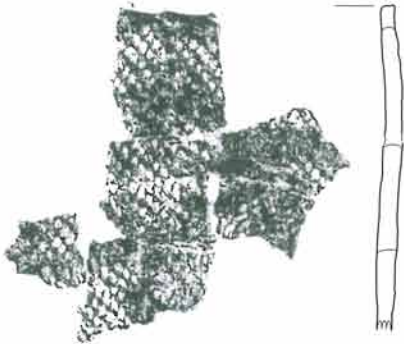
4 K2-92-JE35



5 K2-92-JE36



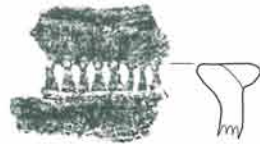
6 K2-92-JE37



7 K2-92-JE38



8 K2-92-JE39



9 K2-92-JE40



10 K2-92-JE41



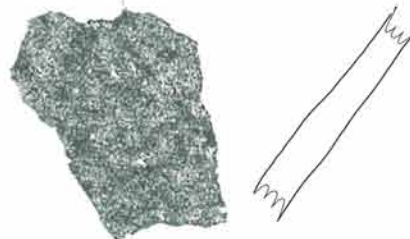
11 K2-92-JE42



12 K2-92-JE43



13 K2-92-JE44



14 K2-92-JE45

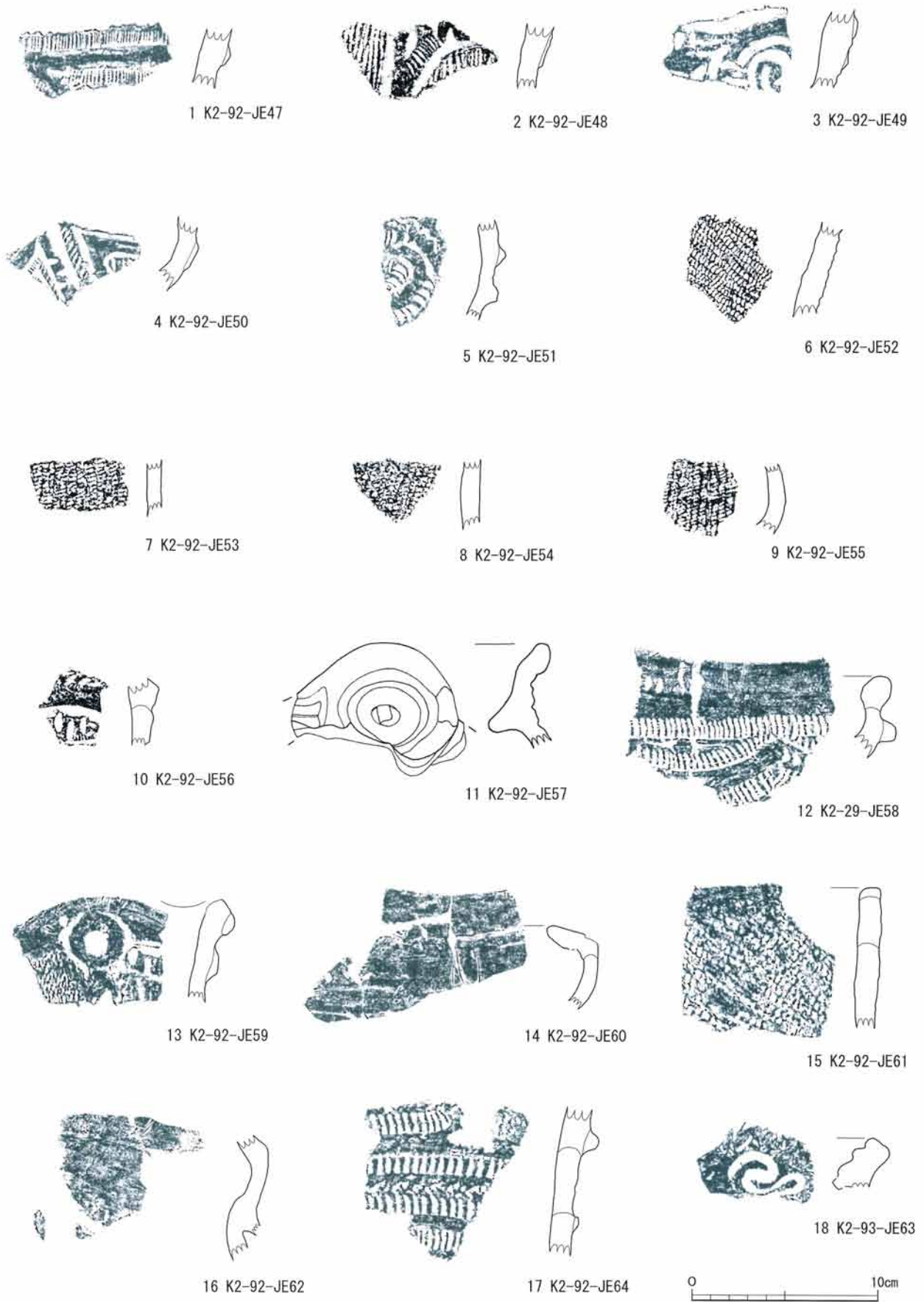


15 K2-92-JE46

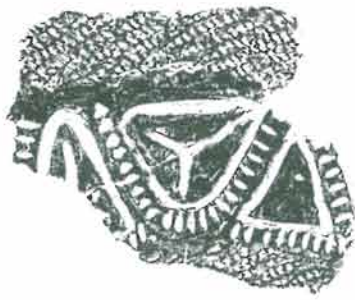


第66図 出土遺物実測図4 (縄文土器 1/3)





第 67 図 出土遺物実測図 5 (縄文土器 1 / 3)



1 K2-92-JE65



2 K2-92-JE66



3 K2-92-JE67



4 K2-92-JE68



5 K2-92-JE69



6 K2-92-JE70



7 K2-92-JE71



8 K2-92-JE72



9 K2-92-JE73



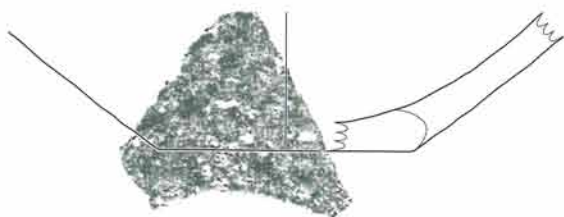
10 K2-92-JE74



11 K2-92-JE75



12 K2-92-JE76



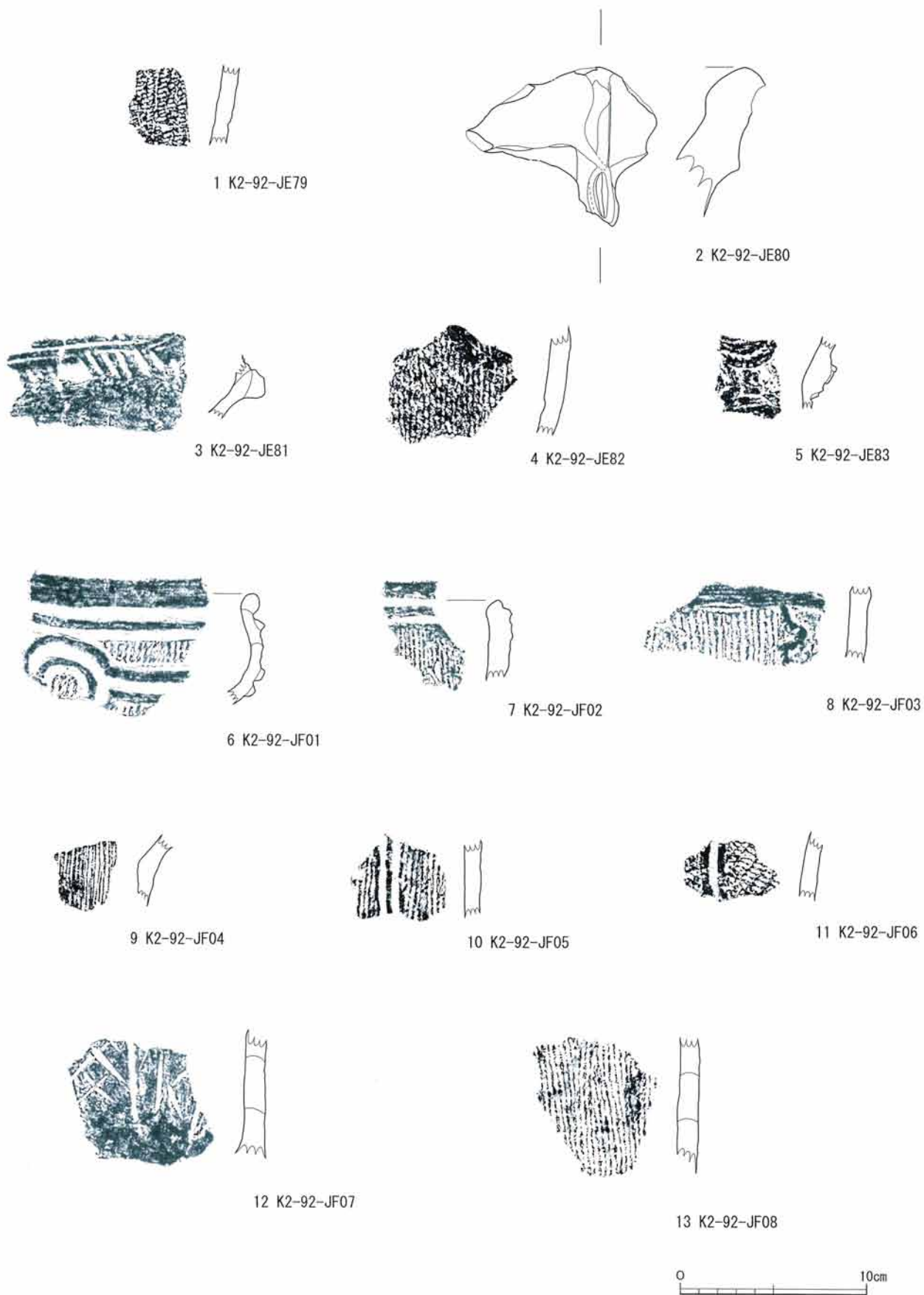
13 K2-92-JE77



14 K2-92-JE78

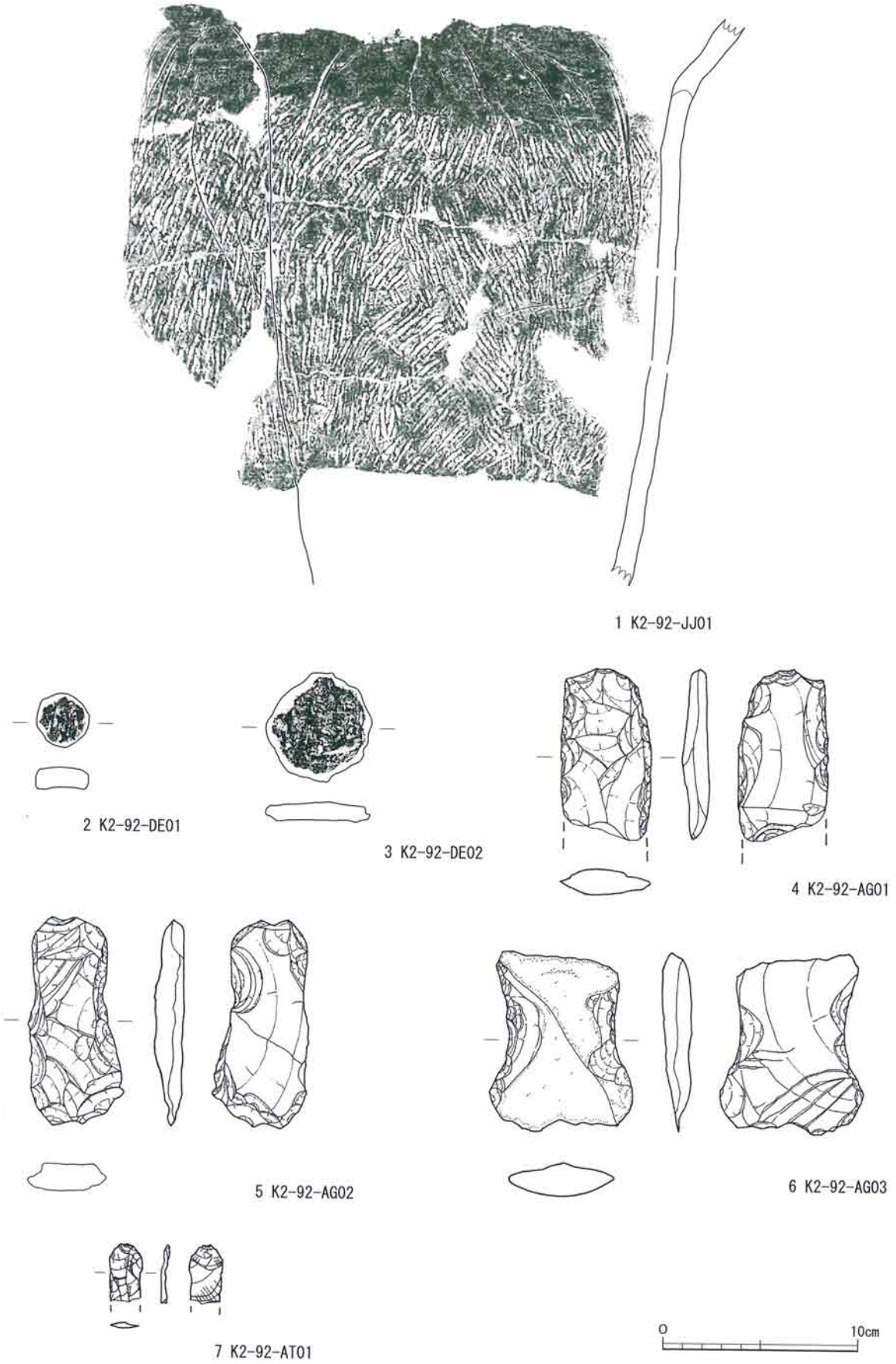


第68図 出土遺物実測図6 (縄文土器1/3)



第69図 出土遺物実測図7（縄文土器1／3）





第70図 出土遺物実測図8 (縄文土器・石器 1/3)

第13表 K2-92 遺物観察表（縄文時代土器）1

図面版 遺物番号	種別 器種	出土 位置	口径 器高 底径 (cm)	器形の特徴	成・整形の特徴	備考
第63図1 第71図1 JE01	深鉢	SI159J 覆土	— (25.0) 8.6	口縁部欠損。緩やかに外反しながら立ち上がる。やや円筒形に近い。	頸部と胴部の境に3条の沈線で区画し、下部はRLの縄文。上部はパネル文と曲線文を施文する。	勝坂Ⅲ期。暗黄色で胎土は比較的緻密。砂粒を少量含む。焼成は良好。
第63図3 第71図2 JE02	浅鉢	SI159J 覆土	((44.0)) (15.3) —	口縁部1/4残存。口唇部は大きく内側に屈曲する。	内・外面ともに光沢を持つ。ていねいな磨き。口縁部に横位の隆帯による渦巻文。	勝坂Ⅲ期。赤褐色で胎土は緻密。砂粒を少量含む。焼成は良好。
第63図2 第71図3 JE03	深鉢	SI159J 覆土	— (9.6) 12.4	底部から胴部の一部にかけて残存。やや円筒形に近いと思われる。	無文。内・外面ともに比較的ていねいな磨き。	勝坂Ⅲ期。赤褐色で胎土は比較的緻密。細砂粒を多く含む。焼成は良好。
第63図4 第71図4 JE04	浅鉢	SI159J 覆土	— (4.6) 13.0	底部のみ残存。底部径が広い大型の浅鉢。	無文。内・外面ともにやや粗い磨き。	勝坂Ⅲ期。暗褐色で胎土は比較的緻密。細砂粒と金雲母粒を多く含む。
第63図5 第71図5 JE05	深鉢	SI159J 覆土	((13.8)) (5.0) —	口縁部片。円筒形を呈すと思われる。	縦位のRL縄文を施文し、口唇部は平坦に整形。	勝坂Ⅲ期。暗褐色で胎土は比較的緻密。細砂粒を少量含む。焼成はやや不良。
第64図1 第71図6 JE06	深鉢	SI159J 覆土	— (10.9) —	口縁部から胴部にかけての破片。口縁部は膨らみ、キヤリバー形を呈す。	口縁部は無文。胴部は刻目をもつ隆帯で、四角形と三角形の区画を表出し、内側にも刻目の隆帯を付す。	勝坂Ⅱ期。パネル文で赤褐色。胎土はやや粗い。砂粒を多く含む。焼成は良好。
第64図2 第72図1 JE07	深鉢	SI159J 覆土	— (10.2) —	胴部片のため全体の器形は不明。	内・外面ともに粗い磨き。屈曲する貼付隆帯と沈線を縦位に施文。	勝坂Ⅲ期。表面は褐色、内面は黒色。胎土は比較的緻密で細砂粒を多く含む。焼成はやや不良。
第64図3 第72図2 JE08	深鉢	SI159J 覆土	— (5.4) —	口縁部片のため全体の器形は不明。	口縁部は無文。一部残る胴部には貼付隆帯と刻目を入れる。内・外面ともに粗い磨き。	勝坂Ⅲ期。褐色で胎土はやや粗く、砂粒を多く含む。焼成は良好。
第64図4 第72図3 JE09	深鉢	SI159J 覆土	— (5.2) —	胴部片のため全体の器形は不明。	内・外面ともに粗い磨き。刻目を入れた貼付隆帯と、楕円区画文の中にもキヤタピラ文を付す。	勝坂Ⅲ期。褐色で胎土はやや粗く、砂粒を多く含む。焼成はやや不良。
第64図5 第72図4 JE10	深鉢	SI159J 覆土	— (3.9) —	胴部片のため全体の器形は不明。	内・外面ともに比較的ていねいな磨き。刻目と沈線を連続して施す。	勝坂Ⅲ期。褐色で胎土は粗く砂粒を多く含む。焼成は良好。
第64図6 第72図5 JE11	深鉢	SI159J 覆土	— (2.8) —	胴部片のため全体の器形は不明。	内・外面ともに比較的ていねいな磨き。刻目を連続して施す。	勝坂Ⅲ期。外面は黒色。内面は褐色で胎土は緻密。砂粒を少量含む。焼成はやや不良。
第64図7 第72図6 JE12	深鉢	SI159J 覆土	— (2.4) 6.0	底部のみのため、全体の器形は不明。	内・外面ともに比較的ていねいな磨き。	勝坂Ⅲ期。外面は褐色。内面は黒色で胎土は緻密。砂粒を少量含む。焼成はやや不良。
第64図8 第72図7 JE13	深鉢 把手	SI159J 覆土	((27.0)) (5.3) —	口縁部片のため全体の器形は不明。口唇部は平坦で幅広い。	特に内面はていねいな磨き。隆帯による橋状把手。棒状工具による押圧痕と沈線。	勝坂Ⅲ期。褐色で胎土は粗い。ザラついており砂粒を多く含む。焼成は不良。
第64図9 第72図8 JE14	深鉢	SI159J 覆土	((11.0)) (6.9) —	口縁部から胴部にかけての破片。円筒形を呈すと思われる。口唇部は幅広く平坦。	口唇部直下に一条の沈線を巡らす。胴部は縦位のRL縄文を施文。	勝坂Ⅲ期。暗褐色で胎土は緻密。砂粒を少量含む。焼成は良好。
第64図10 第72図9 JE15	深鉢	SI159J 覆土	((22.0)) (4.2) —	口縁部片のため全体の器形は不明。垂直に立ち上がる口縁。口唇部は平坦で幅広い。	無文。内・外面ともにていねいな磨き。	勝坂Ⅲ期。褐色で胎土は緻密。細砂粒を多く含む。焼成は良好。
第64図11 第72図10 JE16	深鉢	SI159J 覆土	((30.0)) (4.5) —	口縁部片のため全体の器形は不明。頸部はやや膨らむ。垂直に立ち上がる口縁。口唇部は平坦。	内・外面ともにていねいな磨き。口唇部直下に一条の沈線を巡らす。その下部に貼付隆帯と押圧痕。	勝坂Ⅲ期。明褐色で胎土はやや粗い。白色砂粒を多量に含む。焼成は良好。
第65図1 第72図11 JE17	浅鉢	SI159J 覆土	((40.0)) (2.2) —	波状口縁の破片。口唇部は肥厚し、やや内傾する。	内・外面ともにていねいな磨き。	勝坂Ⅲ期。赤褐色。赤色塗彩か。胎土は緻密。砂粒を少量含む。焼成は良好。
第65図2 第72図12 JE18	深鉢	SI159J 覆土	((17.0)) (4.3) —	口縁部片。垂直に立ち上がることから円筒形を呈すと思われる。口唇部は平坦。	内・外面ともにていねいな磨き。	勝坂Ⅲ期。暗褐色で胎土は緻密。砂粒を少量含む。焼成は良好。
第65図3 第73図1 JE19	深鉢	SI159J 覆土	((16.0)) (3.9) —	口縁部片のため全体の器形は不明。口唇部を肥厚させ、やや尖頭状を呈す。	特に内面は光沢を持つ程度にていねいな磨き。外面には横位の蛇行する貼付隆帯を付す。	勝坂Ⅲ期。茶褐色で胎土は緻密。金雲母粒を少量含む。焼成は良好。
第65図4 第73図2 JE20	深鉢	SI159J 覆土	((33.6)) (4.4) —	波状口縁部片のため全体の器形は不明。口唇部は「く」字状に外傾する。	特に内面は光沢を持つ程度にていねいな磨き。外面は口唇部に刻目。頸部に刻目を入れた貼付隆帯。	勝坂Ⅲ期。褐色で胎土はやや粗い。砂粒を多く含む。焼成は良好。
第65図5 第73図3 JE21	深鉢	SI159J 覆土	— (2.9) —	底部片のため全体の器形は不明。	内・外面ともに調整は粗い。	勝坂Ⅲ期。褐色で胎土は比較的緻密。砂粒を少量含む。焼成は良好。



第14表 K2-92 遺物観察表(縄文時代土器) 2

図面版 遺物番号	種別 器種	出土 位置	口径 器高 底径 (cm)	器形の特徴	成・整形の特徴	備考
第65図6 第73図4 JE22	深鉢	SI159J 覆土	— (11.7) —	口縁部から胴部の破片。キャリパー形を呈する。胴部上位は大きく膨らむ。	内面はていねいな磨き。外面は刻目を入れた貼付隆帯で、胴部上半を区画する。下半は横位のRL縄文を施文。	勝坂Ⅲ期。暗褐色で胎土は緻密。焼成は良好。
第65図7 第73図5 JE23	深鉢	SI159J 覆土	— (5.0) —	胴部片のため全体の器形は不明。	内面はていねいな磨き。外面は細かい貼付隆帯に沿って刻目を入れる。	勝坂Ⅰ期。暗黄色で胎土はやや粗い。砂粒を多く含む。焼成はやや不良。
第65図8 第73図6 JE24	深鉢	SI159J 覆土	— (6.3) —	胴部片のため全体の器形は不明だが、垂直に立ち上がる器形であることから円筒形を呈する。	内面は粗い調整。外面は貼付隆帯と刻目を入れ、下部と縦位のLR縄文を施文する。	勝坂Ⅲ期。赤褐色で胎土は緻密。焼成は良好。
第65図9 第73図7 JE25	深鉢	SI159J 覆土	— (6.4) —	胴部片。キャリパー形を呈するか。	内面は粗い調整。外面は蛇行する貼付隆帯に刻目を入れる。	勝坂Ⅲ期。暗黄色で胎土は緻密。焼成は良好。
第65図10 第73図8 JE26	深鉢	SI159J 覆土	— (3.9) —	胴部片のため全体の器形は不明。	特に内面は光沢を持つ程度にていねいな磨き。外面の調整は粗く、楕円区画の隆帯に沿って刻目を入れる。	勝坂Ⅲ期。暗黄色で胎土は緻密。焼成は不良。
第65図11 第73図9 JE27	深鉢	SI159J 覆土	— (3.5) —	胴部片のため全体の器形は不明。	内・外面ともに調整は粗い。貼付隆帯で上下を二分し、縄文を施文する。	勝坂Ⅲ期。内面は黒色、外面は褐色。胎土はやや粗い。焼成は良好。
第65図12 第73図10 JE28	深鉢	SI159J 覆土	— (4.2) —	胴部片のため全体の器形は不明。	内面は比較的ていねいな磨き。外面は沈線と蛇行する低い貼付隆帯。	勝坂Ⅲ期。内面は黒色、外面は褐色。胎土はやや粗く砂粒を多く含む。焼成は良好。
第65図13 第73図11 JE29	深鉢	SI159J 覆土	— (4.0) —	胴部片のため全体の器形は不明。	内面は粗い磨き。外面は刻目を入れた楕円区画の内側に縦位の条線を施文する。	勝坂Ⅲ期。暗褐色。外面は黒色塗彩か。胎土は緻密。焼成は良好。
第65図14 第73図12 JE30	深鉢	SI159J 覆土	— (5.7) —	胴部片のため全体の器形は不明。	内面は粗い磨き。外面は縦位のRL縄文を施文する。	勝坂Ⅲ期。暗褐色で胎土はやや粗く、白色砂粒を多く含む。焼成は良好。
第65図15 第73図13 JE31	深鉢	SI159J 覆土	— (4.3) —	胴部片のため全体の器形は不明。	内面は粗い磨き。外面は横位のRL縄文を施文する。	勝坂Ⅲ期。暗黄色。胎土はやや粗く、白色砂粒を多く含む。焼成は不良。
第66図1 第73図14 JE32	深鉢	SI159J 覆土	— (3.7) —	胴部片のため全体の器形は不明。	内面はややていねいな磨き。外面は縦位の条線。	勝坂Ⅲ期。暗褐色。胎土はやや粗く、白色砂粒を多く含む。焼成は良好。
第66図2 第73図15 JE33	深鉢	SI159J 覆土	— (3.4) —	胴部片のため全体の器形は不明。	内面は粗い調整。外面は横位のRL縄文を施文する。	勝坂Ⅲ期。内面は黒色、外面は褐色。胎土はやや粗く、砂粒を少量含む。焼成はやや良好。
第66図3 第73図16 JE34	深鉢	SI159J 覆土	— (3.2) —	胴部片のため全体の器形は不明。	内・外面ともに粗い調整。外面は縦位の条線を施文する。	勝坂Ⅲ期。明褐色。胎土はやや粗く、砂粒を多く含む。焼成は不良。
第66図4 第73図17 JE35	深鉢	SI159J 覆土	— (3.8) —	胴部片のため全体の器形は不明。	内面は比較的ていねいな磨き。外面は横位のRL縄文を施文する。	勝坂Ⅲ期。暗褐色で胎土は緻密。焼成は良好。
第66図5 第74図1 JE36	深鉢	SI159J 覆土	— (3.4) (10.0)	底部片のため全体の器形は不明。	内面は未調整。外面はていねいな磨き。	勝坂Ⅲ期。内面は黒色、外面は褐色。胎土はやや粗く、白色砂粒を多く含む。
第66図6 第74図2 JE37	深鉢	SI159J 覆土	— (4.7) —	胴部片のため全体の器形は不明。	内面は未調整。外面は貼付隆帯による楕円区画に沿って刻目を入れ、内側には縄文を施文。下部は無文の磨き。	勝坂Ⅲ期。内面は黒色、外面は褐色。胎土はやや粗く、白色砂粒を少量含む。焼成は不良。
第66図7 第74図3 JE38	深鉢	SI159J 覆土	— (13.0) —	口縁部から胴部にかけて残存。円筒形を呈する。口唇部は平坦で狭い。	内面は光沢を持つ程度にていねいな磨き。外面は縦位のRL縄文を施文する。	勝坂Ⅲ期。暗褐色で胎土は緻密。焼成は良好。
第66図8 第74図4 JE39	深鉢	SI159J 覆土	— (4.5) —	口縁部片。キャリパー形か。口唇部は肥厚し、斜位にやや平坦。刻目を入れる。	内面はていねいな磨き。外面は光沢を持つ程度にていねいな磨き。	勝坂Ⅲ期。黒色で胎土は緻密。焼成は良好。
第66図9 第74図5 JE40	深鉢	SI159J 覆土	— (3.0) —	口縁部片のため全体の器形は不明。外側に大きく張り出して口唇部は幅広く平坦。	内・外面ともに比較的ていねいな磨き。口唇部に沿って刻目を入れる。	勝坂Ⅲ期。茶褐色で胎土はやや粗く、白色砂粒を多く含む。焼成は良好。
第66図10 第74図6 JE41	深鉢	SI159J 覆土	— (5.7) —	口縁部から胴部上半にかけての破片。口唇部は外側に大きく張り出して幅広く、平坦。	内面・外面はていねいな磨き。胴部には縦位のRL縄文を施文。	勝坂Ⅲ期。茶褐色で胎土は緻密。焼成は良好。



第15表 K2-92 遺物観察表(縄文時代土器) 3

図面版 遺物番号	種別 器種	出土 位置	口径 器高 底径 (cm)	器形の特徴	成・整形の特徴	備考
第66図11 第74図7 JE42	深鉢	SI159J 覆土	— (4.3) —	口縁部片のため全体の器形は不明。口唇部は外側に大きく張り出して幅広く、平坦。	頸部にあたると思われる部分に棒状工具による圧痕。	勝坂Ⅲ期。内面は褐色。外面は薄黒色。胎土は緻密。焼成はやや不良。
第66図12 第74図8 JE43	深鉢	SI159J 覆土	— (5.9) —	胴部片のため全体の器形は不明。	内・外面ともに粗い磨き。頸部にあたると思われる部分を部分的に肥厚させた貼付隆帯を巡らす。	勝坂Ⅲ期。内面は暗黄色。外面は茶褐色。胎土はやや粗く、白色砂粒を多く含む。焼成は良好。
第66図13 第74図9 JE44	深鉢	SI159J 覆土	— (6.5) —	胴部片のため全体の器形は不明。	内・外面ともに粗い磨き。貼付隆帯に沿って刻目と波状沈線を巡らす。	勝坂Ⅰ期。暗茶色で胎土は緻密。焼成はやや不良。
第66図14 第74図10 JE45	浅鉢	SI159J 覆土	— (9.6) —	胴部片のため全体の器形は不明。	無文。内・外面ともに光沢を持つ程度にていねいな磨き。	勝坂Ⅲ期。茶褐色で胎土は緻密。焼成は良好。
第66図15 第74図11 JE46	浅鉢	SI159J 覆土	— (6.5) —	胴部片のため全体の器形は不明。	無文。内・外面ともに光沢を持つ程度にていねいな磨き。	勝坂Ⅲ期。茶褐色で胎土は粗い。砂粒を多く含む。焼成は良好。
第67図1 第74図12 JE47	深鉢	SI159J 覆土	— (3.3) —	胴部片のため全体の器形は不明。	内面は未調整。外面は貼付隆帯で二分し、沿ってキョウビラ文を施文する。	勝坂Ⅱ期。茶褐色で胎土は緻密。焼成は良好。
第67図2 第74図13 JE48	深鉢	SI159J 覆土	— (3.4) —	胴部片のため全体の器形は不明。	内面は未調整。外面は刻目を入れた貼付隆帯と沈線で区画する。	勝坂Ⅲ期。暗茶色で胎土は粗く、白色砂粒を多く含む。焼成はやや不良。
第67図3 第74図14 JE49	深鉢	SI159J 覆土	— (4.2) —	胴部片のため全体の器形は不明。	内面は比較的ていねいな磨き。外面は沈線による渦巻文。	勝坂Ⅲ期。褐色で胎土はやや粗く、白色砂粒を多く含む。焼成は良好。
第67図4 第74図15 JE50	深鉢	SI159J 覆土	— (4.0) —	胴部片のため全体の器形は不明。	内面はていねいな磨き。外面は垂下する貼付隆帯に刻目を入れ、沿って交互刺突を施す。	勝坂Ⅲ期。内面は黒色。外面は暗褐色。胎土は緻密。焼成は良好。
第67図5 第74図16 JE51	深鉢	SI159J 覆土	— (5.4) —	胴部片のため全体の器形は不明。	内面は未調整。外面は貼付隆帯により楕円区画し、これに沿ってキョウビラ文を施す。	勝坂Ⅲ期。褐色で胎土はやや粗く、金雲母を多く含む。焼成は不良。
第67図6 第75図1 JE52	深鉢	SI159J 覆土	— (5.1) —	胴部片のため全体の器形は不明。	内面は比較的ていねいな磨き。外面は縦位のRL縄文を施文。	勝坂Ⅲ期。暗褐色。胎土はやや粗く、砂粒を多く含む。焼成は不良。
第67図7 第75図2 JE53	深鉢	SI159J 覆土	— (3.2) —	胴部片のため全体の器形は不明。	内面は比較的ていねいな磨き。表面は横位のRL縄文を施文する。	勝坂Ⅲ期。内面は黒色、外面は褐色。胎土はやや緻密。焼成は不良。
第67図8 第75図3 JE54	深鉢	SI159J 覆土	— (4.0) —	胴部片のため全体の器形は不明。	内面はやや粗い磨き。表面は縦位のRL縄文を施文する。	勝坂Ⅲ期。内面は黒色、外面は褐色。胎土は粗く、金雲母を少量含む。焼成は不良。
第67図9 第75図4 JE55	深鉢	SI159J 覆土	— (4.0) —	胴部片のため全体の器形は不明。	内面はやや粗い磨き。表面は縦位のRL縄文を施文する。	勝坂Ⅲ期。内面は暗茶色。外面は茶色。胎土は緻密。焼成は不良。
第67図10 第75図5 JE56	深鉢	SI159J 覆土	— (3.6) —	口縁部片のため全体の器形は不明。	内面は未調整。外面は棒状工具による圧痕と沈線を一条巡らす。	勝坂Ⅲ期。暗茶色で胎土は粗く、白色砂粒を多く含む。焼成は不良。
第67図11 第75図6 JE57	深鉢 把手	SI159J 覆土	— (5.5) —	波状口縁の把手。	内面は粗い磨き。外面は沈線による渦巻文。	勝坂Ⅲ期。薄黒色で胎土は緻密。焼成は良好。
第67図12 第75図7 JE58	深鉢	SI159J 覆土	— (4.1) —	口縁部片のため全体の器形は不明。口唇部は肥厚させ外傾する。	内面はていねいな磨き。外面はキョウビラ文と刻目を部分的に入れた貼付隆帯。	勝坂Ⅰ期。内面は赤褐色。外面は暗褐色。胎土は緻密。焼成は良好。
第67図13 第75図8 JE59	深鉢	SI159J 覆土	— (5.6) —	波状口縁の破片。	内面は未調整。外面は波頂部に環状に隆帯を貼付し、Rの燃糸と交互の刺突を施す。	勝坂Ⅲ期。暗茶色で胎土はやや緻密。焼成は良好。
第67図14 第75図9 JE60	深鉢	SI159J 覆土	— (4.5) —	「く」字状に屈曲する口縁部片。	内・外面ともにややていねいな磨き。無文。	勝坂Ⅲ期。暗黄色で胎土は緻密。焼成は良好。
第67図15 第75図10 JE61	深鉢	SI159J 覆土	— (7.7) —	口縁部から胴部にかけての破片。円筒形を呈し、口唇部はゆるやかな丸みを持つ。	内面はていねいな磨き。外面は縦位のRL縄文を施文する。	勝坂Ⅲ期。内面は黒色、外面は褐色。胎土は緻密。焼成は良好。

第16表 K2-92 遺物観察表(縄文時代土器) 4

図面版 遺物番号	種別 器種	出土 位置	口径 器高 底径 (cm)	器形の特徴	成・整形の特徴	備考
第67図16 第75図11 JE62	深鉢	SI159J 覆土	— (6.9)	頸部から胴部にかけての破片。 キャリパー形を呈するか。	内面は未調整。外面はややていねいな磨き。無文。	勝坂Ⅲ期。暗黄色。胎土はやや粗く、白色砂粒を多く含む。焼成は不良。
第67図18 第75図12 JE63	深鉢	SI159J 覆土	— (2.8)	波状口縁の頂部片。	内面は未調整。外面は沈線による渦巻文を施す。	勝坂Ⅲ期。茶褐色。胎土はやや粗く、金雲母を多く含む。焼成は良好。
第67図17 第75図13 JE64	深鉢	SI159J 覆土	— (8.2)	大型の深鉢胴部片。	内面はやや粗い磨き。外面は四段の横位のキャタピラ文。	勝坂Ⅰ期。暗褐色。胎土は緻密。焼成は不良。
第68図1 第75図14 JE65	深鉢	SI159J 覆土	— (9.5)	大型の深鉢胴部片。キャリパー形を呈するか。	内面は粗い磨き。外面は上段に縦位のRL縄文、下段は刻目を入れた貼付隆帯で三角形の区画をし、内側に三叉文を入れる。	勝坂Ⅲ期。暗褐色。胎土は緻密。焼成は良好。
第68図2 第75図15 JE66	深鉢	SI159J 覆土	— (5.6)	胴部片のため全体の器形は不明。	内面はていねいな磨き。外面は縦位のRL縄文を施文。	勝坂Ⅲ期。暗褐色。胎土は緻密。焼成は良好。
第68図3 第76図1 JE67	深鉢	SI159J 覆土	— (7.2)	胴部片。直線状に立ち上がることから円筒形を呈するか。	内面は粗い磨き。表面は縦位のRL縄文を施文。	勝坂Ⅲ期。暗褐色。胎土は緻密。焼成は良好。
第68図4 第76図2 JE68	深鉢	SI159J 覆土	— (5.4)	胴部片のため全体の器形は不明。	内面は粗い磨き。外面は横位貼付隆帯の上下に沿ってキャタピラ文。	勝坂Ⅱ期。暗褐色。胎土は緻密。焼成はやや不良。
第68図5 第76図3 JE69	深鉢	SI159J 覆土	— (2.3)	胴部片のため全体の器形は不明。	内面はていねいな磨き。外面は二条の矢羽根状の刻目。	勝坂Ⅰ期。内面は黒色、外面は褐色。胎土はやや粗く、砂粒を少量含む。焼成は良好。
第68図6 第76図4 JE70	深鉢	SI159J 覆土	— (5.4)	胴部片のため全体の器形は不明。	内面はていねいな磨き。外面は無節のR燃糸文を施文。	勝坂Ⅲ期。内面は黒色、外面は褐色。胎土は緻密で、焼成は良好。
第68図7 第76図5 JE71	深鉢	SI159J 覆土	— (4.3)	胴部片のため全体の器形は不明。	内面はやや粗い磨き。外面は縦位2列の列点文と「U」字状の沈線文。	勝坂Ⅲ期。内面は黄色。外面は薄黒色。胎土は緻密。焼成良好。
第68図8 第76図6 JE72	深鉢	SI159J 覆土	— (4.4)	胴部片のため全体の器形は不明。	内面はやや粗い磨き。外面は縦位のRL縄文を施文。	勝坂Ⅲ期。内面は茶褐色、外面は褐色。胎土は緻密で、焼成は良好。
第68図9 第76図7 JE73	深鉢	SI159J 覆土	— (3.7)	胴部片のため全体の器形は不明。	内面はていねいな磨き。外面は無節のR燃糸文を施文。連弧文系。	勝坂Ⅲ期。茶褐色。胎土は緻密で、焼成は良好。
第68図10 第76図8 JE74	深鉢	SI159J 覆土	— (3.9)	胴部片のため全体の器形は不明。	内面は粗い磨き。外面は縦位のRL縄文を地文とし、横位の沈線を巡らす。	勝坂Ⅲ期。暗黄色。胎土は粗く砂粒を多く含む。焼成は不良。
第68図11 第76図9 JE75	深鉢	SI159J 覆土	— (2.7)	胴部片のため全体の器形は不明。	内面は粗い磨き。外面は条線を施す。	勝坂Ⅲ期。内面は赤褐色。外面は暗褐色。胎土は緻密。焼成は良好。
第68図12 第76図10 JE76	深鉢	SI159J 覆土	— (3.8)	胴部片のため全体の器形は不明。	内面はていねいな磨き。外面は無節のR燃糸文を地文とし横位の波状沈線。	勝坂Ⅲ期。暗褐色で胎土は緻密。焼成は良好。
第68図13 第76図11 JE77	浅鉢	SI159J 覆土	— (5.5) ((10.0))	大型の浅鉢の底部片。	内・外面共に粗い磨き。無文。	勝坂Ⅲ期。薄黒色で胎土は粗い。砂粒・小石を多く含む。焼成は良好。
第68図14 第76図12 JE78	深鉢	SI159J 覆土	— (3.6) ((8.4))	小型の浅鉢の底部片。	内・外面共に粗い磨き。無文。	勝坂Ⅲ期。暗黄色で胎土は緻密。焼成はやや不良。
第69図1 第76図13 JE79	深鉢	SI159J 覆土	— (4.3)	胴部片のため全体の器形は不明。	内面はややていねいな磨き。外面は縦位のRL縄文を施文。	勝坂Ⅲ期。内面は黒色。外面は褐色。胎土は緻密。焼成は良好。
第69図2 第76図14 JE80	深鉢 把手	遺構外	— (8.5)	大型の深鉢の波状口縁の把手部。	内面は未調整。外面はややていねいな磨き。波頂部から垂下する連鎖文。	勝坂Ⅲ期。連鎖文。赤褐色で胎土はやや粗い。小石を少量含む。焼成良好。
第69図3 第76図15 JE81	浅鉢	遺構外	— (3.4)	浅鉢の口縁部片。頸部が大きく張り出す。	内面はやや粗い磨き。外面は張り出し部に刻目を入れる。	勝坂Ⅲ期。褐色で胎土はやや粗く砂粒を多く含む。焼成は良好。
第69図4 第76図16 JE82	深鉢	遺構外	— (5.8)	胴部片のため全体の器形は不明。	内面はやや粗い磨き。外面は横位のRL縄文を施す。	勝坂Ⅲ期。暗黄色で胎土は緻密。焼成はやや不良。

第17表 K2-92 遺物観察表（縄文時代土器）5

図面 図版 遺物番号	種別 器種	出土 位置	口径 器高 底径 (cm)	器形の特徴	成・整形の特徴	備考
第69図5 第76図17 JE83	深鉢	遺構外	— (3.9) —	胴部片のため全体の器形は不明。頸部にかけてやや屈曲する。	内面はややていねいな磨き。貼付隆帯による楕円区画を表出し、内側に沿って矢羽根状の押し引き。	勝坂I期。暗茶褐色で胎土は粗い。小石、砂粒を多く含む。焼成は不良。
第69図6 第77図1 JF01	深鉢	SI159J 覆土	— (6.0) —	口縁部分。キャリパー形を呈するか。	内面はていねいな磨き。口縁に沿って沈線を一条巡らせ、貼付隆帯と沈線による渦巻文と楕円区画を施す。地文はR縄文。	加曾利E1。暗黄色で胎土は緻密。焼成は良好。
第69図7 第77図2 JF02	深鉢	SI159J 覆土	— (4.8) —	口縁部片のため全体の器形は不明。口唇部は狭いが平坦。	内面はていねいな磨き。口縁に沿って沈線を二条巡らす。胴部にかけて条線を施す。	加曾利E3。暗灰色で胎土は緻密。焼成は不良。
第69図8 第77図3 JF03	深鉢	SI159J 覆土	— (4.1) —	頸部片のため全体の器形は不明。	内面は粗い磨き。条線を地文とし、蛇行する貼付隆帯を垂下する。	加曾利E3。暗茶褐色で胎土は粗く、砂粒を多く含む。焼成は不良。
第69図9 第77図4 JF04	深鉢	SI159J 覆土	— (4.1) —	やや屈曲する頸部片。	内面は未調整。外面は条線を施す。	加曾利E3。内面は黒色。外面は暗黄色。胎土はやや粗く砂粒を多く含む。焼成は不良。
第69図10 第77図5 JF05	深鉢	SI159J 覆土	— (4.3) —	胴部片のため全体の器形は不明。	内面はやや粗い磨き。外面はRの擦糸を地文とし、2本の沈線を垂下する。	加曾利E3。内面は黒色。外面は褐色。胎土は粗く砂粒を多く含む。焼成は不良。
第69図11 第77図6 JF06	深鉢	SI159J 覆土	— (3.8) —	胴部下半から底部上半にかけての破片。	内面はていねいな磨き。外面は沈線と綾杉文を施す。	加曾利E3。内面黒色、外面暗黄色。胎土は緻密、焼成良好。
第69図12 第77図7 JF07	深鉢	SI159J 覆土	— (7.0) —	胴部片のため全体の器形は不明。	内面はやや粗い磨き。外面は縦位のR縄文を地文とし、2本の貼付隆帯を垂下する。	加曾利E3。暗褐色で胎土はやや粗く、小石を少量含む。焼成は不良。
第69図13 第77図8 JF08	深鉢	遺構外	— (7.3) —	胴部片のため全体の器形は不明。	内面はていねいな磨き。外面は縦位のR縄文を施す。	加曾利E3。暗褐色で胎土は粗い。砂粒を多量に含む。焼成は不良。
第70図1 第77図9 JJ01	深鉢	SI159J 覆土	— (29.1) —	円筒形で底部径大ぶり。頸部が大きく外傾。	内面はていねいな磨き。外面は胴部にR無節の撚り戻し縄文を施す。頸部と下部は無文。	勝坂末～加曾利初頭。大木7b。円筒型で底部径が大ぶり。R無節。撚り戻し縄文。暗褐色で胎土はやや粗く、砂粒を多く含む。焼成は良好。

第18表 K2-92 遺物観察表（土製品）

図面 図版 遺物番号	種別 器種	出土 位置	径 厚 (cm)	形の特徴	成・整形の特徴	備考
第70図2 第77図10 DE01	土製円板	SI159J 覆土	2.8 1.1	ほぼ円形で小型。	内面はていねいな磨き。外面は無文。	暗茶褐色で胎土は緻密。焼成は良好。
第70図3 第77図11 DE02	土製円板	SI159J 覆土	5.6 1.1	やや歪んだ不整楕円形底部片を再利用。	内・外面はていねいな磨き。無文。	内面は黒色。外面は茶褐色。胎土はやや粗く、砂粒を多く含む。焼成は良好。

第19表 K2-92 遺物観察表（石器）

図面 図版 遺物番号	種別 形態	出土位置	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	遺存 状態	石材	備考
第70図4 第77図12 AG01	打製石斧	SI159J 覆土	(8.7)	4.6	1.5	69.0	刃部 欠損	砂岩	短冊形。
第70図5 第77図13 AG02	打製石斧	SI159J 覆土	10.6	5.0	1.5	85.7	完形	ホルン フェルス	楔形。
第70図6 第77図14 AG03	打製石斧	III層	9.1	7.3	1.5	116.1	完形	砂岩	やや寸詰まりの分胴形。
第70図7 第77図15 AT01	剥片	SI159J 覆土	(3.0)	1.8	0.3	1.5	欠損	黒曜石	縦長剥片、端部欠損。





1 K2-92-JE01



2 K2-92-JE02



3 K2-92-JE03



4 K2-92-JE04



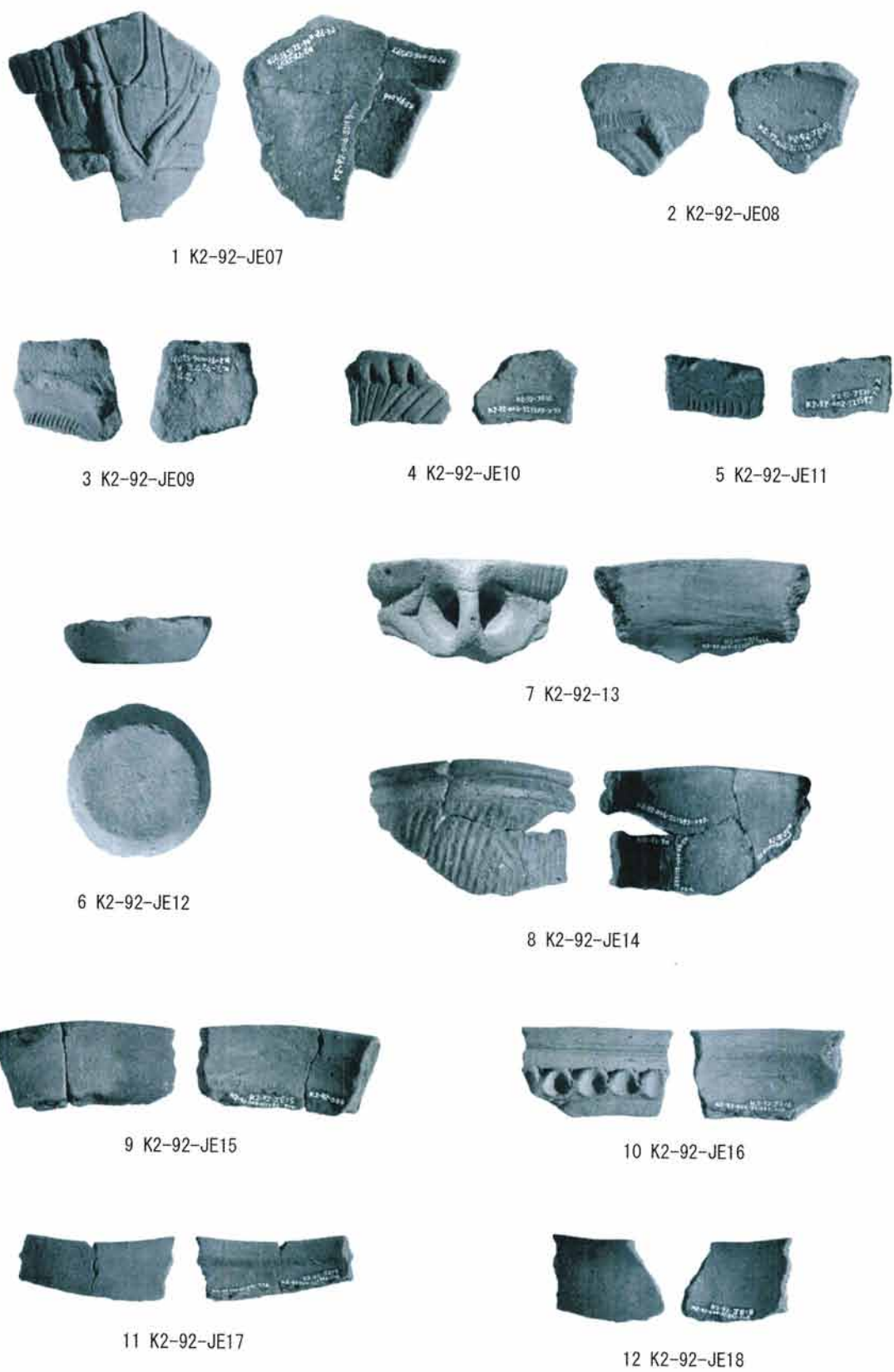
6 K2-92-JE06



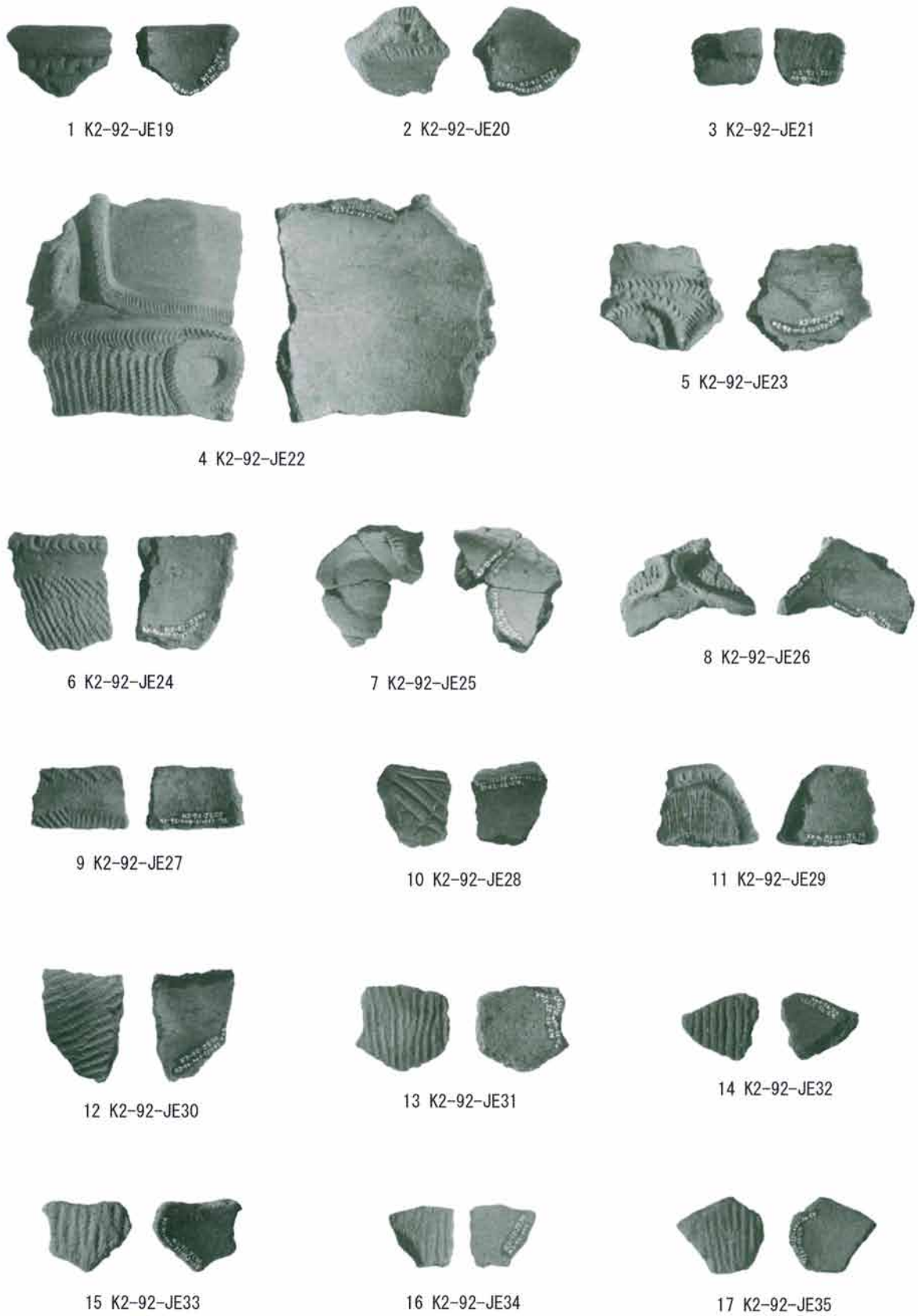
5 K2-92-JE05



第71図 出土遺物写真1

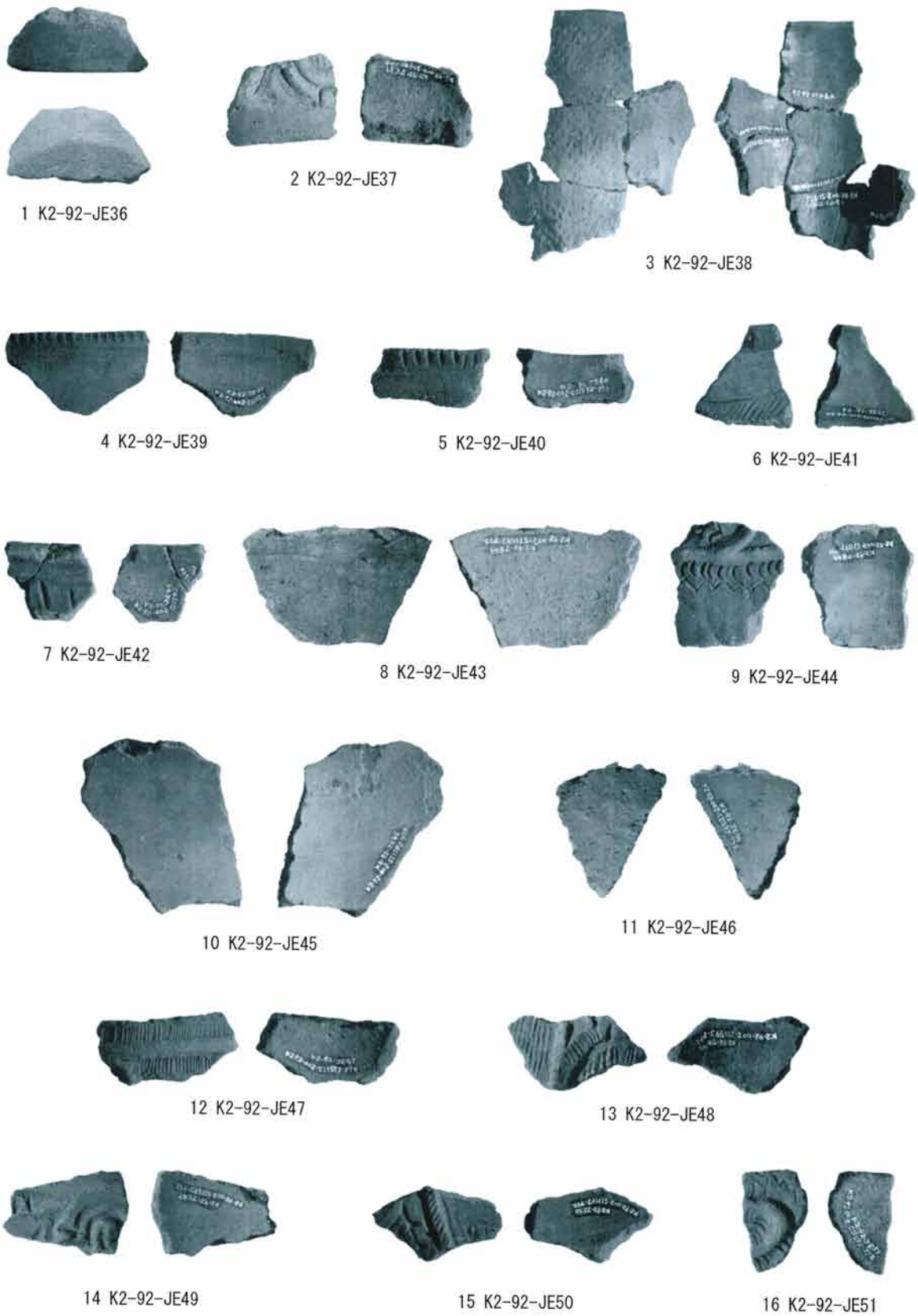


第72図 出土遺物写真2

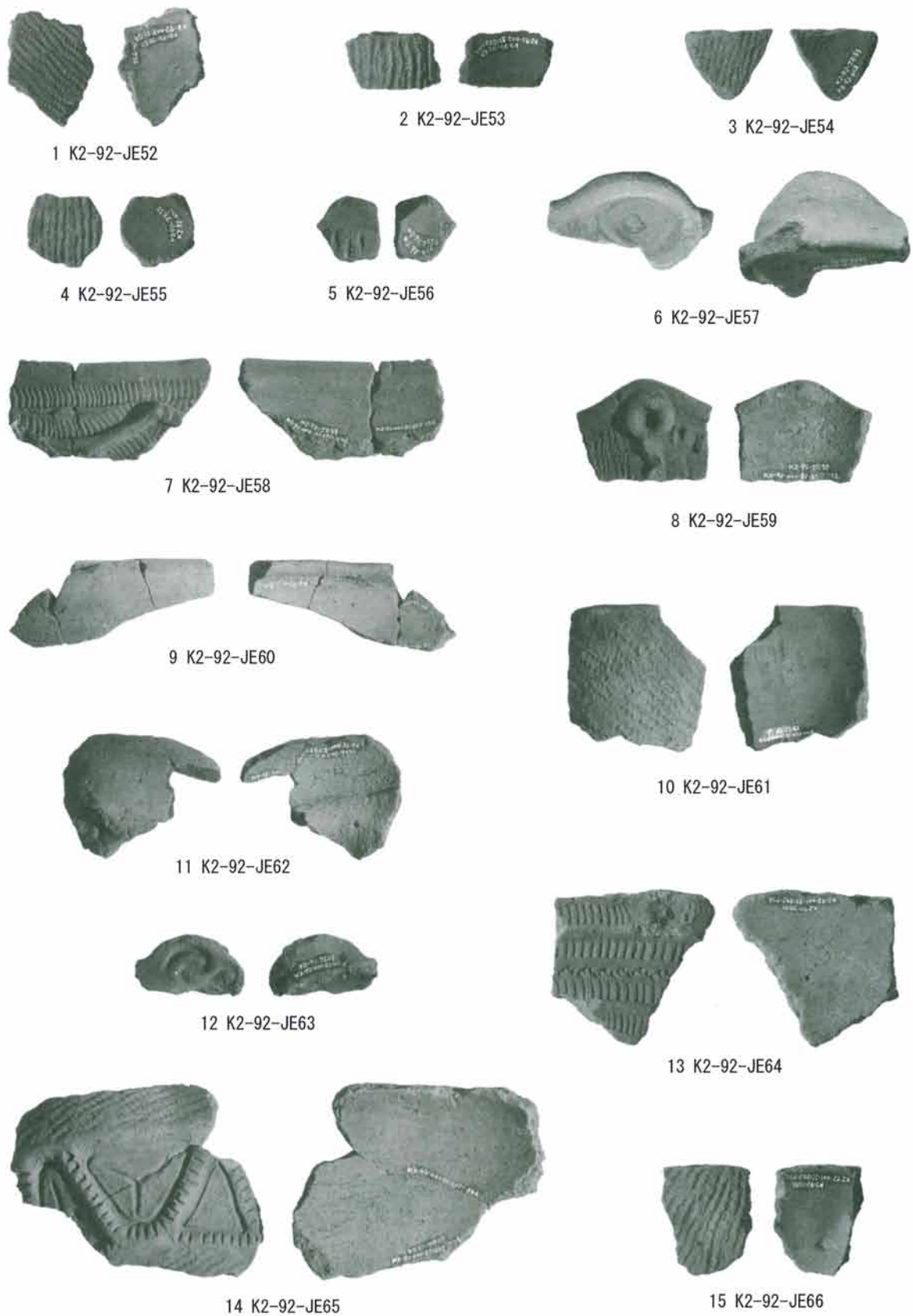


第73図 出土遺物写真3

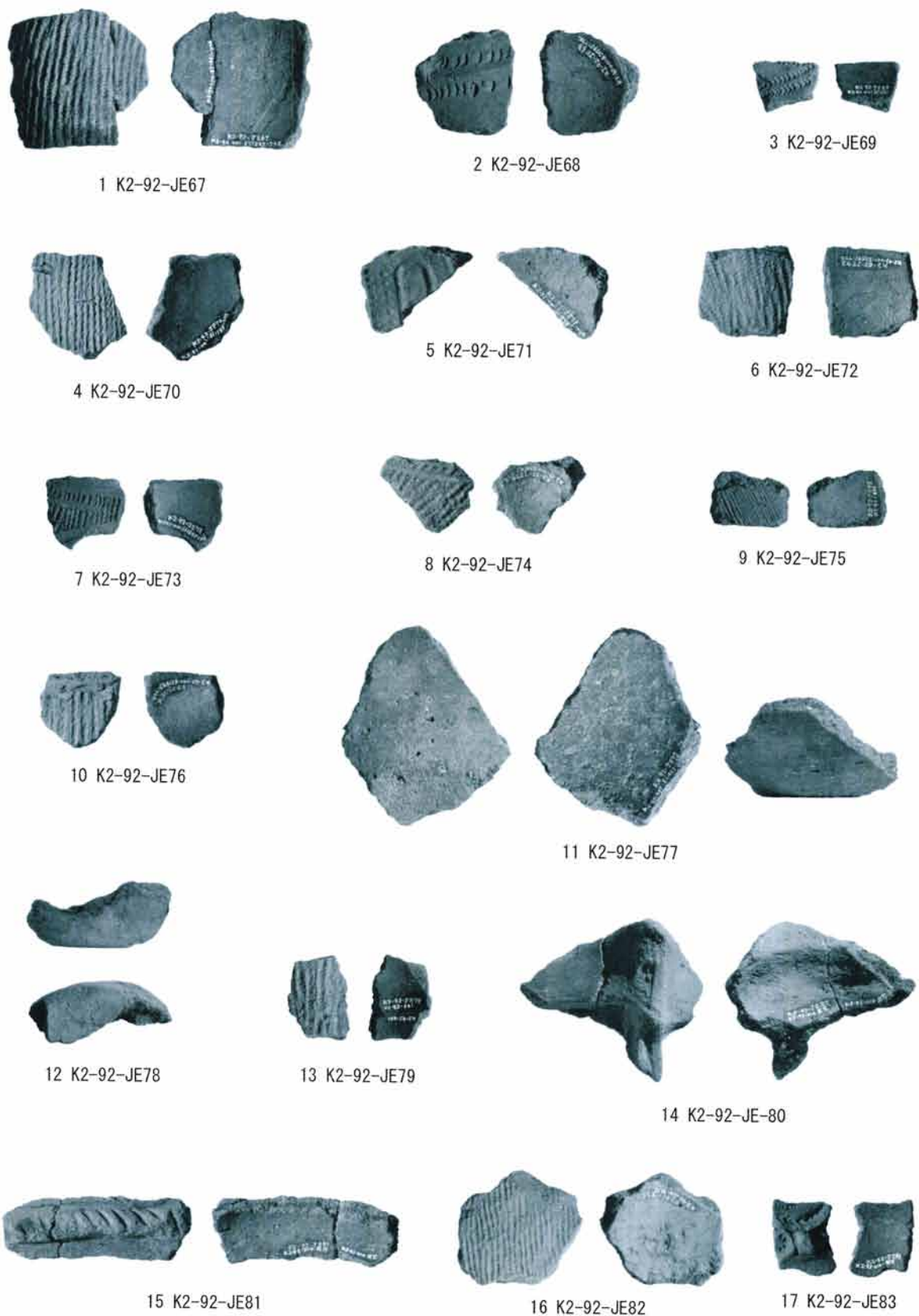




第74図 出土遺物写真4

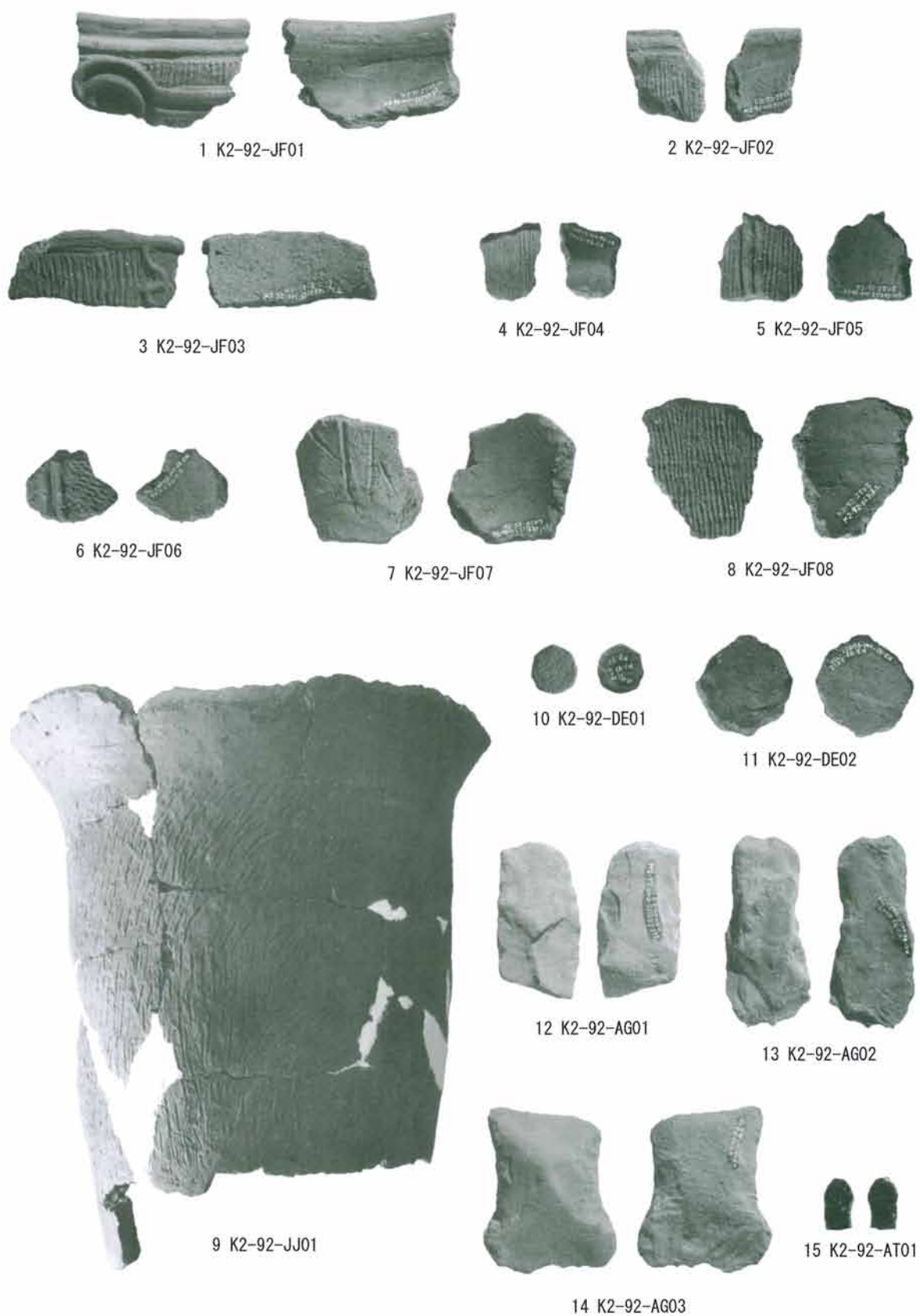


第75図 出土遺物写真5



第76図 出土遺物写真6





第77図 出土遺物写真7

第3節 確認調査

(1) 武蔵国分寺跡第676次

所在地	国分寺市西元町 3-2052-1		
調査原因	分譲住宅建設		
調査期間	平成 24 年 5 月 21 日～5 月 25 日		
調査面積	8.37 m <sup>2</sup>	遺物箱数	なし
検出遺構	なし		
主な遺物	なし		



第 78 図 MK II - 676 調査地位置図

調査区は、武蔵国分寺跡 (No.10・19 遺跡) に該当する。僧寺寺院地内の南東に位置し、北西方約 140 m に七重塔が存在する。遺構の密集度が比較的少なく、苑院 (菜園), 花園院 (花園) に比定される地域である。

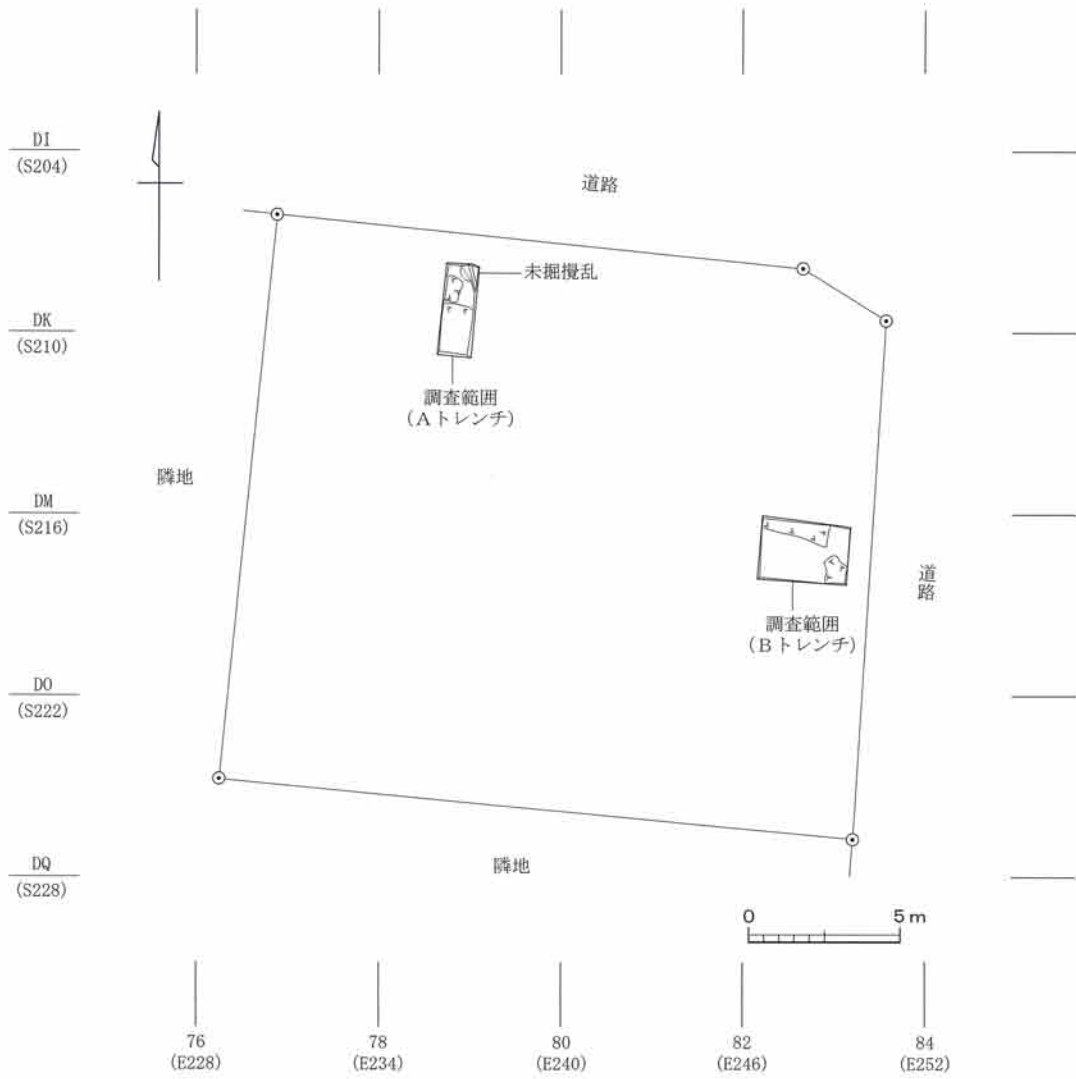
当該地は、旧石器・縄文・奈良・平安時代等の遺構や遺物が存在する可能性があるため、給排水管の埋設によって遺構に影響が及ぶ範囲を対象として、2カ所 (A・B トレンチ) に調査区を設定し、より詳しく埋蔵文化財の有無・内容・性格等を把握する目的で確認調査を行った。

調査面積は 8.37 m<sup>2</sup> である。現地調査は平成 24 年 5 月 21 日から平成 24 年 5 月 25 日に実施した。

調査区内は、地表下約 20～70 cm の深さまで、基本層序 I 層 (表土・盛土) に覆われ、その下の基本層序 III b 層～V a 層において、遺構確認を行ったが、遺構・遺物は検出されなかった。



第 79 図 MK II - 676 調査区土層柱状図



第 80 図 MK II - 676 調査地全体図 (1 / 250)



第 81 図 A トレンチ全景 (南から)

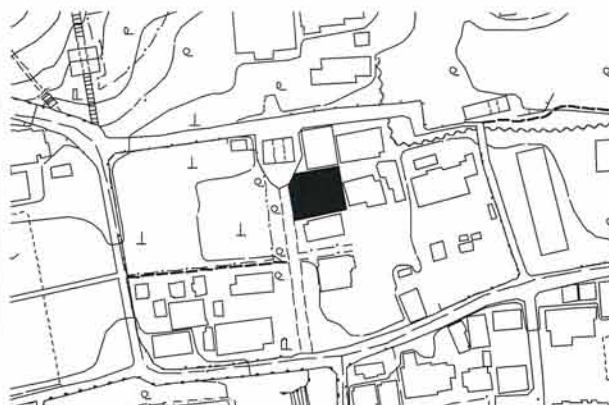


第 82 図 B トレンチ全景 (西から)



(2) 武蔵国分寺跡第 678 次

所在地	国分寺市西元町 1-14-9		
調査原因	分譲住宅建設		
調査期間	平成 24 年 6 月 25 日～7 月 2 日		
調査面積	11.31 m <sup>2</sup>	遺物箱数	1 箱
検出遺構	SX334		
主な遺物	歴史時代土器・瓦・石製品		



第 83 図 MK I - 678 調査地位置図

調査区は、武蔵国分寺跡(No.10・19 遺跡)に該当する。調査地は僧寺伽藍地内の北方にあたり、国分寺崖線下、立川段丘面上に立地する。

当該地は、旧石器・縄文・奈良・平安時代等の遺構や遺物が存在する可能性があるため、給排水管の埋設によって遺構に影響が及ぶ範囲を対象として、より詳しく埋蔵文化財の有無・内容・性格等を把握する目的で確認調査を行った。

調査面積は 11.31 m<sup>2</sup>である。現地調査は平成 24 年 6 月 25 日から平成 24 年 7 月 2 日に実施した。

調査の結果、遺構が 1 基検出され、遺構の調査は、規模及び性格を確認する目的で、一部遺構の断ち割りを行った以外は、工事掘削による遺構への影響がないと判断されたため、平面確認にとどめ、遺構は現状保存とした。

調査地内は、地表下約 50～90 cm まで基本層序 I 層(表土・盛土)で、その下の基本層序 III a 層の上層に堆積した暗茶褐色土において遺構確認を行った。検出遺構は不明掘り込み 1 基(SX334)である。遺物は、遺構内外から須恵器、土師器、土師質土器、瓦、砥石等が出土した。

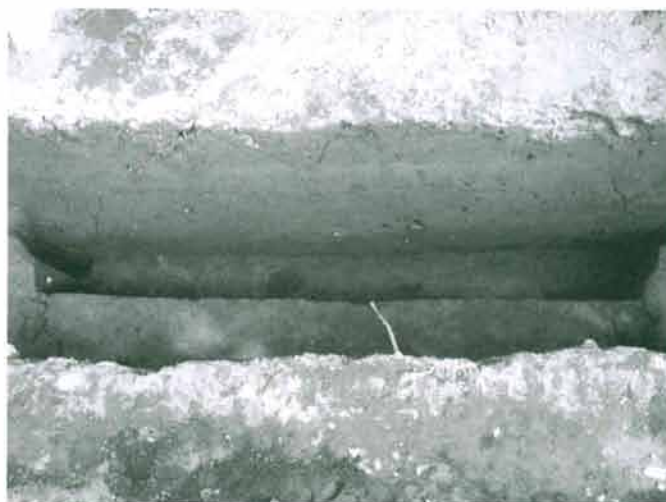
SX334 は、本調査区外の北および南側に広がり、遺構の全容は明確ではない。一部断ち割り調査した結果、規模が東西約 3.6 m、南北約 1 m 以上、深さは約 50 cm を測り、底面の形状はほぼ平坦で、覆土は黒褐色土の単一層であった。遺物は、土師器、須恵器、土師質土器、男瓦、女瓦、中世以降の陶器が出土したが、いずれも小片である。



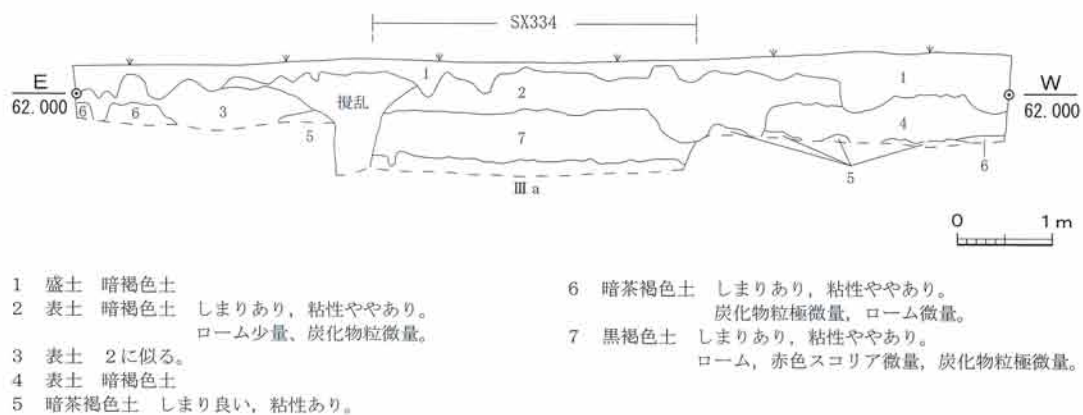
第 84 図 調査区全景(西から)



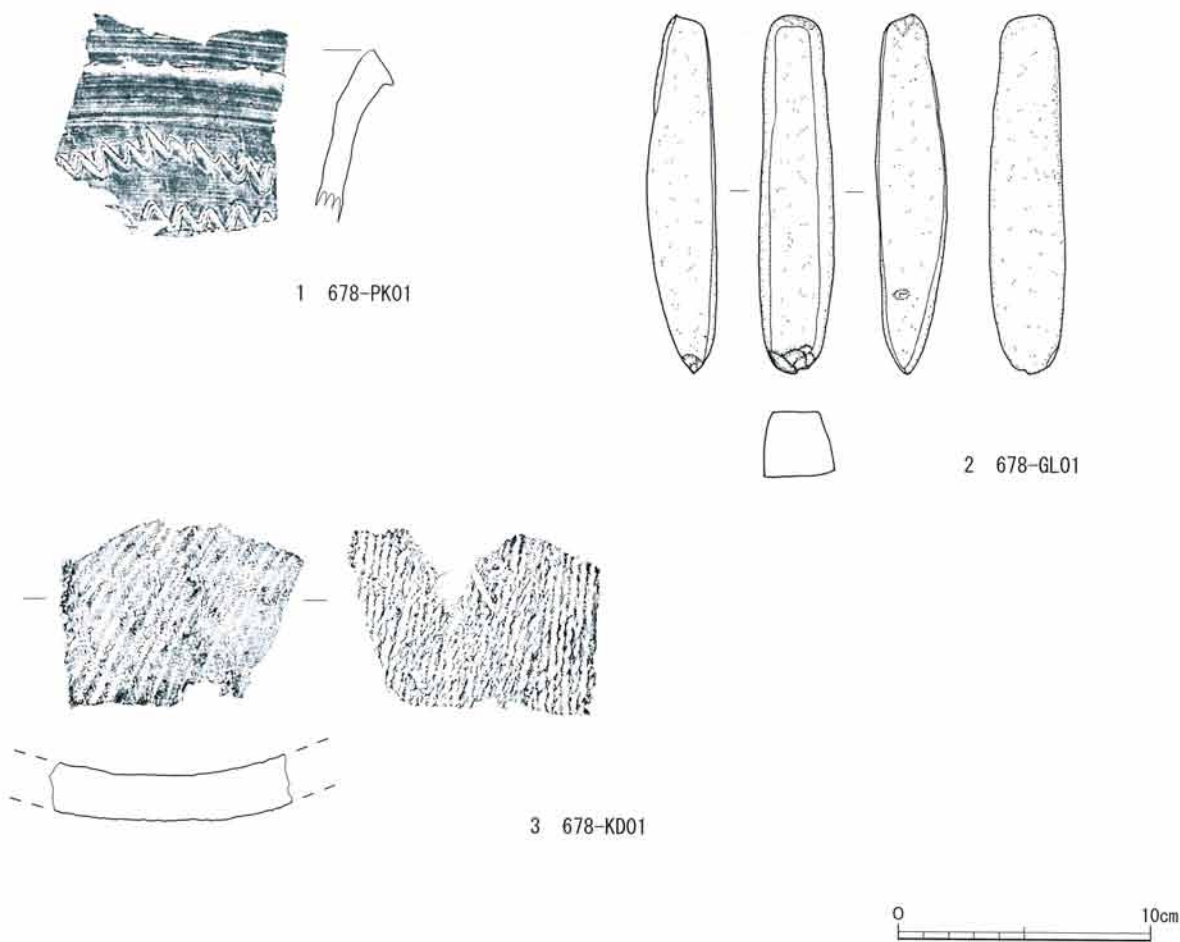
第 85 図 MK I - 678 調査地全体図



第 86 図 S X 334 全景 (北から)



第87図 遺構断面図 (1/80)



第88図 出土遺物実測図 (縄文土器・石製品 1/3)



第 20 表 MK I - 678 遺物観察表 (歴史時代土器)

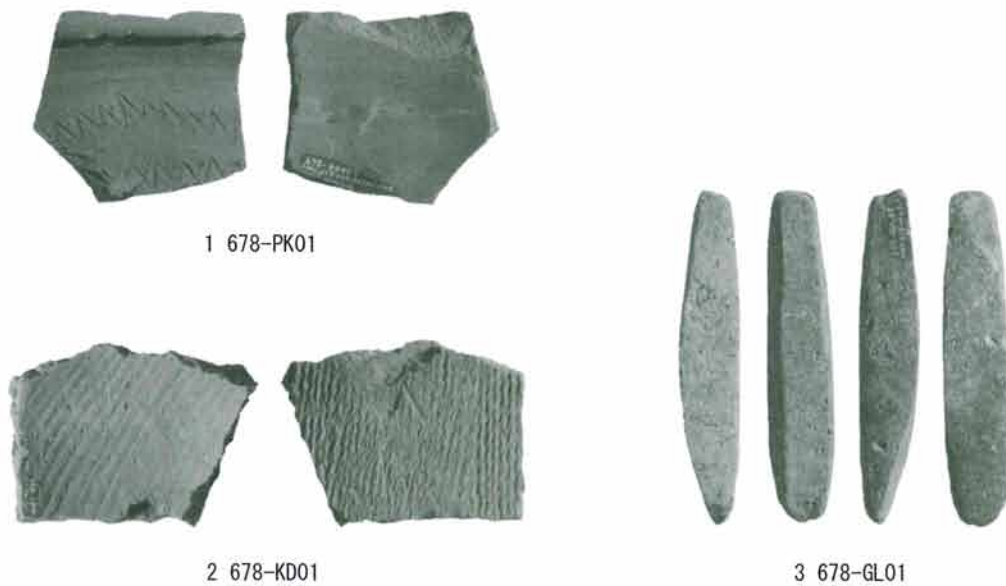
図面 図版 遺物番号	種別 器種	出土 位置	口径 器高 底径 (cm)	器形の特徴	成・整形の特徴	備考
第88図1 第89図1 PK01	須恵器 甕	SX334 覆土	— (6.9) —	口縁が「く」字状に屈曲する。	ていねいなロクロ整形。 2段の櫛描波状文を施す。	白灰色で胎土は緻密。焼成 は良好。

第 21 表 MK I - 678 遺物観察表 (瓦)

図面 図版 遺物番号	出土 位置	狭端 広端 全長 (cm)	厚さ (cm)	成・整形の特徴					備考	
				素材	凹面		凸面			側・端面 特徴
					布目	特徴	叩き	特徴		
第88図3 第89図2 KD01	表土	— — (12.5)	2.6	粘土板	((21× 21))	糸切り痕あ り。	網目 L7本		欠損。	砂粒, 粗砂粒, 海綿 骨針含む。焼成良 好。灰色。

第 22 表 MK I - 678 遺物観察表 (石製品)

図面 図版 遺物番号	種別 形態	出土位置	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	遺存状態	石材	備考
第88図2 第89図3 GL01	砥石	表土	14.4	2.9	2.5	146.8	完形	流紋岩	四面とも比較的良く砥面を残 している。



第 89 図 出土遺物写真

(3) 武蔵国分寺跡第683次

所在地	国分寺市西元町2-3-32		
調査原因	集合住宅建設		
調査期間	平成24年8月27日～9月13日		
調査面積	44.73 m <sup>2</sup>	遺物箱数	1箱
検出遺構	SI815, SK3433・3434, P-1～6		
主な遺物	歴史時代土器・瓦・埴		



第90図 MKⅢ-683調査地位置図

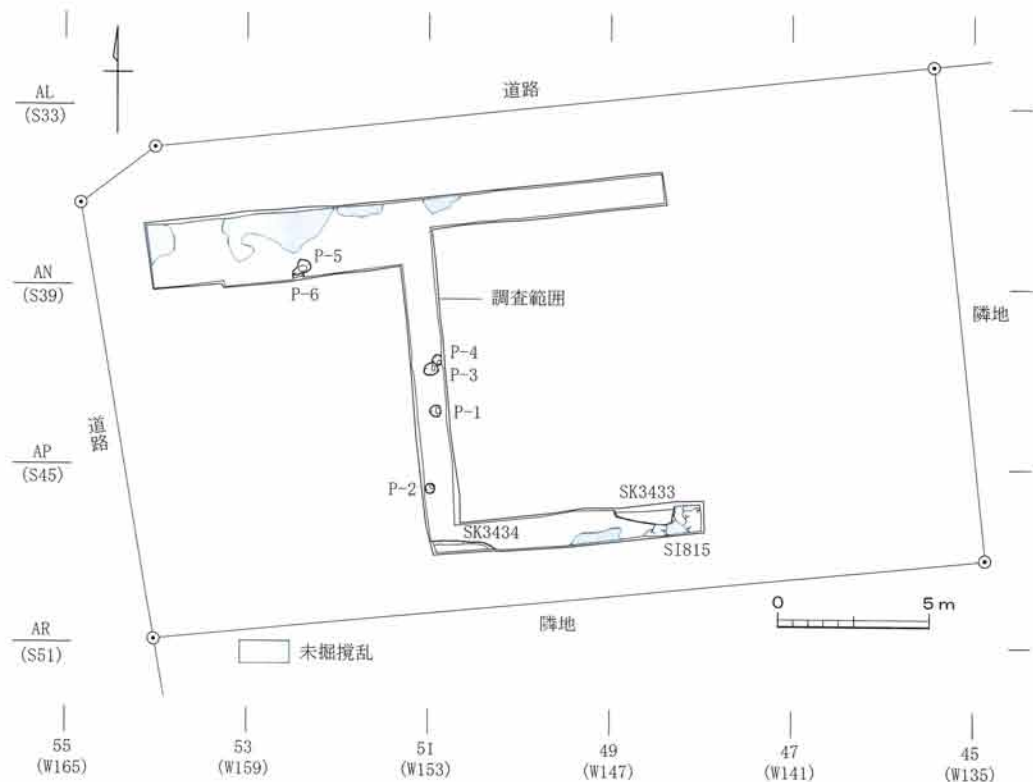
調査区は、武蔵国分寺跡（No.10・19遺跡）に該当する。僧寺寺院地内の西方に位置し、僧寺伽藍地西辺区画溝と東山道武蔵路の間にあたる。

当該地は、旧石器・縄文・奈良・平安時代等の遺構や遺物が存在する可能性があるため、給排水管の埋設によって遺構に影響が及ぶ範囲を対象として、より詳しく埋蔵文化財の有無・内容・性格等を把握する目的で確認調査を行った。

調査面積は44.73 m<sup>2</sup>である。現地調査は平成24年8月27日から平成24年9月13日に実施した。

調査地内は、地表下約50 cmの深さまで、基本層序Ⅰ層（表土・盛土）に覆われ、その下の基本層序Ⅲb層において、遺構確認を行った。検出遺構は、竪穴住居1軒（SI815）、土坑2基（SK3433・3434）、小穴6基（P-1～6）である。遺物は、遺構内外から須恵器、土師器、土師質土器、灰釉陶器、瓦、埴、縄文土器が出土した。

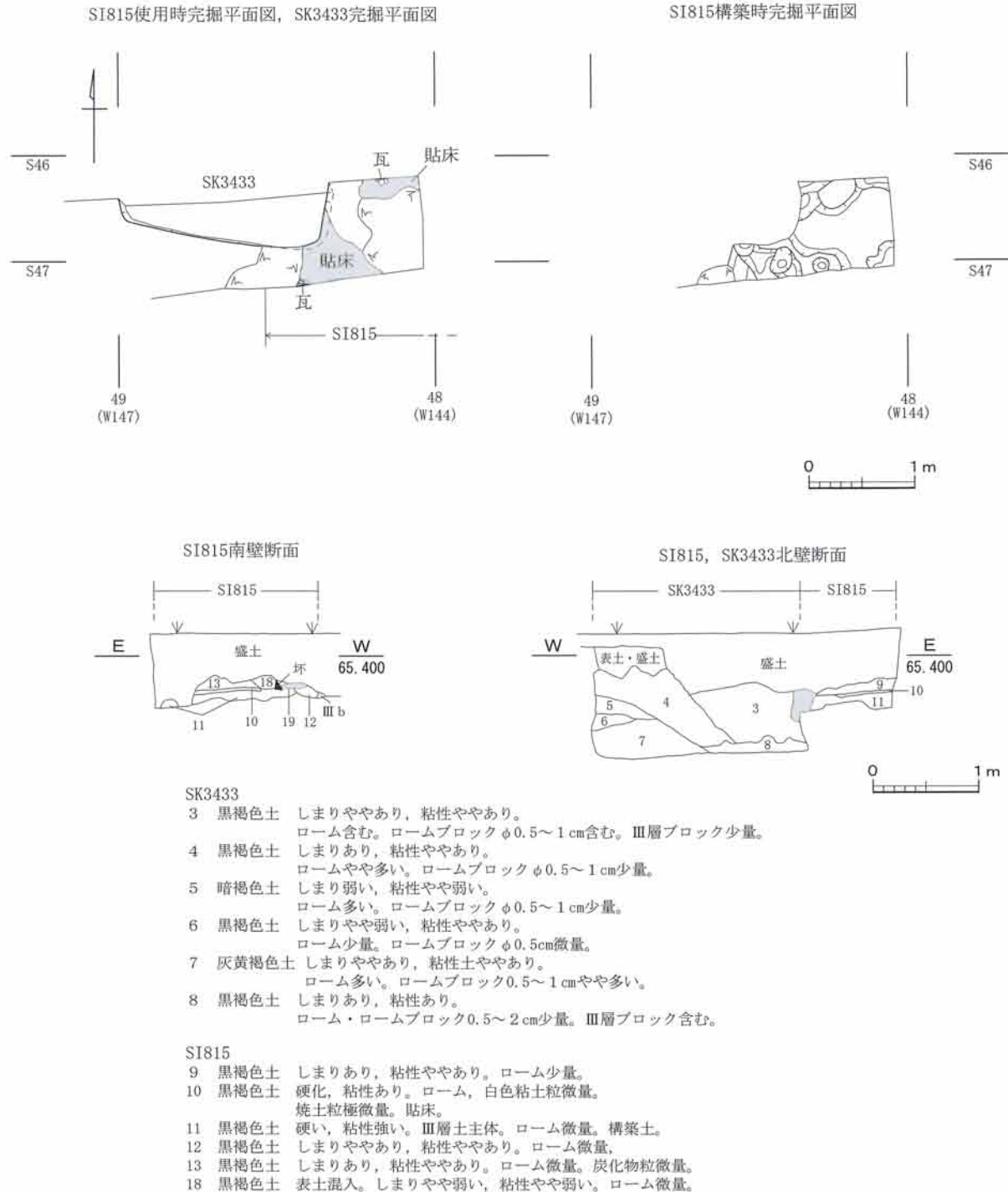
SI815は、調査区の南東で検出された。調査区外へ広がり、全容は不明である。後世の攪乱を受けて残存状況は悪いが、床面の貼床と周溝が一部確認された。遺構の深さは確認面から最大で約30 cm



第91図 MKⅢ-683調査地全体図（1/250）

である。遺物は、須恵器坏、土師質土器、男瓦等出土した。

SK3433・3434 は、調査区外に広がり全体は不明だが、前者が東西約 2 m、南北 50 cm 以上、確認面からの深さは 90 cm で、後者が東西約 2 m 以上、南北約 50 cm 以上、確認面からの深さは 60 cm である。平面形は隅丸方形と想定される。両者とも、掘方・人為的な埋め戻しの覆土の状態が類似し、同様の性格の遺構と推測されるが、性格は不明である。遺物は、SK3433 覆土中から須恵器甕、土師質土器碗、灰釉陶器碗、SK3434 覆土中からへら書き文字「口（都）」を記した女瓦、塼が出土した。

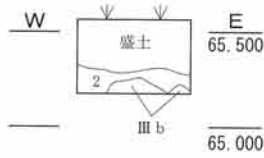


第 92 図 遺構平面図・断面図 (1 / 60)

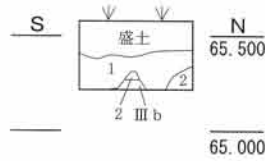


第2章第3節 確認調査

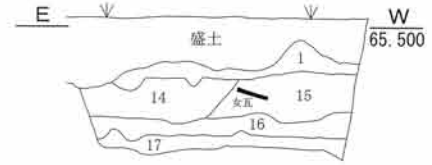
調査区北側トレンチ土層柱状図



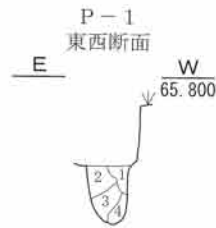
調査区南北トレンチ土層柱状図



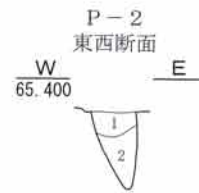
SK3434南壁断面



- 1 表土 褐色土 しまりややあり、粘性弱い。ローム少量。
- 2 表土 暗褐色土 しまりややあり、粘性土ややあり。ローム微量。
- 14 黒褐色土 しまりあり、粘性ややあり。ローム多量。  
ロームブロックφ0.5~2cmやや多い。白色粘土粒極微量。
- 15 黒褐色土 15層とほぼ同じ。15層よりローム、ロームブロックが少ない。
- 16 黒褐色土 しまりあり、粘性あり、ローム、ロームブロックφ0.5~2cm少量。  
白色粘土粒極微量。焼土粒極微量。III bブロック少量。
- 17 黄褐色土 しまり良い、粘性強い。ローム土（ローム~ロームブロック2cm）主体。  
黒色土、III層土少量。白色粘土粒極微量。



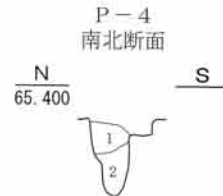
- 1 暗褐色土 しまり良い~あまい、粘性ややあり。  
ローム微量。
- 2 黒褐色土 しまりややあり、粘性ややあり。  
ローム少量。
- 3 黒褐色土 しまりややあり、粘性ややあり。  
ローム微量。
- 4 黒褐色土 しまり弱い、粘性ややあり。  
ローム少量。



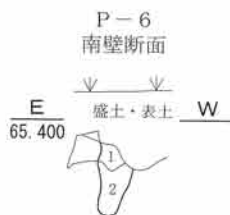
- 1 暗褐色土 しまり弱い、粘性やや弱い。  
ローム少量。ロームブロック微量。
- 2 暗褐色土 しまり弱い、粘性弱い。  
ローム少量。



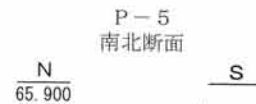
- 1 暗褐色土 しまり弱い、粘性弱い。  
ローム部分的に含む。
- 2 暗褐色土 しまり弱い、粘性弱い。  
III bブロックやや多い。
- 3 暗褐色土 しまり弱い、粘性弱い。  
ローム多い。



- 1 暗褐色土 しまり弱い、粘性やや弱い。  
ローム微量。
- 2 暗褐色土 しまり弱い、粘性やや弱い。  
ローム微量。



- 1 黒褐色土 しまりあり、粘性ややあり。  
ローム、ロームブロックφ0.5cmやや多い。  
白色粘土粒極微量。
- 2 黒褐色土 しまりややあり、粘性ややあり。  
ローム少量。ロームブロック0.5~1cm少量。



- 1 黒褐色土 しまりやや弱い、粘性やや弱い。  
ローム少量。ロームブロックφ0.5cm微量。P-6。
- 2 黒褐色土 しまりややあり、粘性やや弱い。ローム微量。
- 3 黒褐色土 しまりややあり、粘性ややあり。  
ローム、ロームブロックφ0.5cmやや多い。
- 4 黒褐色土 しまり弱い、粘性やや弱い。  
ローム微量。III bブロック微量。
- 5 III bブロック
- 6 黒褐色土 しまりやや弱い、粘性ややあり。  
ローム少量。ロームブロックφ0.5cm微量。



第93図 遺構断面図 (1/60)



第 94 図 調査区北側全景 (西から)



第 95 図 調査区中央全景 (北から)



第 96 図 調査区南側全景 (西から)



第 97 図 S1815 使用時全景 (南から)



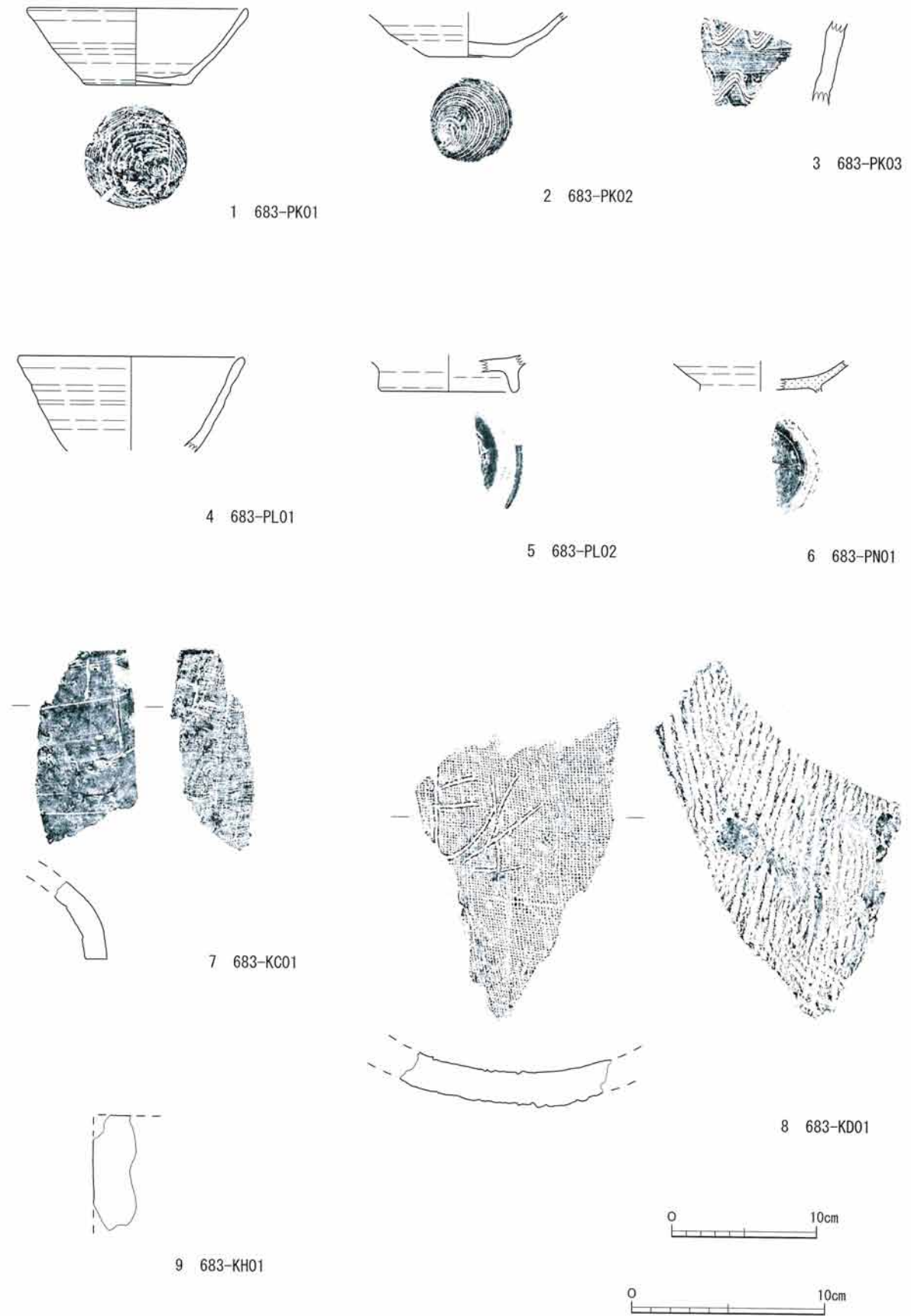
第 98 図 SK3434 完掘状況 (北から)



第 99 図 S1815・SK3433 完掘状況 (南から)



第 100 図 SK3433 断面 (南から)



第101図 出土遺物実測図（歴史時代土器 1 / 3・瓦 1 / 4）



第 23 表 MKⅢ-683 遺物観察表 (歴史時代土器)

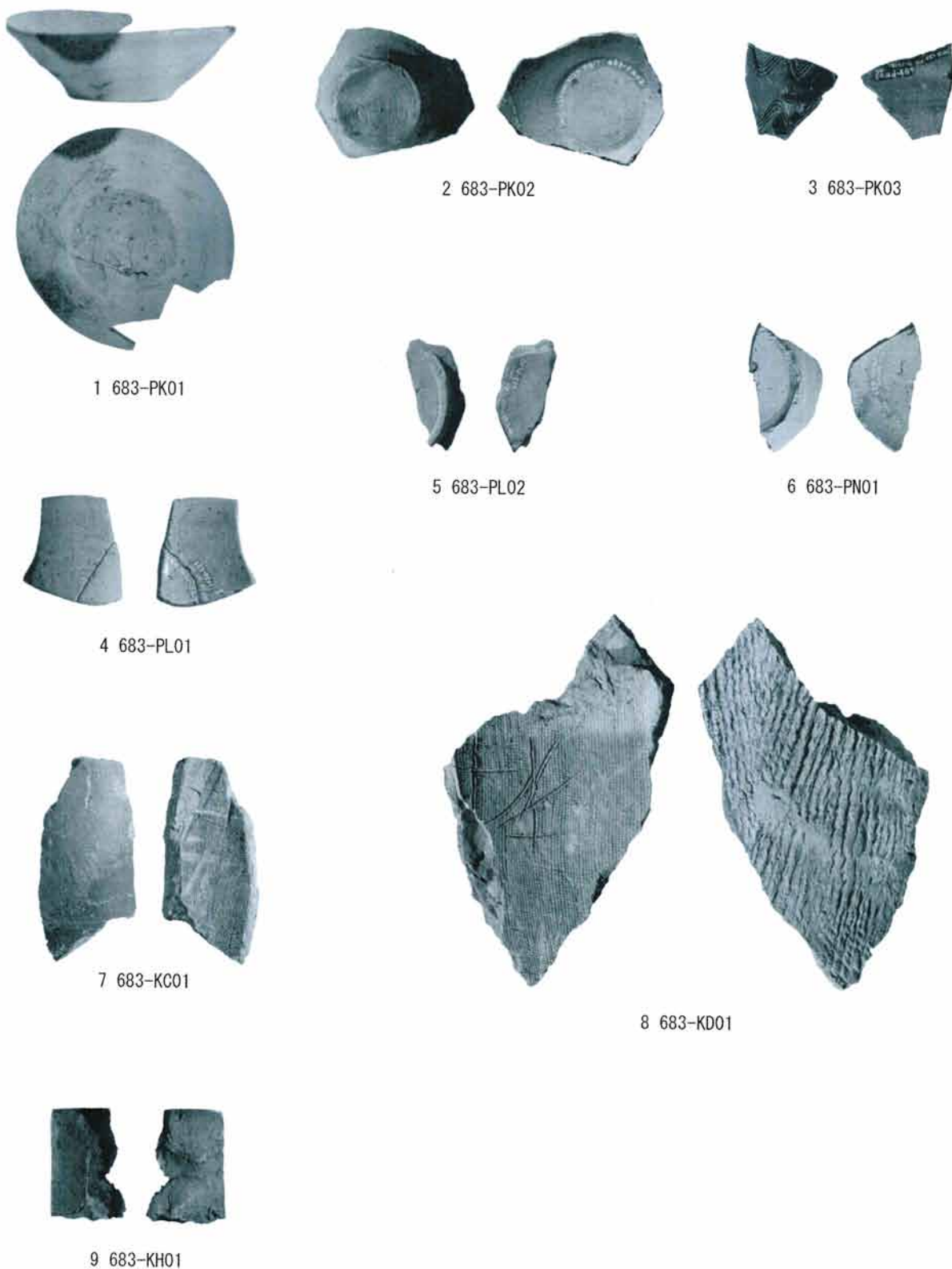
図面 図版 遺物番号	種別 器種	出土 位置	口径 器高 底径 (cm)	器形の特徴	成・整形の特徴	備考
第101図1 第102図1 PK01	須恵器 坏	カク乱	11.5 3.9 5.1	やや胴部に張りがあるが、ほぼ 直線に口縁部が開く。	ロクロ整形。底部糸切り。	灯明で使用か、煤付着。灰色 で胎土は粗く、砂粒を含む。 焼成は良好。
第101図2 第102図2 PK02	須恵器 坏	SI815 床直	— (2.3) 4.2	底部のみ残存。 やや胴部に張りがある。	ロクロ整形。底部糸切り。 内面は比較的ていねいなナデ。	灰色で胎土は粗く、砂粒を含 む。焼成は良好。
第101図3 第102図3 PK03	須恵器 甕	SK3433 覆土	— (4.4) —	胴部片のため、全体の器形は不 明。	ていねいなロクロ整形。 2段の楕円波状文を施す。	灰色で胎土は緻密。 焼成は極めて良好。
第101図4 第102図4 PL01	土師質 土器 碗	SK3433 覆土	((11.6)) (4.9) —	底部欠損。全体の1/4残存。 ほぼ直線に口縁部が開く。	ロクロ整形。	橙色で胎土は粗く、砂粒を含 む。焼成はやや不良。
第101図5 第102図5 PL02	土師質 土器 碗	SI815 覆土	— (1.9) (7.0)	底部高台部のみ残存。貼付高台。	ロクロ整形。	橙色で胎土は緻密。焼成は 良好。高台高1.0。
第101図6 第102図6 PN01	灰釉陶器 碗	SK3433 覆土	— (1.7) —	底部のみ残存。貼付高台。	ロクロ整形。	灰白色で胎土は緻密。 焼成は良好。

第 24 表 MKⅢ-683 遺物観察表 (瓦)

図面 図版 遺物番号	出土 位置	狭端 広端 全長 (cm)	厚さ (cm)	成・整形の特徴					備考	
				素材	凹面		凸面			側・端面 特徴
					布目	特徴	叩き	特徴		
第101図7 第102図7 KC01	SI815 覆土	— — (10.5)	1.5	粘土 横紐	25×18		—	横位ヘラ。		砂粒、海綿骨針含 む。焼成良好。灰色 ～暗灰色。
第101図8 第102図8 KD01	SK3434 覆土	— — (26.6)	2.4	粘土板	14×16	糸切り痕あ り。	縄目 L5本		欠損。	凹面にヘラ書き「口 (都)」あり。砂粒、小 石含む。焼成やや不 良。淡灰色～明褐色。

第 25 表 MKⅢ-683 遺物観察表 (埴)

図面 図版 遺物番号	出土 位置	長辺 短辺 厚み (cm)	素材	成・整形の特徴			備考
				上面	下面	側面	
第101図9 第102図9 KH01	SK3434 覆土	(4.6) (1.4) (2.7)	粘土塊	削り。	欠損	削り。	砂粒、海綿骨針含む。焼成やや良好。暗赤褐 色。



第102図 出土遺物写真

## (4) 武蔵国分寺跡第 687 次

所在地	国分寺市西元町 2-10-5		
調査原因	分譲住宅建設		
調査期間	平成 24 年 10 月 26 日～11 月 1 日		
調査面積	6.13 m <sup>2</sup>	遺物箱数	なし
検出遺構	なし		
主な遺物	なし		



第 103 図 MK I - 687 調査地位位置図

調査区は、武蔵国分寺跡 (No. 19 遺跡) に該当する。僧尼寺中間地点の北側、東山道武蔵路の西側に位置する。

当該地は、旧石器・縄文・奈良・平安時代等の遺構や遺物が存在する可能性があるため、駐車場設置によって遺構に影響が及ぶ範囲を対象として、より詳しく埋蔵文化財の有無・内容・性格等を把握する目的で、2箇所 (A・B トレンチ) に調査区を設定して確認調査を行った。

調査面積は 6.13 m<sup>2</sup> である。現地調査は平成 24 年 10 月 26 日から平成 24 年 11 月 1 日に実施した。

調査区内は、地表下約 20～40 cm の深さまで基本層序 I 層 (表土・盛土) で覆われ、その下から～1.7 m の深さの基本層序 IV 層～VIII a 層において、縄文時代、旧石器時代の遺構確認を行ったが、遺構・遺物は検出されなかった。



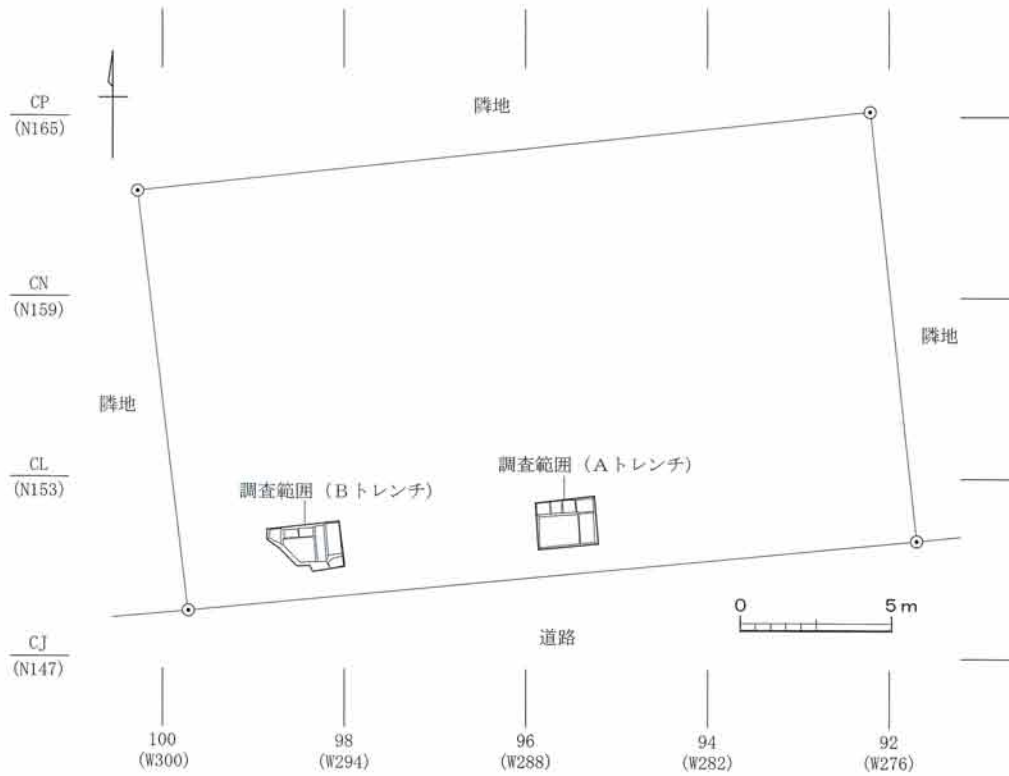
第 104 図 調査区全景 (東から)



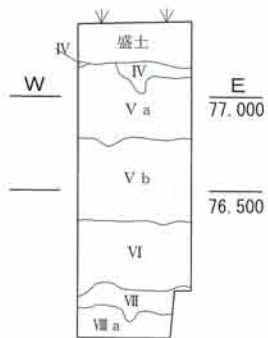
第 105 図 調査区全景 (北から)



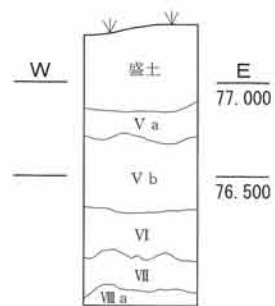
第2章第3節 確認調査



Bトレンチ土層柱状図



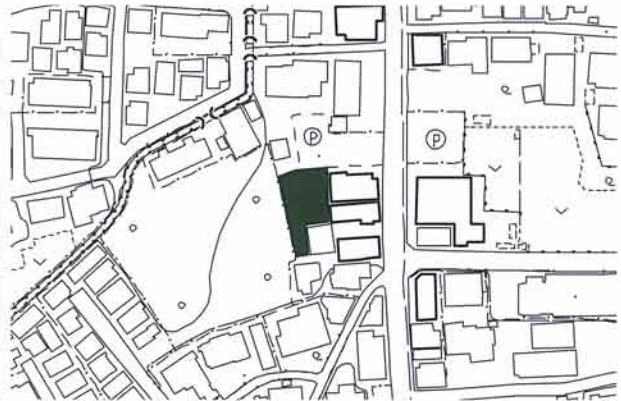
Aトレンチ土層柱状図



第106図 MKⅢ-687調査地全体図(1/250)・断面図(1/40)

(5) 武蔵国分寺跡第 688 次

所在地	国分寺市東元町 3-4-19		
調査原因	グループホーム建物建設		
調査期間	平成 24 年 11 月 19 日～11 月 27 日		
調査面積	19.40 m <sup>2</sup>	遺物箱数	1 箱
検出遺構	なし		
主な遺物	縄文土器		



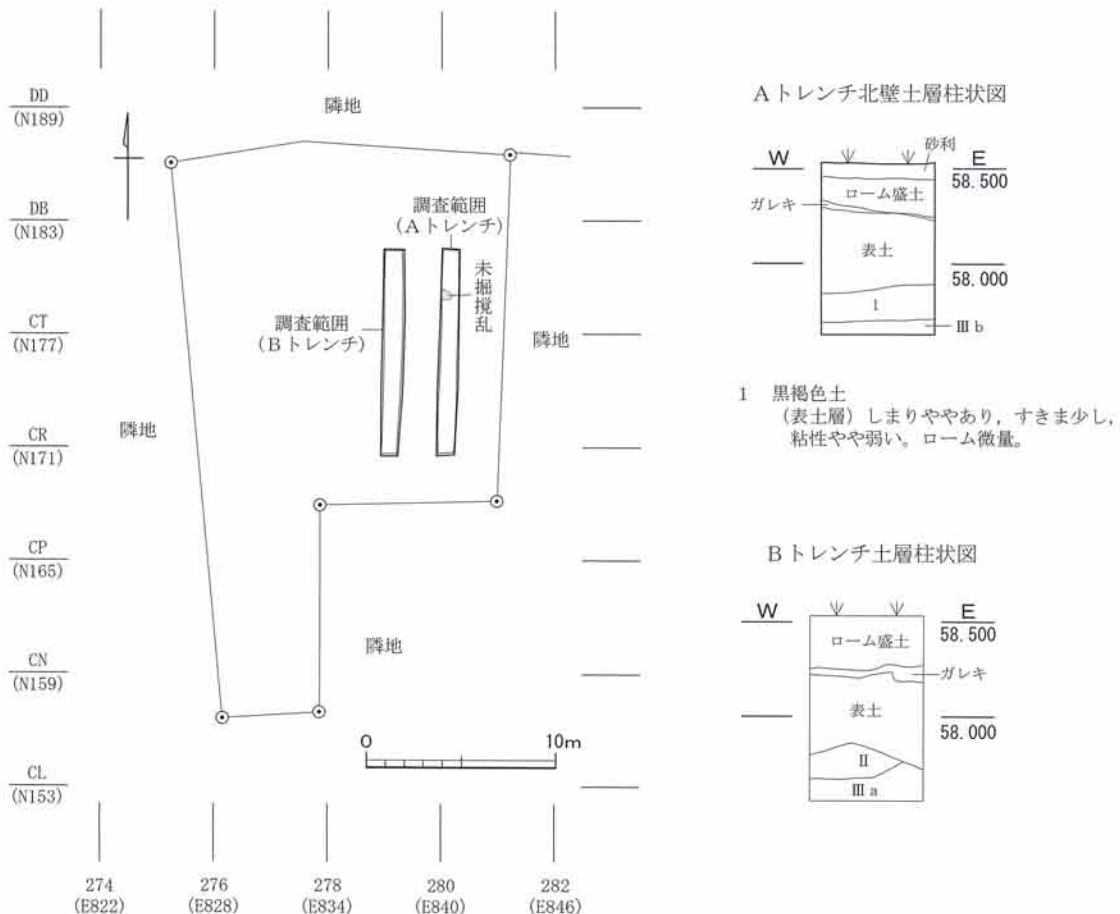
第 107 図 MK I - 688 調査地位置図

調査区は、武蔵国分寺跡 (No. 19 遺跡) に該当し、遺跡の東縁に位置する。

当該地は、旧石器・縄文・奈良・平安時代等の遺構や遺物が存在する可能性があるため、建物基礎工事によって遺構に影響が及ぶ範囲を対象として、より詳しく埋蔵文化財の有無・内容・性格等を把握する目的で、2 箇所 (A・B トレンチ) に調査区を設定して確認調査を行った。

調査面積は 19.4 m<sup>2</sup> である。現地調査は平成 24 年 11 月 19 日～平成 24 年 11 月 27 日に実施した。

地表下約 80 cm の深さまで、基本層序 I 層 (表土) に覆われており、その下の基本層序 III b 層において、遺構確認を行ったが、遺構は検出されなかった。遺物は、勝坂 III 期の縄文土器片が出土した。



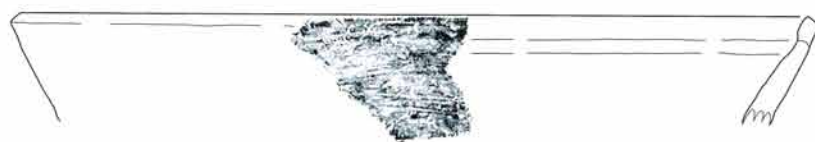
第 108 図 MK I - 688 調査地全体図 (1/400)・断面図 (1/40)



第109図 Aトレンチ全景（南から）



第110図 Bトレンチ全景（南から）



1 688-JE01



第111図 出土遺物実測図（縄文土器 1 / 3）

第26表 MK I - 688 遺物観察表（縄文時代土器）

図面 図版 遺物番号	種別 器種	出土 位置	口径 器高 底径 (cm)	器形の特徴	成・整形の特徴	備考
第111図1 第112図1 JE01	浅鉢	IIIb層	((33.0)) (4.6) —	口縁部片のため全体の器形は不明。口唇部は内側に屈曲。	無文。内・外面ともにていねいなヨコナデ。	赤褐色で胎土はやや粗く、砂粒を多く含む。焼成は良好。勝坂III期。



1 688-JE01

第112図 出土遺物写真



(6) 武蔵国分寺跡第 690 次

所在地	国分寺市西元町 3-8-5		
調査原因	集合住宅建設		
調査期間	平成 25 年 2 月 12 日～2 月 14 日		
調査面積	3.22 m <sup>2</sup>	遺物箱数	なし
検出遺構	なし		
主な遺物	なし		



第 113 図 MK III-690 調査地位置図

調査区は、武蔵国分寺跡 (No. 10・19 遺跡) に該当する。僧寺院地内の南西に位置し、僧尼寺中間地点にあたり、西には東山道武蔵路が通る。

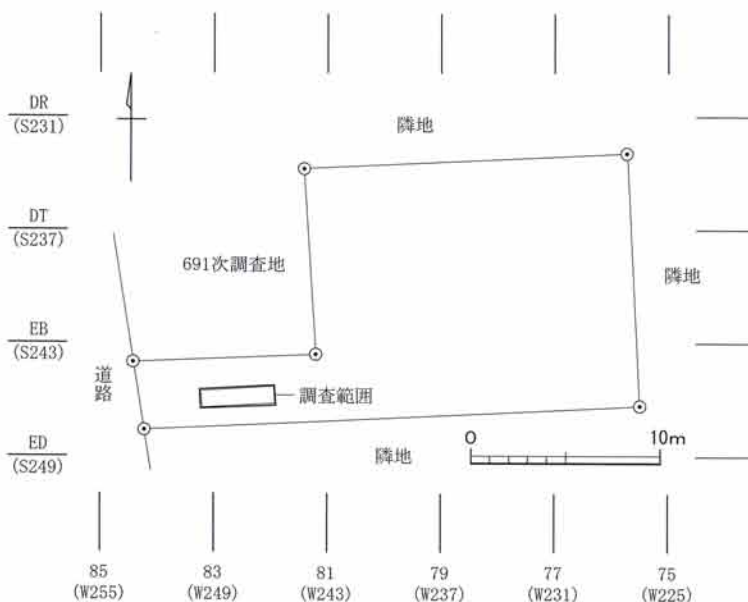
当該地は、旧石器・縄文・奈良・平安時代等の遺構や遺物が存在する可能性があるため、給排水管の埋設によって遺構に影響が及ぶ範囲を対象として、より詳しく埋蔵文化財の有無・内容・性格等を把握する目的で確認調査を行った。

調査面積は 3.22 m<sup>2</sup> である。現地調査は平成 25 年 2 月 12 日～平成 25 年 2 月 14 日に実施した。

工事の掘削深度である地表下約 60 cm まで調査を行ったが、基本層序 I 層中 (表土・盛土) で、遺構確認面まで達しなかったため、遺構は検出されなかった。また、遺物も出土しなかった。



第 114 図 調査区全景 (西から)



第 115 図 MK III-690 調査地全体図 (1 / 400)

(7) 武蔵国分寺跡第 691 次

所在地	国分寺市西元町 3-8-5		
調査原因	個人住宅兼工場店舗建設		
調査期間	平成 25 年 2 月 12 日～2 月 14 日		
調査面積	3.40 m <sup>2</sup>	遺物箱数	なし
検出遺構	なし		
主な遺物	なし		

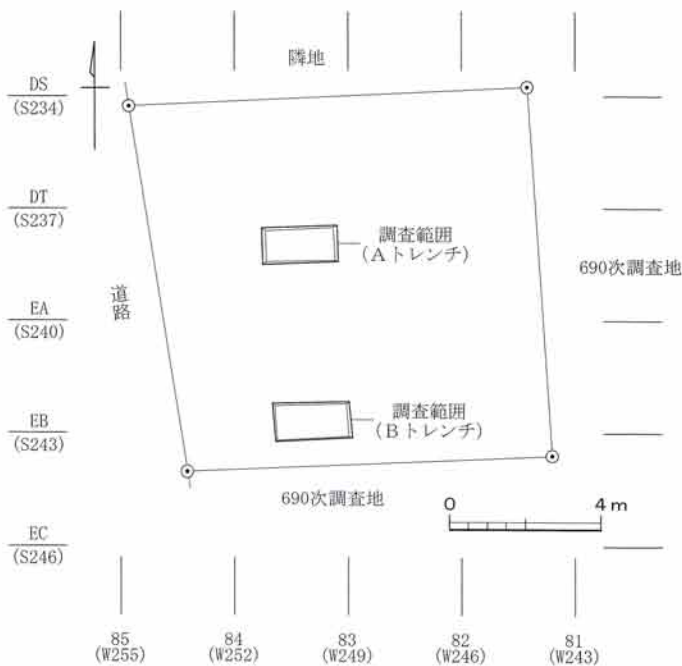


第 116 図 MK III-691 調査地位置図

調査区は、武蔵国分寺跡 (No. 10・19 遺跡) に該当する。僧寺寺院地内の南西に位置し、僧尼寺中間地点のあたり、西には東山道武蔵路が通る。当該地は、旧石器・縄文・奈良・平安時代等の遺構や遺物が存在する可能性があるため、給排水管の埋設によって遺構に影響が及ぶ範囲を対象として、より詳しく埋蔵文化財の有無・内容・性格等を把握する目的で、2箇所 (A・B トレンチ) に調査区を設定して、確認調査を行った。

調査面積は 3.40 m<sup>2</sup> である。現地調査は平成 25 年 2 月 12 日～平成 25 年 2 月 14 日に実施した。

工事の掘削深度である地表下約 60 cm まで調査を行ったが、基本層序 I 層中 (表土・盛土) で、遺構確認面まで達しなかったため、遺構は検出されなかった。また、遺物も出土しなかった。



第 117 図 MK III-691 調査地全体図 (1/200)



第 118 図 A トレンチ全景 (西から)



第 119 図 B トレンチ全景 (東から)



(8) 武蔵国分寺跡第 692 次

所在地	国分寺市泉町 1-8-3・4		
調査原因	道路		
調査期間	平成 25 年 2 月 4 日～2 月 8 日		
調査面積	19.13 m <sup>2</sup>	遺物箱数	1 箱
検出遺構	P-1		
主な遺物	土師器		



第 120 図 MK I - 692 調査地位置図

調査区は、武蔵国分寺跡 (No. 19 遺跡) に該当する。僧寺寺院地外にあたり、遺跡の北東部に位置する。武蔵野段丘面上の台地縁辺部に位置する。

当該地は、旧石器・縄文・奈良・平安時代等の遺構や遺物が存在する可能性があるため、下水道管の埋設によって遺構に影響が及ぶ範囲を対象として、より詳しく埋蔵文化財の有無・内容・性格等を把握する目的で確認調査を行った。

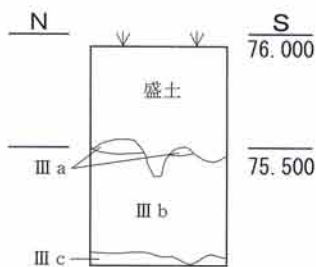
調査面積は 19.13 m<sup>2</sup>である。現地調査は平成 25 年 2 月 4 日から平成 25 年 2 月 8 日に実施した。

調査地内は、地表下約 50 cm の深さまで、基本層序 I (表土・盛土) に覆われており、その下層において、奈良・平安時代以降の遺構確認を行い、小穴 1 基 (P-1) が検出された。遺物は、P-1 から土師器片が 1 点出土した。

続いて、地表下約 90 cm～1.0 m の深さの基本層序 III c 層において、縄文時代の遺構確認を行ったが、遺構・遺物は検出されなかった。



第 121 図 調査区全景 (北から)



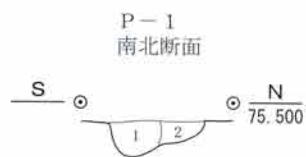
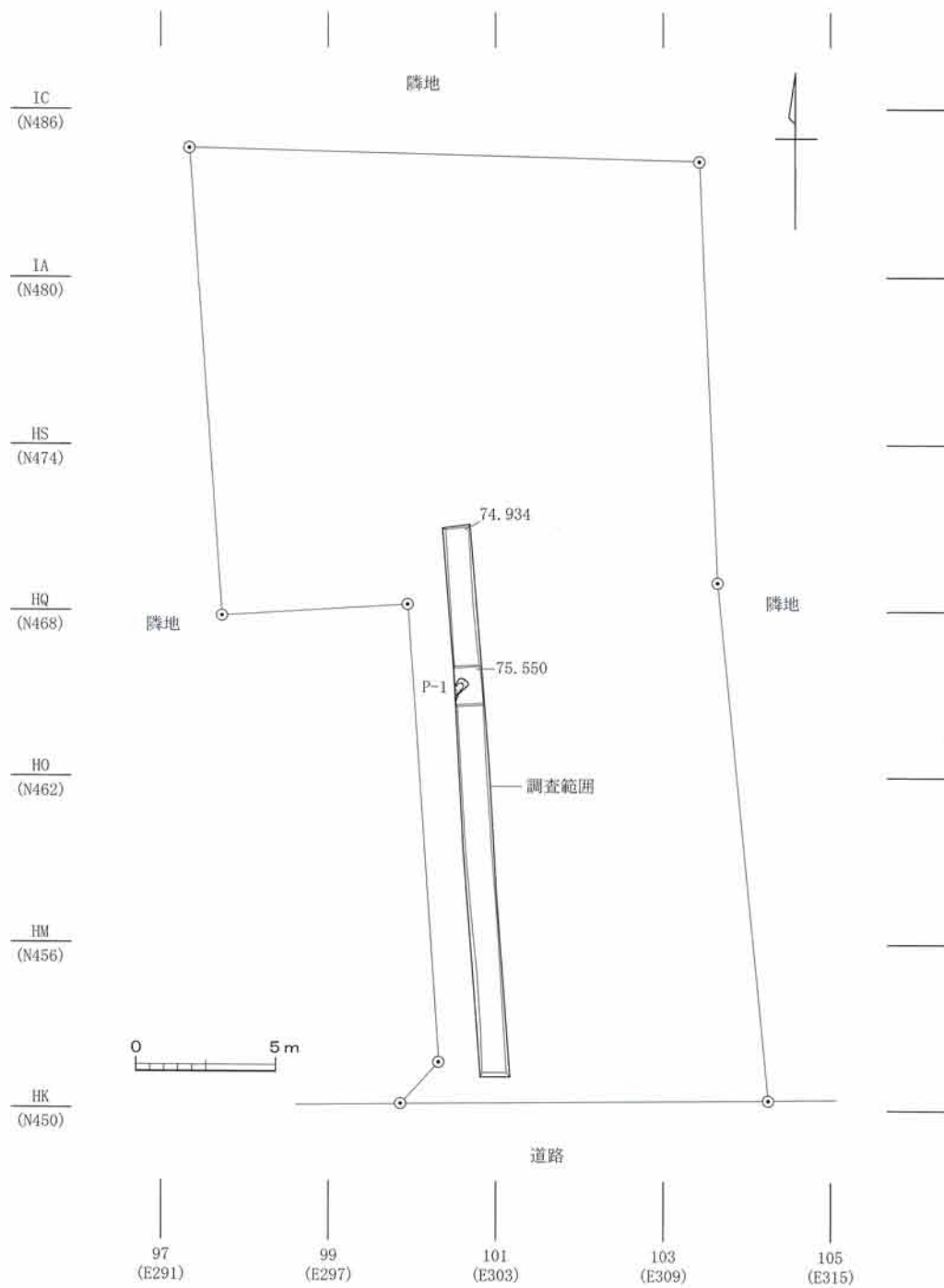
第 123 図 MK I - 692 調査区土層柱状図



第 122 図 P - 1 断面 (東から)



第2章第3節 確認調査



- 1 黒褐色土 くすむ。しまりややあり。すきま少し。  
粘性やや弱い。ローム微量。
- 2 黒褐色土 しまりややあり、すきま少し、粘性ややあり。  
ローム微量。



第124図 MK I - 692 調査地全体図 (1 / 250) ・遺構断面 (1 / 40)

(9) 武蔵国分寺跡第 694 次

所在地	国分寺市西元町 4-5-21		
調査原因	個人宅造		
調査期間	平成 25 年 3 月 14 日～3 月 22 日		
調査面積	8.33 m <sup>2</sup>	遺物箱数	1 箱
検出遺構	SF5, SD34・335		
主な遺物	歴史時代土器		



第 125 図 MK III-694 調査地位置図

調査区は、武蔵国分寺跡 (No.10・19 遺跡) に該当し、尼寺伽藍地南西部にあたる。

当該地は、昭和 54 年の MK III-94 調査によって (『武蔵国分寺跡発掘調査概報 X IV』1989)、溝 2 条や推定鎌倉街道の道路面と想定される特殊遺構 (SX11) が検出されている。また、未調査である対象地内の南側には、尼寺伽藍地南辺区画溝 (SD34) が通ると想定される。

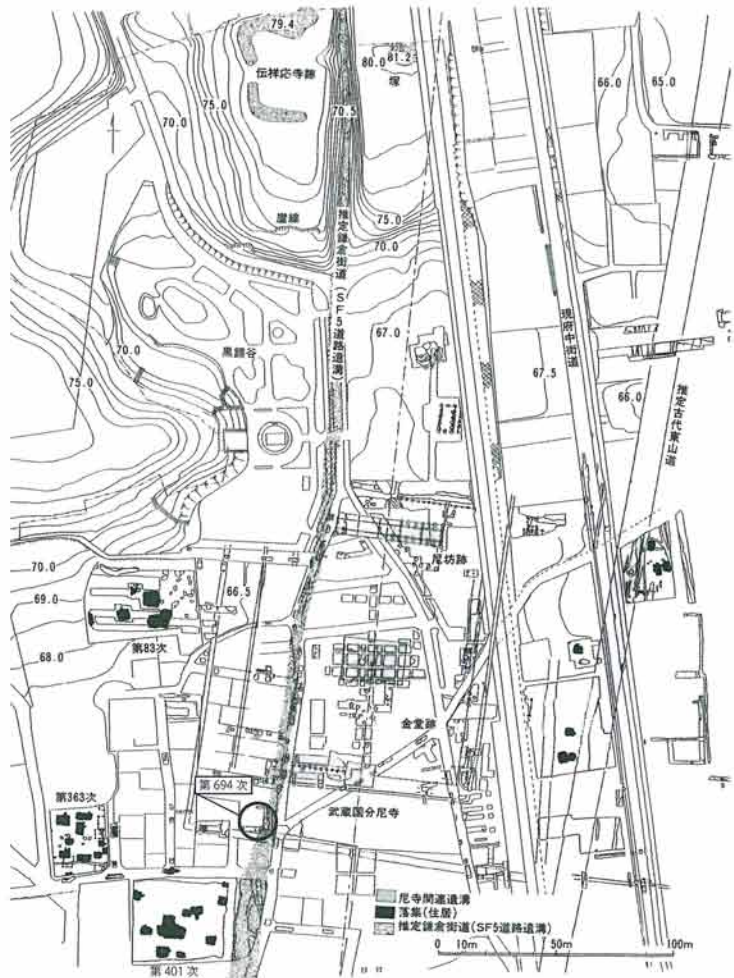
既往調査成果によって、今回の工事で遺構に影響する範囲はなく、遺跡は現状で保存されると判断されたため、工事中に立会調査を行うこととし、対象地南側に尼寺伽藍地南辺区画溝が位置するため、その位置や内容等を把握する目的で確認調査を行った。

調査面積は 8.33 m<sup>2</sup>である。現地調査は平成 25 年 3 月 14 日から 3 月 22 日に実施した。

調査の結果、尼寺伽藍地南辺区画溝と推定鎌倉街道が検出されたため、図面・写真の記録をとり、遺跡は現地保存とした。

調査地内は、地表面から約 1.1 m の深さまで基本層序 I 層 (表土・盛土) に覆われ、その下層において遺構確認を行い、溝 2 条 (SD34・335)、道路 1 条 (SF 5)、小穴 1 基 (P-1) が検出された。出土遺物は、遺構外から須恵器・瓦片が出土した。

SF 5 は、鎌倉街道に推定される道路跡である。鎌倉街道は、幕府の置かれた鎌倉と諸国を結ぶ道路の総称で、武蔵国を通る 3 つの幹



第 126 図 武蔵国分尼寺跡・推定鎌倉街道位置

第2章第3節 確認調査

線道路として上道・中道・下道がある。このうち、SF 5は、国分寺市内を通過する上道に比定され、この延長線上の国分寺崖線には、鎌倉街道と伝承される薬研堀状の切り通しが今も残る。

平成6年度実施のMK III-401 調査で本調査区の南側においてSF 5が調査され、路面と道路の東側と西側に沿って南北に掘り込まれている2条の溝 (SD101・335) や構築状況が良好な形で確認され、確認状況からSF 5は3段階に分けられている。当該地におけるSF 5の内容の参考として、MK III-401 調査成果を述べておく (『武蔵国分寺跡調査概報X X III』1999)。

第1段階は、範囲は不明確だが、幅約7m、厚さ約15cmの硬質面が確認されている。

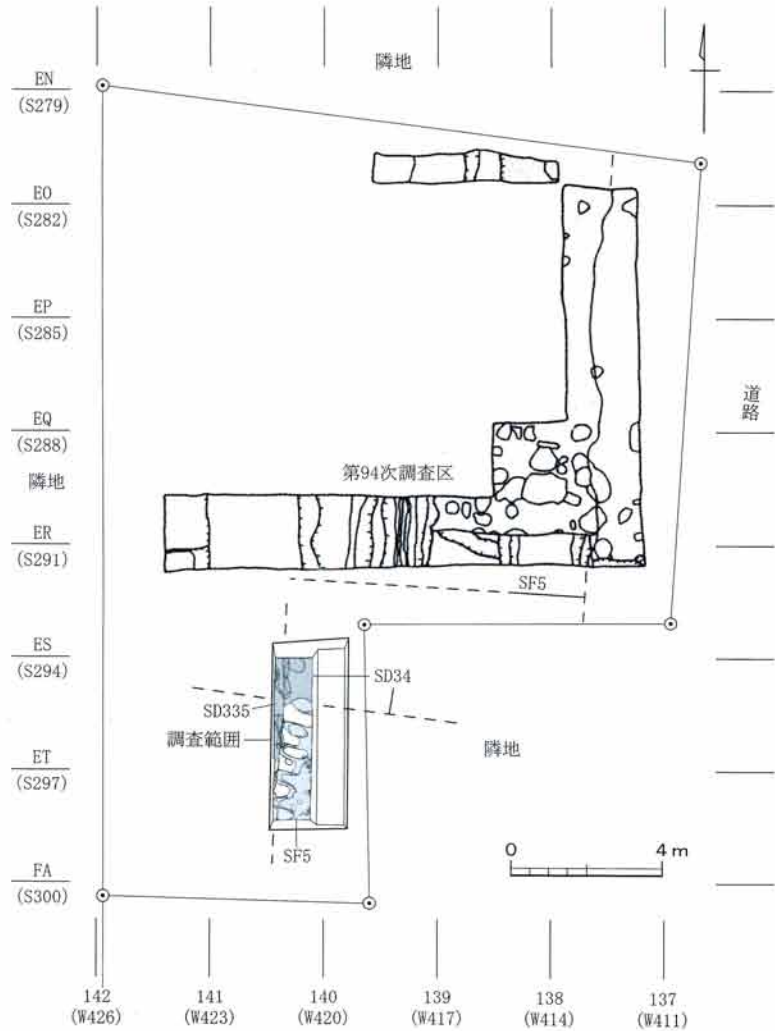
第2段階は、幅約7m、厚さ10cm前後の硬質面で、この面から東側溝 (SD101) と西側 (SD335) が掘り込まれる。

第3段階は、礫と国分寺瓦片を敷いた面で厚さ10～15cmである。路面は南東方向から北上するライン (Aライン) と南側から北上するライン (Bライン) とがあり、Aラインは幅約2m、Bラインは幅約5m、合流地点で幅約8.2mを測る。

構築状況は、長さ1.5～3m、幅50cm、深さ10～15cmの楕円形の土坑状の穴が道路方向に直行して波板状に掘り込まれ、覆土は小砂利、ローム土、暗褐色土の混在した極めて硬化している。波板状の掘り込みは石敷路面のAラインとBラインそれぞれに直行する形で確認されている。構築と礫敷きの路面とは間層がなく、時期差はほとんどないと考えられている。

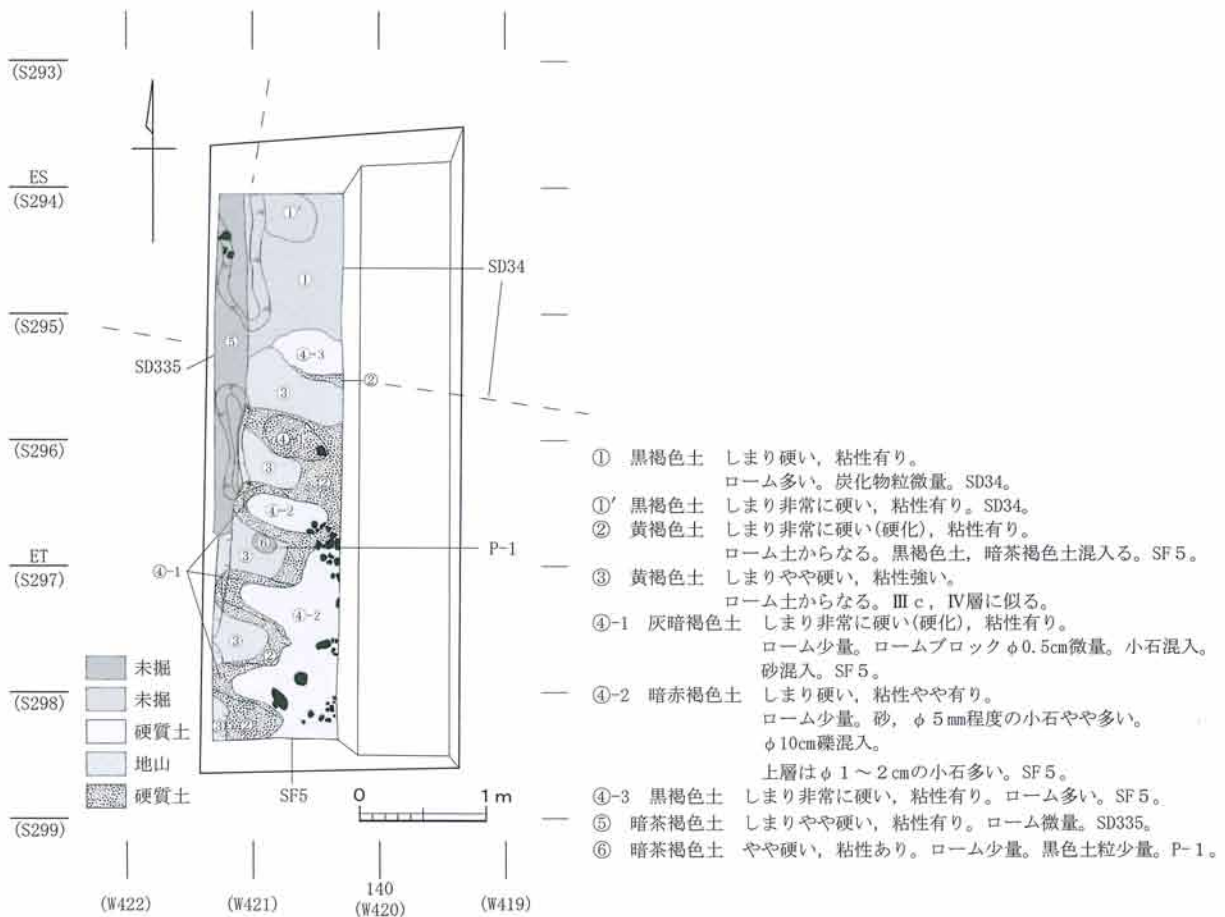
各段階の時期は出土遺物から、第3段階が中世、第1・2段階が中世以降で近世～近代に比定されている。

本調査では、第1・2段階の路面は未検出である。第3段階の波板状の掘り込みの平面プランが確認された。覆土は黄褐色土、灰暗褐色土、暗赤褐色土で、小砂利が混じり、硬化している。覆土の最上層には小石や瓦片が一部見られ、これらが第3段階の石敷きの路面が残存して



第127図 MK III-694 調査地全体図 (1/200)





第 128 図 MK III-694 調査区平面図 (1/60)



第 129 図 調査区全景 (北西から)



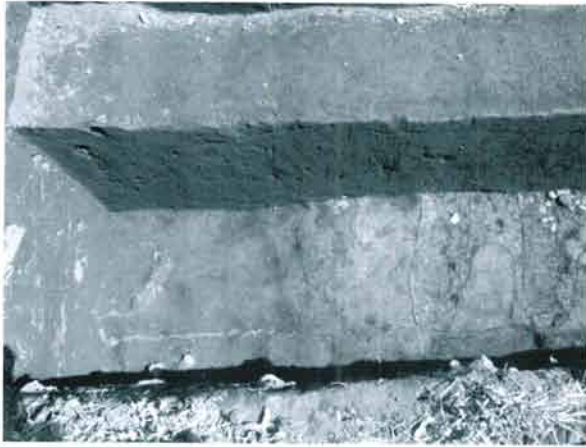
第 130 図 調査区全景 (北から)

いるものの可能性がある。

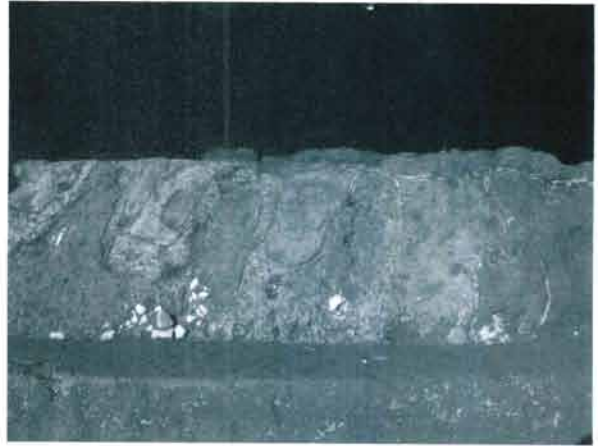
SD335 は、SF 5 道路跡の西側に沿って掘り込まれた南北溝である。本調査では、調査区の西端で遺構の東端が検出されたのみで全体は不明であり、SF 5 の波板状の掘り込みとの方向が若干異なるため、今後の調査で SF 5 に伴う溝か検証する必要がある。

SD34 は尼寺伽藍地南辺区画溝である。覆土は硬くしまり、SF 5 の波板状の掘り込みが確認された。波板状の掘り込みの覆土は他地点とは異なり、SD34 覆土に似た黒褐色土である。

遺構の切り合い関係は、(古) SD34 → SF 5 波板状の掘り込み → SD335 (新) となる。



第131図 SD34・335, SF5 確認状況 (西から)



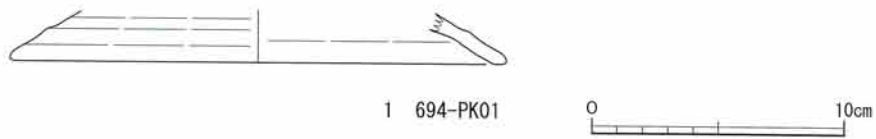
第132図 SF5 確認状況 (東から)



第133図 SF5 確認状況北側近影 (東から)



第134図 SF5 確認状況南側近影 (東から)



第135図 出土遺物実測図 (1/3)

第27表 MKⅢ-694 遺物観察表 (歴史時代土器)

図面版 遺物番号	種別 器種	出土 位置	口径 器高 底径 (cm)	器形の特徴	成・整形の特徴	備考
第135図1 第136図1 PK01	須恵器 蓋	表土	((19.4)) (2.0) —	口縁部片のため全体の器形は不明。かえしは無い。	ロクロ整形。	灰色で胎土はやや粗く、砂粒を多く含む。焼成は良好。



1 694-PK01

第136図 出土遺物写真



(10) 殿ヶ谷戸北遺跡第 4 次

所在地	国分寺市南町 1-9-2		
調査原因	集合住宅建設		
調査期間	平成 24 年 10 月 1 日		
調査面積	6.99 m <sup>2</sup>	遺物箱数	1 箱
検出遺構	なし		
主な遺物	縄文土器		

調査区は、殿ヶ谷戸北遺跡 (No. 20 遺跡) に該当し、本多谷に面した武蔵野段丘上に位置する。

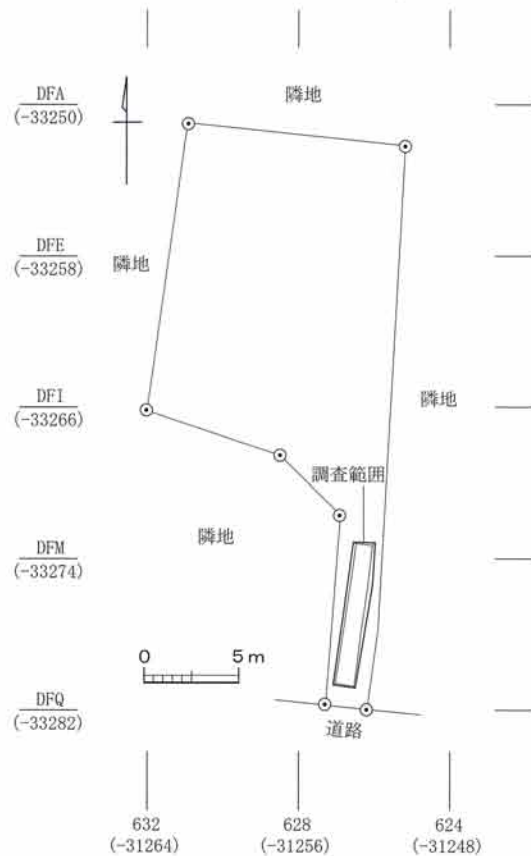
当該地は、旧石器・縄文時代の遺構や遺物が存在する可能性があるため、下水管の埋設によって遺構に影響が及ぶ範囲を対象として、より詳しく埋蔵文化財の有無・内容・性格等を把握する目的で確認調査を行った。

調査面積は 6.99 m<sup>2</sup> である。現地調査は平成 24 年 10 月 1 日に実施した。

調査地内は、地表下 25 ～ 55 cm の深さまで基本層序 I 層 (表土・盛土) に覆われており、その下の深さ約 0.5 ～ 0.7 m の基本層序 III b 層において、遺構確認を行ったが、遺構は検出されなかった。遺物は、遺構外から勝坂 III 期の縄文土器が 1 点出土した。



第 137 図 K20-4 調査地位置図



第 138 図 K20-4 調査地全体図 (1/400)



第 139 図 調査区全景 (北から)



1 K20-4-JE01



第 140 図 出土遺物実測図 (縄文土器 1/3)



1 K20-4-JE01

第 141 図 出土遺物写真

第 28 表 K20-4 遺物観察表 (縄文時代土器)

図面 図版 遺物番号	種別 器種	出土 位置	口径 器高 底径 (cm)	器形の特徴	成・整形の特徴	備考
第140図1 第141図1 JE01	深鉢	カク乱	— (3.1) —	胴部片のため全体の器形は不明。	内面は未調整, 外面は縦位のRL縄文を施文。	勝坂III期。暗褐色で胎土はやや粗い。小石砂粒を少量含む。焼成はやや不良。



(11) No. 37 遺跡第9次

所在地	国分寺市西恋ヶ窪 3-5-25		
調査原因	その他建物建設		
調査期間	平成24年8月27日～8月31日		
調査面積	19.81 m <sup>2</sup>	遺物箱数	なし
検出遺構	なし		
主な遺物	なし		



第142図 K37-9 調査地位置

調査区は、No. 37 遺跡に該当する。国分寺崖線からやや北側に入った野川の開析谷に面する武蔵野段丘面上に位置する遺跡のほぼ中央部にあたる。

当該地は、旧石器・縄文・奈良・平安時代の遺構や遺物が存在する可能性があるため、建物基礎によって遺構に影響が及ぶ範囲を対象として、より詳しく埋蔵文化財の有無・内容・性格等を把握する目的で、2箇所（A・Bトレンチ）に調査区を設定して、確認調査を行った。

調査面積は19.81 m<sup>2</sup>である。現地調査は平成24年8月27日から平成24年8月31日に実施した。

Aトレンチは、地表下90 cm～1.1 mの深さまで基本層序Ⅰ層（表土・盛土）に覆われており、その下の基本層序Ⅲc層において遺構確認を行い、さらに地表下約2 mの深さの基本層序Ⅴb上層まで旧石器時代の調査を行ったが、遺構・遺物は検出されなかった。

Bトレンチは、地表下1～1.1 mの深さまで基本層序Ⅰ層（表土・盛土）に覆われており、その下の基本層序Ⅲb～c層において遺構確認を行ったが、遺構・遺物は検出されなかった。



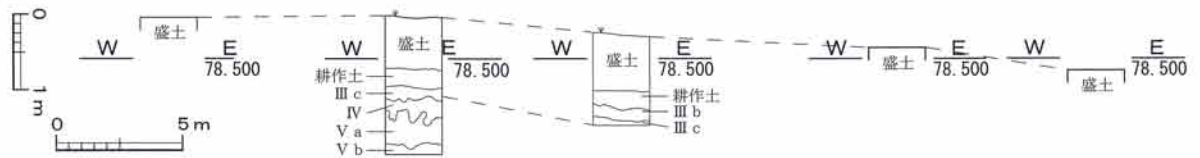
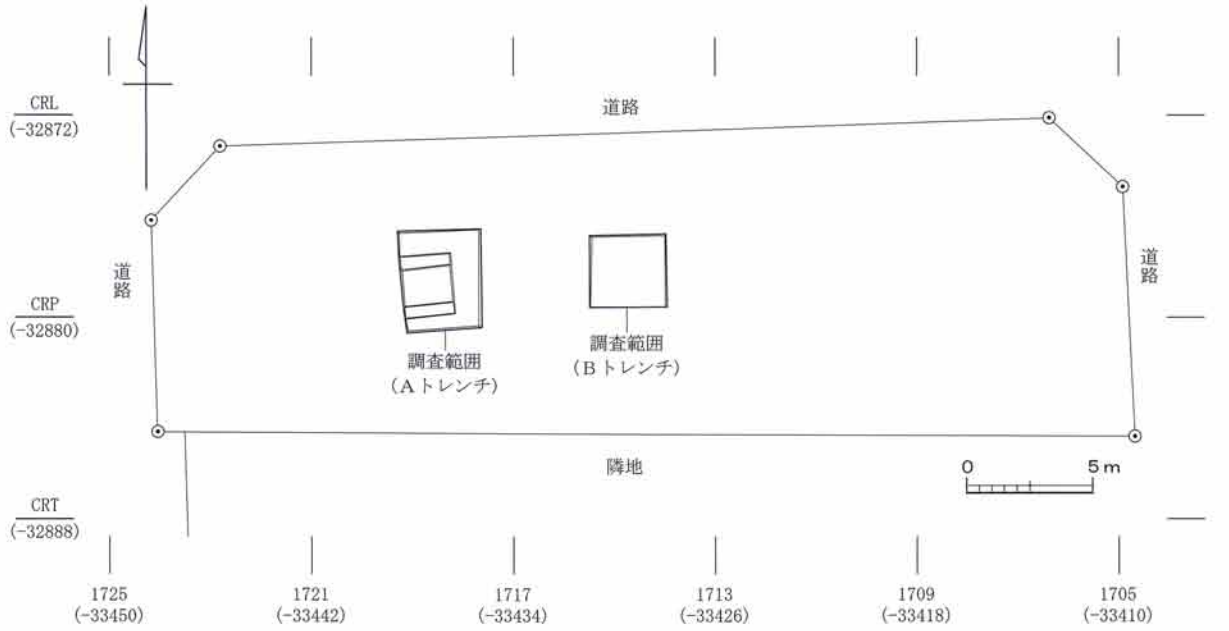
第143図 Aトレンチ縄文時代確認状況全景（西から）



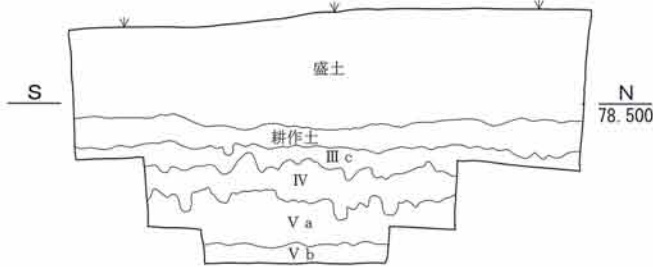
第144図 Aトレンチ旧石器時代確認状況全景（東から）



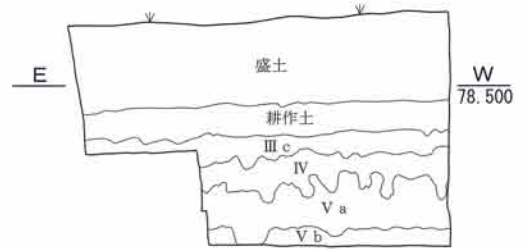
第145図 Bトレンチ調査区全景（北から）



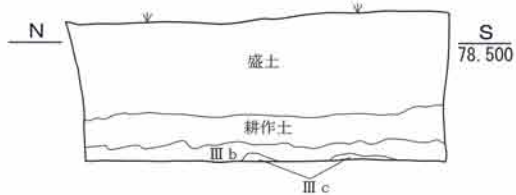
Aトレンチ西壁断面



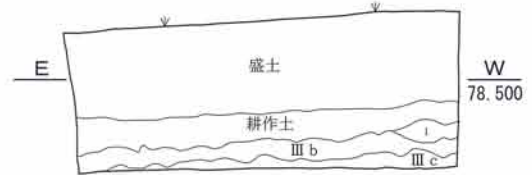
Aトレンチ南壁断面



Bトレンチ東壁断面



Bトレンチ南壁断面



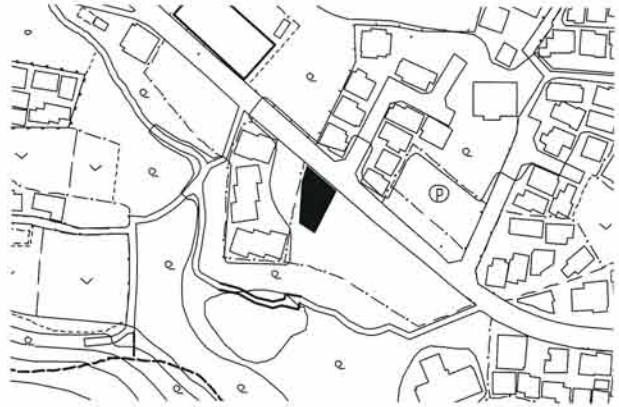
I 暗茶褐色土 粘性なし、しまりきわめて良好、表土とIII bの互層。



第 146 図 K 3 7 - 9 調査地全体図 (1/300)・土層柱状図垂直 (1/100)・水平 (1/300)・断面図 (1/60)

(12) 東山道武蔵路第2次

所在地	国分寺市西恋ヶ窪 1-8-26		
調査原因	分譲住宅建設		
調査期間	平成24年9月10日		
調査面積	12.68 m <sup>2</sup>	遺物箱数	なし
検出遺構	なし		
主な遺物	なし		



第147図 K58-2 調査地位置図

調査区は、東山道武蔵路（No.58 遺跡）に該当する。恋ヶ窪谷の低地部分にあたり野川の源流の一つである湧水地の姿見の池の北側に位置する。

当該地は、奈良・平安時代の遺構や遺物が存在する可能性があるため、建物基礎および給排水管の埋設によって遺構に影響が及ぶ範囲を対象として、より詳しく埋蔵文化財の有無・内容・性格等を把握する目的で、3箇所（A・B・C トレンチ）に調査区を設定し、確認調査を行った。

調査面積は12.68 m<sup>2</sup>である。現地調査は平成24年9月10日に実施した。

A トレンチは地表下約30～70 cm、B トレンチは地表下約30 cm、C トレンチは地表下約30 cmまで、それぞれ掘削工事によって遺跡に影響が及ぶ可能性のある深度まで遺構確認を行ったが、基本層序I層中（盛土）であり、遺構および遺物は検出されなかった。



第148図 K58-2 調査地全体図 (1/250)

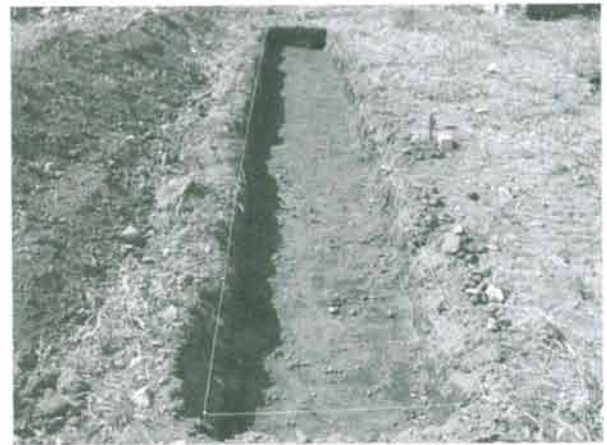




第149図 東山道武蔵路推定通過ライン



第150図 Aトレンチ全景(南から)



第151図 Bトレンチ全景(東から)



第152図 Cトレンチ全景(南から)

第4節 試掘調査

(1) 東恋ヶ窪6-10-5地点

所在地	国分寺市東恋ヶ窪6-10-5		
調査原因	分譲住宅建設		
調査期間	平成24年7月23日		
調査面積	7.38 m <sup>2</sup>	遺物箱数	なし
検出遺構	なし		
主な遺物	なし		



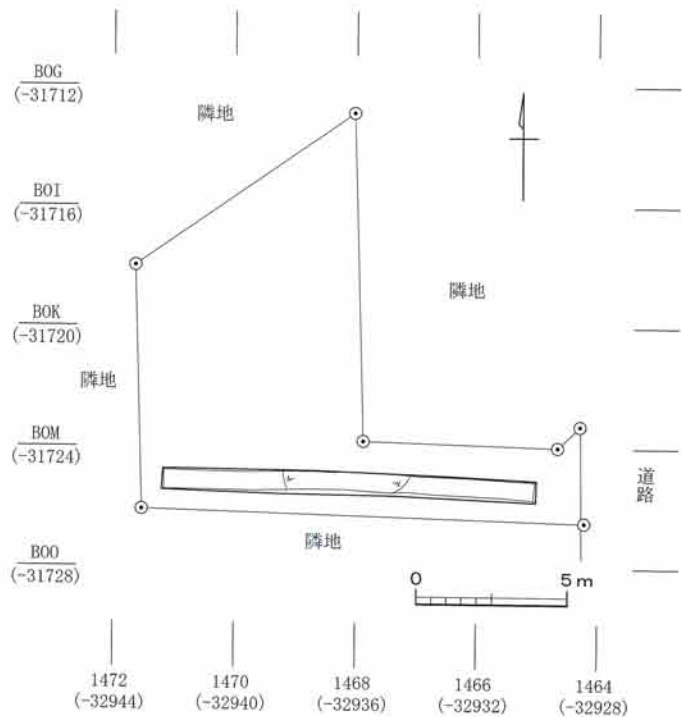
第153図 東恋ヶ窪6-10-5地点調査地位置図

調査地は、周知の埋蔵文化財包蔵地の範囲外であるが、市内を南北に縦貫する東山道武蔵路 (No. 58 遺跡) の北側延長線上に近接している。このことから、道路跡等の遺構が発見される可能性があるため、開発事業者と協議のうえ、工事に先立って遺跡の有無を確認する目的で試掘調査を実施した。

調査は、東山道武蔵路の推定通過ルートに直行するように調査区を設定して行った。調査面積は7.38 m<sup>2</sup>である。現地調査は平成24年7月23日に実施した。

調査区内は、地表面から深さ約40～60 cmまで基本層序I層(表土・盛土)に覆われており、その下の基本層序III c～IV層において、遺構確認を行ったが、遺構・遺物は検出されなかった。

今回の調査では、東山道武蔵路およびこれにかかわる遺構は検出されなかったが、東山道武蔵路が本調査区より東側に位置することが確認できた。



第154図 東恋ヶ窪6-10-5地点調査地全体図 (1/250)



第155図 調査区全景 (東から)



## 第3章 まとめ

個人住宅建設に伴う事前調査および民間開発事業に伴う確認調査は、武蔵国分寺跡（No. 10・19 遺跡）17 地区，恋ヶ窪遺跡（No. 2 遺跡）2 地区，殿ヶ谷戸北遺跡（No. 20 遺跡）1 地区，No. 37 遺跡 1 地区，東山道武蔵路No. 58 遺跡（東山道武蔵路）2 地区，東山道武蔵路延長地点における試掘調査 1 地区の計 23 地区である。

武蔵国分寺跡は給排水管理設部分（12 件），建物基礎（3 件），駐車場建設（1 件）を対象として，総面積 200.28 m<sup>2</sup>の調査を行った。寺院地内は 10 件（内尼寺 2 件），寺院地外は 7 件である。その他市内遺跡は，給排水管理設部分（4 件），建物基礎（2 件）を対象として，総面積 56.96 m<sup>2</sup>の調査を行った。周知の包蔵地には当たらないが，東山道武蔵路の延長線上における宅地開発の試掘調査（1 件）7.38 m<sup>2</sup>の調査を行った。

主な調査について下記にまとめる。

武蔵国分僧寺跡では第 683 次調査で，竪穴住居 1 軒（SI815），土坑 2 基（SK3433・3434），小穴 6 基が確認された。遺物は，遺構内外から須恵器，土師質土器，灰釉陶器，男瓦，女瓦（へら書き「□（都）」，埴が出土し，SI815 の床面から 10 世紀代の須恵器坏が出土した。

尼寺跡の調査を行った武蔵国分寺跡第 694 次調査では尼寺伽藍地南辺区画溝（SD34）と考えられる溝跡とこれを切って鎌倉街道と推定される道路遺構（SF 5）とその西側溝（SD335）が検出された。なお，本調査は尼寺伽藍地南辺区画溝の確認を目的とした確認調査で，遺構の配置を平面的に確認し，現地保存としている。尼寺跡における伽藍地区画溝と推定鎌倉街道の新旧関係が確認され，今後，当該地は尼寺の存続時期を知る上でも重要な地点であることが確認された。

東山道武蔵路は，恋ヶ窪 6 丁目地点において東山道武蔵路の延長線上における宅地開発の試掘調査を含め 3 件の調査が行われ，東山道武蔵路第 3 次調査において，東山道武蔵路の東側溝と想定される溝（SD 5）が検出された。今回の 3 件は東山道武蔵路の調査が比較的多い武蔵国分僧尼寺中間地点ではなく，市城北側の恋ヶ窪地区における調査となった。第 3 次調査における SD 5 の検出とともに，恋ヶ窪 6 丁目における試掘調査では遺構は未検出であったものの，周知の包蔵地外における東山道武蔵路の通過ルート of 絞り込みができたことは，重要な成果が得られた調査となった。

縄文時代の調査では，恋ヶ窪遺跡第 92 次調査では，竪穴住居（SI159J）の一部を検出した。覆土中および床面直上より出土した土器は勝坂期を主体とした時期であり，住居の時期も概期に相当すると考えられる。恋ヶ窪遺跡においては既往の調査で想定される中期の集落中心よりやや北西にあたるものの，住居が点在する様相が看取され，中心集落とその周辺域での集落の変遷を明らかにする上での情報が得られた。

最後になりましたが，本書に収載した個々の緊急発掘調査にあたっては，地権者の皆様ならびに施工業者様のご理解とご協力なくしては到底実現し得なかったものです。調査に関係されました皆様には，改めて感謝の意を表します。



# 報告書抄録

ふりがな	へいせい24ねんどこくぶんじしまいぞうぶんかざいちょうさねんぼう							
書名	平成24年度国分寺市埋蔵文化財調査年報							
編著者名	国分寺市遺跡調査団（団長 坂詰秀一） 上敷領久 中道誠							
編集・発行機関	国分寺市教育委員会							
所在地	〒185-0023 東京都国分寺市西元町1-13-10 武蔵国分寺跡資料館内 TEL 042-300-0073							
発行年月日	平成26（2014）年3月31日							
規格／部数	A4判横組1段 42文字×38行 96頁／300部							
資料の保存 問い合わせ先	国分寺市教育委員会 教育部 ふるさと文化財課 〒185-0023 東京都国分寺市西元町1-13-10 武蔵国分寺跡資料館内 TEL：042-300-0073 FAX：042-300-0091 E-mail：bunkazai@city.kokubunji.tokyo.jp							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m <sup>2</sup>	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	° ' "	° ' "			
むさしこくぶんじあと 武蔵国分寺跡 (第677次)	東京都 国分寺市 東元町	13-214	19	35° 41' 40.8"	139° 28' 42.7"	20120618 ～ 20120619	3.51	個人宅造
	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
	集落跡 道路跡		なし		なし			
むさしこくぶんじあと 武蔵国分寺跡 (第679次)	東京都 国分寺市 西元町	13-214	19	35° 41' 20.9"	139° 28' 27.9"	20120627	1.31	個人宅造
	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
	集落跡 道路跡		なし		なし			
むさしこくぶんじあと 武蔵国分寺跡 (第682次)	東京都 国分寺市 泉町	13-214	19	35° 41' 49.2"	139° 28' 28.4"	20120702 ～ 20120703	4.33	個人宅造
	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
	集落跡 道路跡		なし		なし			
むさしこくぶんじあと 武蔵国分寺跡 (第681次)	東京都 国分寺市 西元町	13-214	19	35° 41' 19.8"	139° 28' 4,19"	20120717 ～ 20120726	8.85	個人宅造
	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
	集落跡 道路跡	古代	小穴2基（P-1・2）		鉄滓			

ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m <sup>2</sup>	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	° / ' "	° / ' "			
むさしこくぶんじあと 武蔵国分寺跡 (第 684 次)	東京都 国分寺市 西元町	13-214	10・19	35° 41' 34"	139° 28' 29"	20120924 ～ 20120928	33.56	個人宅造
	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項		
	集落跡 道路跡	古代	土坑 1 基 (SK3435)		瓦			
むさしこくぶんじあと 武蔵国分寺跡 (第 685 次)	東京都 国分寺市 東元町	13-214	19	35° 41' 43.2"	139° 28' 38.9"	20121009 ～ 20121018	17.01	個人宅造
	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項		
	集落跡 道路跡	縄文時代	小穴 1 基 (PJ- 1)		なし			
むさしこくぶんじあと 武蔵国分寺跡 (第 689 次)	東京都 国分寺市 泉町	13-214	19	35° 41' 51.6"	139° 28' 29"	20130122 ～ 20130124	2.17	個人宅造
	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項		
	集落跡 道路跡	縄文時代	なし		縄文土器 石器			
むさしこくぶんじあと 武蔵国分寺跡 (第 693 次)	東京都 国分寺市 西元町	13-214	10・19	35° 41' 27"	139° 28' 29.4"	20130222 ～ 20130227	5.52	個人宅造
	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項		
	集落跡 道路跡		なし		なし			
こいがくばいせき 恋ヶ窪遺跡 (第 91 次)	東京都 国分寺市 西恋ヶ窪	13-214	2	35° 42' 8.5"	139° 28' 8"	20130213 ～ 20130214	3.55	個人宅造
	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項		
	集落跡		なし		なし			
こいがくばいせき 恋ヶ窪遺跡 (第 92 次)	東京都 国分寺市 西恋ヶ窪	13-214	2・58	35° 42' 10.9"	139° 28' 10.4"	20130307 ～ 20130321	13.93	個人宅造
	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項		
	集落跡 道路跡	縄文時代 古代	竪穴住居 1 軒 (SI195J) 溝 1 条 (SD 5)		縄文土器 石器			

ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	° ' "	° ' "			
むさしこくぶんじあと 武蔵国分寺跡 (第 676 次)	東京都 国分寺市 西元町	13-214	10・19	35° 41' 25.9"	139° 28' 28.2"	20120521 ～ 20120525	8.37	分譲住宅建設
	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項		
	集落跡 道路跡		なし		なし			
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	° ' "	° ' "			
むさしこくぶんじあと 武蔵国分寺跡 (第 678 次)	東京都 国分寺市 西元町	13-214	10・19	35° 41' 35.7"	139° 28' 19.5"	20120625 ～ 20120702	11.31	分譲住宅建設
	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項		
	集落跡 道路跡	古代	不明掘込 1 基 (SX334)		土器 瓦 石製品			
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	° ' "	° ' "			
むさしこくぶんじあと 武蔵国分寺跡 (第 683 次)	東京都 国分寺市 西元町	13-214	10・19	35° 41' 29.9"	139° 28' 11.9"	20120827 ～ 20120913	44.73	集合住宅建設
	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項		
	集落跡 道路跡	古代	竪穴住居 1 軒 (SI815) 土坑 2 基 (SK3433・3434) 小穴 6 基 (P-1～6)		土器 瓦 埴			
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	° ' "	° ' "			
むさしこくぶんじあと 武蔵国分寺跡 (第 687 次)	東京都 国分寺市 西元町	13-214	19	35° 41' 35.8"	139° 28' 5.5"	20121026 ～ 20121101	6.13	分譲住宅建設
	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項		
	集落跡 道路跡		なし		なし			
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	° ' "	° ' "			
むさしこくぶんじあと 武蔵国分寺跡 (第 688 次)	東京都 国分寺市 東元町	13-214	19	35° 41' 40.9"	139° 28' 49.7"	20121119 ～ 20121127	19.40	その他建物建設
	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項		
	集落跡 道路跡	縄文時代	なし		縄文土器			
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	° ' "	° ' "			
むさしこくぶんじあと 武蔵国分寺跡 (第 690 次)	東京都 国分寺市 西元町	13-214	10・19	35° 41' 23.2"	139° 28' 9.4"	20130212 ～ 20130214	3.22	集合住宅建設
	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項		
	集落跡 道路跡		なし		なし			



ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m <sup>2</sup>	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	° / ′	° / ′			
むさしこくぶんじあと 武蔵国分寺跡 (第691次)	とうきょうと 東京都 こくぶんじし 国分寺市 にしもとまち 西元町	13-214	10・19	35° 41′ 23.2″	139° 28′ 9″	20130212 ～ 20130214	3.40	個人住宅兼 店舗建設
	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項		
	集落跡 道路跡		なし		なし			
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m <sup>2</sup>	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	° / ′	° / ′			
むさしこくぶんじあと 武蔵国分寺跡 (第692次)	とうきょうと 東京都 こくぶんじし 国分寺市 いづみちょう 泉町	13-214	19	35° 41′ 48.1″	139° 28′ 27.3″	20130204 ～ 20130208	19.13	道路
	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項		
	集落跡 道路跡	古代	小穴1基 (P-1)		土器			
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m <sup>2</sup>	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	° / ′	° / ′			
むさしこくぶんじあと 武蔵国分寺跡 (第694次)	とうきょうと 東京都 こくぶんじし 国分寺市 にしもとまち 西元町	13-214	10・19	35° 41′ 20.9″	139° 28′ 2.5″	20130314 ～ 20130322	8.33	個人宅造
	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項		
	集落跡 道路跡	古代	道路(SF5) 溝2条(SD34・335)		土器			
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m <sup>2</sup>	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	° / ′	° / ′			
No. 37 遺跡 (第9次)	とうきょうと 東京都 こくぶんじし 国分寺市 にしこいがくぼ 西恋ヶ窪	13-214	37	35° 42′ 11.1″	139° 27′ 50.1″	20120827 ～ 20120831	19.81	その他建物建設
	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項		
	散布地		なし		なし			
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m <sup>2</sup>	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	° / ′	° / ′			
とうきょうと 東京都 こくぶんじし 国分寺市 にしこいがくぼ 西恋ヶ窪 とうきょうと 東京都 こくぶんじし 国分寺市 あひら 東山道武蔵路 (第2次)	13-214	58	35° 42′ 2.7″	139° 28′ 9.3″	20120910	12.68	分譲住宅建設	
	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項		
	道路跡		なし		なし			
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m <sup>2</sup>	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	° / ′	° / ′			
とのがやときたいせき 殿ヶ谷戸北遺跡 (第4次)	とうきょうと 東京都 こくぶんじし 国分寺市 みなみちやう 南町	13-214	20	35° 41′ 58.9″	139° 29′ 16.6″	20121001	6.99	集合住宅建設
	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項		
	集落跡	縄文時代	なし		縄文土器			

ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m <sup>2</sup>	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	° ' "	° ' "			
	東京都 国分寺市 東恋ヶ窪	13-214	—	35° 42' 48.7"	139° 28' 9.4"	20120723	7.38	分譲住宅建設
	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項		
			なし		なし			

## 平成 24 年度 国分寺市埋蔵文化財調査年報

発行日 平成 26 年 (2014) 3 月 31 日  
 編著者 国分寺市教育委員会・国分寺市遺跡調査会  
 発行者 国分寺市教育委員会 教育部 ふるさと文化財課  
 〒 185 - 0023 東京都国分寺市西元町 1 - 13 - 10  
 武蔵国分寺跡資料館内  
 TEL 042 - 300 - 0073  
 印刷会社 株式会社 プリントショップ国分寺  
 〒 185 - 0021 東京都国分寺市南町 2 - 10 - 8  
 TEL 042 - 327 - 4311

紙質

表紙：アートポスト 菊判 125 kg 本文：マットコート A判 44.5 kg  
 表紙写真：恋ヶ窪遺跡第 92 次調査出土縄文土器

令和 4 年 (2022) 3 月 2 日 デジタル版作成